609-14
1200800058964
609
14

5.7.26

СОВЕТСКИЙ СПРАВОЧНИК

500

ソヴェト・ロシア辞典

ロシア問題研究所編著

凡例

一、この辭典は、「第一部」、「第二部」、および「附錄」の三つの部分から成る。

二、第一部においては、主としてソヴェト・ロシアにおける制度、組織、歷史、地理、その他を取扱つた。ソヴェト・ロシアに直接關係のない事項でも、我々がソヴェト・ロシアの文獻を讀む場合に比較的屢々當面する事項は、これを收錄した。例へば、國際社會運動の重要な歷史や、世界大戰後の諸種の國際會議や、ソヴェト・ロシアの周圍にある新興諸國に關する事項の如きが、それである。

三、第二部は、人名篇である。主としてソヴェト・ロシアのために活動した、また現在活動しつゝある人々を收めたが、ロシアの最も有名な政治家、社會運動家、藝術家等は存命者と故人とに別なく、傾向の如何を問はず、これに收めた。

四、第一部及び第二部のために、卷頭へ索引を附しておいた。閱覽にあたつては、この索引を利用されたい。索引及び本文の編纂はアイウエオ五十音順によつた。煩雜をさけ假名づかひを區別することをせず、「キ」は「イ」の部に、「チ」は「オ」の部に、また「エ」は「エ」の部に統一した。更に濁音や半濁音に關係なく、最初の音と次の音との關係にしたがつて編纂した。外國語の發音から或る言葉を引く場合、假名づかひ、清音、濁音、半濁音等の區別に煩はされる不便を避けるためである。最初、ロシア語の綴り音にしたがつて「ティ」と「チ」とは嚴格に區別するつもりであつたが、これも煩雜をさけるため「ティ」は「チ」に統一することゝした。

五、本文中、ソヴェト共和國名を簡略して、「ロシア社會主義聯邦ソヴェト共和國」を「ロシア社・聯・ソ・共和國」といふ如くした。ソヴェト社會主義共和國聯邦を單に「ソヴェト・ロシア共和國」とした場合もある。

609-14

普及版刊行に際して

こゝに第三版を印刷に附する「ソヴエト・ロシア辭典」が、尚ほ避けがたい幾多の缺陷をもつてゐたにも拘はらず好評をもつて迎へられ、茲に普及廉價版を刊行するに至つたのは、編著者たる私の大きな喜びである。

私がこの辭典の編纂に手を染めたのは一九二七年の秋で、それが脫稿したのは翌一九二八年の春であつた。第一版はその年の九月に刊行され、一ケ月の後に再版を印刷した。

從つて、それに收められた所のものは校正中に加筆した點を考慮においても、一九二八年夏までの事象に止まるのである。再版に際しても氣づいた誤植を正した以外に、何ら改訂を加へる遑がなかつた。そして最近では、改訂增補を希望しながらも他の仕事に迫れて果さず、品切のまゝに若干の時を經過する外はなかつた。

いま發行者の希望にしたがつて改訂增補版を印刷に附することゝなつた。しかし上述の事情によつて、第一部 事項篇）と第二部（人名篇）は極く必要なその後の變化に對して加筆改訂を施こし、且つ誤植を正して殆んど全體的に舊版の紙型を用ゐることゝした。

そして增補のためには新たに「第三部」を設けてこれを「增補篇」とした。この增補篇では、主として一九二八年以降、卽ちソヴエト聯邦が現在世界注目の焦點となつてゐる「經濟發展五ケ年計畫」の實施に着手した以後の變化と實績とを中心に解說的な形で增補することゝした。

この增補篇に編入したものは、經濟發展五ケ年計畫の概觀、國內經濟の現勢（五ケ年計畫第一年度及び第二年度の實績）對外經濟關係の現勢、全聯邦共產黨の現勢、ソヴエト聯邦統計概觀、重要職員表、改訂重要地名表等である。

このうちソヴエト聯邦統計概觀は一九二八年までを含む第一版以來のものを殘した。

讀者は、極く最近の經濟的情勢を知らうとする場合にはまづ增補篇の最初の部分に注意を向け、より以前の統計に

凡例

六、卷末に、現在ソヴエト・ロシアにおいて廣く使はれる新熟語、略語の簡單なる露和字引を添えておいた。これは本文第一部に編纂されてある事項の露語索引を兼ねるものであるが、必らずしもその範圍に限定することをしなかつた。譯語のみを見て解說を要しない言葉はこの露和字引中にはいつてゐても、本文事項中には入つてゐないし、反對に、露語と邦譯語との對照を必要としないやうな言葉は、この字引には入つてゐない。尚ほ附錄としてソヴエト聯邦及びロシア共和國の憲法、統計概觀、重要職員表等を添えた。憲法の譯出にあたつては、外務省譯編「勞農露國現行重要法令集」中にある譯文を參考した。

七、足らざる點は大方の示敎に俟つて他日版を改めるに際して補訂して行きたいと思ふ。

八、この辭典の校正中にも、殊に人名篇に關しては四五の變化が起つた。例へばゴリキーがロシアに歸り、有名なア・ポグダノフと聯邦人民委員會議々長代理のツュルパが故人となり、新反對派のジノヴィエフ、カーメネフが共產黨に復歸したなど、主なる變化である。或るものはすでに訂正したが、或るものはすでに訂正し得なかつた。この辭典を有效に利用されんとする人々は、變化の都度、それを書き込んで行つていただきたい。

興味をもたるる場合には末尾の「統計概觀」を照合されんことを請ふ。

ひとり經濟問題のみならず、廣く他の方面においてもその後の變化を示したく思ふのであるが、しかし一九二八年以後にソヴェト聯邦で起つた最も重大な事柄は「經濟發展五ヶ年計畫」の問題である。全聯邦共產黨內の論爭（ブハリン等反對派の發生）及び內外にわたる政治現象の一切はこの問題から派生してゐる。從つて我々は注意の焦點をこの問題に集中する心要を感じたのである。爾餘の事項における變化については「第一部」及び「第二部」の個々の項に對する加筆補足をするに止めた。

「五ヶ年計畫」に關しては、ひとり計畫基礎案のみならず、實施年度に入つて以來の實績についても、出來るだけ新らしい信賴するに足る材料を採用することに微力を盡した。

一九三〇年五月

大竹博吉

ソヴェト・ロシア辭典目次

索引

第一部　組織、制度、歷史、地理篇……（一）

第二部　人名篇……（一六三）

第三部　增補篇……（三五三）

經濟發展五ヶ年計畫、經濟發展計畫の實績、全聯邦共產黨の現勢、ソヴェト聯邦統計概觀、改訂重要地名表、重要職員表

附錄

（イ）ソヴェト社會主義共和國聯邦憲法……（三一七）

（ロ）ロシア社會主義聯邦ソヴェト共和國憲法……（三二九）

（ハ）ソヴェト諸機關の圖解、聯邦地圖……（三四三）

（ニ）露和新熟語＝略語辭典……（一）

第一部索引

（制度、組織、歴史、地理篇）

ア

アイゼナッハ派……一
赤き室……一
赤旗勲章……一
アゼルバイジヤン社・ソ・共和國……一
アナーキズム……一
アフガニスタン王國……二
アフランカ……二
アブハジヤ社・ソ・共和國……二
アムテルダム・インタナショナル……二
アルコス商會捜索事件……二
アルハンゲリスカヤ縣……三
アルメニヤ社・ソ・共和國……三
アヴンガルド……三
アンチ・セミチズム……三

イ

イズヴエスチヤ……四
イスクラ……四
一月九日事變……四
一國内社會主義建設問題……四
イワノヴオ・ヴオズネセンスカヤ縣……五
インタナショナル……五
インタナショナル勞働者青年同盟……七
インテリゲンツィヤ……七

ウ

ヴエエスエヌハ……八
ヴエチエカ……八
ヴオツカ解禁……八
ヴエルサイユ平和條約……八
ヴエルサイユ派……九
ヴエルスト……九
ヴオロスチ……九
ヴオロネジ大會……九
ウクライナ社・ソ・共和國……九
ウズベキスタン社・ソ・共和國……九
ウリチマチスト……一〇

エ

英露委員會……一一
英露斷交……一一
エコソ……一二
エコノミズム……一二
エス・エス・エス・エル……一二
エスエル黨……一二
エスデエキ……一三
エストニヤ共和國……一三
エヂンストヴオ……一三
エヌエス黨……一三
エポオ……一三
エルフルト綱領……一三
エンピリオモニズム……一四

オ

オイラトスカヤ自治州……一五
オクチャブリスト……一五
オテチェストヴェンヌイエ・ザヒスキ……一五
オブシチナ……一五
オブホフスカヤ防塞……一五
オプリチナ……一五
オルグビュロー……一五

カ

海外文化連絡協會……一六
解雇手當……一六
外交人民委員部……一六
買取賦金……一六
各區聯合派……一六
學者生活改善中央委員會……一六
革命委員會……一七
革命裁判所……一七
カザツク……一七
カバルヂノ・バルカルスカヤ自治州……一七
カムチャトカ……一七
カラチェヴォ・チェルケスカヤ自治州……一七
カルムイツカヤ自治州……一八
カレリスカヤ勞働コンミュン……一八
カンヌ會議……一八
幹部會……一九

キ

休養の家……二〇
貴族制度……二〇
共產主義……二〇
共產黨……二〇
アメリカ共產黨……二〇
アルゼンチン共產黨……二〇
イギリス共產黨……二〇
イタリー共產黨……二〇
ウルグワイ共產黨……二〇
エストニア共產黨……二〇
オースタリー共產黨……二一
オーストラリヤ共產黨……二一
オランダ共產黨……二一
ギリシヤ共產黨……二一
キューバ共產黨……二一
コロンボ共產黨……二一
スイス共產黨……二一
スウェデン共產黨……二一
スペイン共產黨……二一
チェコスロヴァク共產黨……二二
チリー共產黨……二二
デンマーク共產黨……二二
ドイツ共產黨……二二
東洋諸國共產黨……二四
ノールウェイ共產黨……二四
パラグワイ共產黨……二四
ハンガリー共產黨……二四
フィンランド共產黨……二四
ブラジル共產黨……二四
フランス共產黨……二四
ブルガリア共產黨……二五
ベルギー共產黨……二五
ポーランド共產黨……二五
ホルトガル共產黨……二五
メキシコ共產黨……二五
ユーゴースラヴ共產黨……二五
ラトヴイヤ共產黨……二五
リソアニア共產黨……二五
ルーマニア共產黨……二五
ロシア共產黨……二六
共產黨インタナショナル……二六
共產黨インタナショナル執行委員會……二七
共產黨インタナショナル青年同盟……二七
共產黨少年團……二七
共產黨史料調査部……二七
共產黨宣言……二八
共產黨大學……二八
共產黨中央委員會……二八
共產黨中央統制委員會……二八
共產農業經營……二八
協調審議委員會……二八
協同組合……二九
消費協同組合……三〇
農業協同組合……三一
手工業協同組合……三一
信用組合……三一
住宅協同組合……三一
協同組合縣支部……三二
極左共產黨……三二
虛無主義……三二
義勇艦隊……三二
義勇化學協會……三二
義勇航空艦隊……三二
キルギス自治共和國……三二
銀行國有化……三二

ク

グプソエズ……三四
グラフキズム……三四
グラフ・ポリト・プロスヴェト……三四
グルジンスカヤ社・ソ・共和國……三四
クリミヤ社・ソ・自治共和國……三四
クレストインテルン……三四
クレスト監獄……三五
クレムリン……三五
クロンシタット事變……三五
クロンシタット反亂……三五
軍事產業委員會……三五
軍事總教育……三六
軍縮とソヴェト・ロシア……三六
軍隊政治教育本部……三六

ケ

計劃經濟……三七
經濟區域制度……三七
經濟主義……三八
經濟評議會……三八
ゲペウ……三八
縣執行委員會……三八
縣ソヴェト大會……三九
縣黨務委員會……三九
憲法……三九
憲法會議……三九

現物稅制度……四〇
コ
公安局……四一
工業銀行……四一
工場委員會……四一
工場徒弟學校……四一
鄉執行委員會……四一
黃色インタナショナル……四二
黃色勞働組合……四二
交通人民委員部……四二
合法的マルクス主義……四二
合辦會社……四二
五月一日祭……四二
國營保險局……四三
國營勞働者社會保險……四三
國　會……四三
國家計畫委員會……四三
國家資本主義……四三
國家政治保安部……四三
黑色百人組……四四
國際宣傳委員會……四四
國際坑夫親善……四四
國際聯盟……四四
國際勞働組合評議會……四五
國際革命戰士救援協會……四六
國　章……四六
國民社會黨……四六
國立銀行……四六
國　有化……四六
國有貿易制度……四六
ゴスイズダト……四六
ゴスキノ……四六
ゴスプラン……四六
ゴータ綱領……四六
コミッサール……四六
コムインテルン……四六
ゴルスカヤ社・ソ・自治共和國……四七
ゴルソヴェト……四七
コロコル……四七
ゴロス・トゥルダー……四七
コンムーナ……四八
コンムナール……四八
コンムニスト……四八
サ
在外ロシア社會民主勞働黨中央委員部……四九
最高國民經濟會議……四九
財政人民委員部……四九
細　胞……四九
サマラ縣……四九
ザリヤ……四九
三インタナショナル伯林會議……四九
三月革命……五〇
三月十八日一揆……五〇
產業仲裁委員會……五〇
產業ピュロー……五〇
三田法耕作……五〇
シ
ジーズニ……五一
十一月革命……五一
十月黨……五一
十月革命……五一
十月大罷業……五二
修正主義……五二
十二月黨……五二
十二月モスクワ一揆……五三
ジェンアッデェル……五三
シオニズム……五三
住宅組合……五三
時間外勞賃……五三
自治共和國……五四
自治州……五四
七月事變……五四
失業問題……五四
執行委員會……五四
執行政權……五五
司法人民委員部……五五
支那から手を放せ協會……五五
ジノヴィエフ書翰……五五
資本主　家內工業……五六
シベリア革命委員會……五六
市民戰爭……五六
社會革命黨……五七
社會保險……五七
ジャコベン黨……五七
上海事件……五七
手工業……五七
召還權……五八
小規模產業……五八
小人民委員會議……五八
傷病保險組合……五八
商品ルーブル……五八
職業紹介所……五九
食糧徵發制度……五九
シリセリブルグ要塞監獄……五九
新經濟政策……五九
新々經濟政策……六〇
シンヂケート……六〇
新反對派……六一
人民委員……六一
人民委員會議……六一
人民委員部……六二
人民裁判所……六三
人民主義……六三
人民の意志團……六三
カザンスキー廣場示威運動事件……六三
五十人裁判事件……六四
百九十三人裁判事件……六四
ヘルソン金庫破り事件……六四
十六人裁判事件……六四
三月一日大逆事件……六四
二十人裁判事件……六四
二十三人裁判事件……六四
フィグネル裁判事件……六五
ロパーチン裁判事件……六五
一八八七年三月一日事件……六五
人民の意志派の飛片……六五
人民派・共產黨……六五
ス
スヴェルドロフ大學……六六

ズヴェズダ……六六
ズバートフ主義……六六
スパルタックス……六六
スペェツ……六六
スラヴ主義……六六

セ

西歐主義……六八
正教派……六八
政教分離……六八
生産宣傳……六八
清算派……六八
清黨……六九
正統マルクス主義……六九
政治解放勞働黨……六九
セーヴル條約……六九
赤軍……六九
赤衞隊……七〇
赤色國際農民組合……七〇
赤色國際勞働組合……七〇
赤色支配人……七〇
赤色少年團……七一
赤色スポーツマン國際……七一
赤色テロル……七二
ゼノア會議……七二
ゼムリヤ・イ・ヴオリヤ……七三
一九〇五年革命……七三
一九一七年革命……七三
選擧權……七三
煽動者……七四
前衞隊……七四
全聯邦共産黨……七四
全聯邦共産黨綱領……七九
全聯邦共産黨レニン青年同盟……七九
全聯邦勞働組合……七九
全聯邦勞働組合中央評議會……七九
全露協同組合銀行……八〇
全露ソヴェト大會……八〇
全露中央執行委員會……八〇
全露農民大會……八一

ソ

ソヴェト共和國……八二
ソヴェト憲法……八三
ソヴェト經營農場……八三
ソヴェト刑法……八三
ソヴェト工場法……八三
ソヴェト裁判制度……八三
ソヴェト紙幣……八四
ソヴェト政權……八四
ソヴェト政權の機構……八四
ソヴェト稅制……八五
ソヴェト大會……八五
ソヴェト聯邦……八六
ソヴェト聯邦の憲法……八七
ソヴェト勞働法典……八九
相互扶助保險組合……八九
ソヴレメンニク……八九
訴願局……八九

タ

大祭日……九〇
第二インタナショナル……九〇
第二半インタナショナル……九〇
大連會議……九〇
タヴリーチェスキー宮殿……九〇
ダゲスタン社・ソ・共和國……九〇
タタールスカヤ社・ソ・自治共和國……九〇
ダーダネルス海峽問題……九一
タッス……九一
單一消費組合……九一
團體雇傭契約……九一
團體農業經營……九一

チ

中央委員會……九二
中央政權……九二
中央政治教育委員會……九二
中央統計院……九二
中央統制委員會……九二
中立保障條約……九二
中央勞働研究所……九三
中央利權委員會……九三
チェルヴオネツ……九三
チェカ……九三
チェルノソーテンツイ……九三
血の日曜日……九三
地方集會……九三
地方ソヴェト自治權……九四
長春會議……九四
チョルヌイ・ペレデェル派……九四
チュソシスカヤ自治州……九五
賃銀契約……九五
チンメルワルド會議……九五
賃率綱……九六

ツ

ツアリ……九六
通商代表機關……九六
ツェカ……九六
ツェントロ・ソユーズ……九六

テ

テェスニヤキ……九七
デェロ・ナローダ……九七
デカブリスト……九七
デシャチーナ……九七
テルミドール政變……九七
テロル……九七
電化計畫……九八

ト

獨逸人勞働コンムーナ……九九
ドイツ農民戰爭……九九
黨學校……九九
ドウプス案……九九
投票權……一〇〇
東洋勞働者共産大學……一〇〇
トゥルドウィキ……一〇〇
讀書小屋……一〇一
都市聯盟……一〇一
土地改革派……一〇一
土地共有體……一〇一
土地國有化……一〇一
土地と自由……一〇二
土曜勞働デー……一〇三
トラスト化政策……一〇三

トルキスタン社・ソ・自治共和國 …一〇三
土耳古 …一〇三
トルコメン社・ソ・共和國 …一〇四
トレチャコフ美術館 …一〇四
トロツキズム …一〇四

ナ

內務人民委員部 …一〇六
ナルコマート …一〇六
ナル・コム …一〇六
ナロドナヤ・ヴォリヤ …一〇六
ナロドヌイ・コミッサリアート …一〇六
ナーシェ・デェロ …一〇六
ナチャロ …一〇六
南露勞働者同盟 …一〇六

ニ

二月革命 …一〇七
二月十九日大改革 …一〇七
日露戰爭 …一〇七
ニヒリズム …一〇七

ネ

ネップ …一〇八
ネップマン …一〇八
ネデェリヤ …一〇八

ノ

農業アルテル …一〇九
農業單一稅 …一〇九
農村通信員 …一〇九
農奴解放 …一〇九
農奴工場 …一〇九
農奴所有權 …一〇九
農務人民委員部 …一一〇

ハ

バーゼル大會 …一一一
白色テロル …一一一
白色不良青年 …一一一
白ロシア社・ソ・共和國 …一一一
鋏形恐慌 …一一二
バシキル社・ソ・自治共和國 …一一二
パシフィズム …一一二
八月プロック …一一二
パトラク …一一三
巴里コンミユン …一一三
巴里六月一揆 …一一三
バルカン問題 …一一三
バルチック海 …一一三
春のエポック …一一四
ハンガリー・ソヴェト共和國 …一一四
汎スラヴ主義 …一一四
反帝國主義大會 …一一五
反猶太主義 …一一五

ヒ

罷業運動 …一一六
貧農委員會 …一一六

フ

フィンランド …一一七
復活祭 …一一七
婦人ソヴェト議員 …一一七
婦人部 …一一八
婦人問題 …一一八
フセコバンク …一一八
ブンド …一一八

ヘ

××のプラウダ …一一九
北京ソヴェト大使館捜索事件 …一一九
ヘーグ會議 …一一九
ヘーグ大會 …一一九
ヘーグ平和會議 …一一九
ペトラシェフ派 …一二〇
ペトログラド勞兵會議 …一二〇
ペトロパウロフスク要塞監獄 …一二〇
ペルシヤ …一二〇
ペレコープ …一二〇

ホ

保安警察部 …一二一
ボイコット派 …一二一
防衛派 …一二一
貿易國有制度 …一二一
貿易人民委員部 …一二一
訪露外國勞働代表 …一二一
北露勞働者同盟 …一二二
保健人民委員部 …一二二
ボナパルチズム …一二二
ボヤール …一二二
ポーランド …一二二
ポーランド反亂 …一二二
ボリシェヴィキ …一二三
ボリト・ビュロー …一二三
ホレズム國民ソヴェト共和國 …一二三
ボロヂビスト …一二三

マ

マキシマリスト …一二四
マッソン …一二四
マリースカヤ自治州 …一二四
マルクス主義とロシア …一二四

ミ

民主的中央集權主義 …一二五
民族政策 …一二五

ム

無學撲滅運動 …一二六
無政府主義 …一二六
不斷革命論 …一二八
ブトゥイルキ …一二八
ブハラ …一二八
フペリョド …一二八
プラウダ …一二九
プランキズム …一二九
フランス大革命 …一二九
プリヤト・モンゴリヤ社・ソ・自治共和國 …一三〇
プリンス島會議 …一三〇
ブルュメール十八日政變 …一三〇
ブルヂヤン國會 …一三一
ブレスト媾和條約 …一三一
浮浪兒 …一三一
プロフインテルン …一三一
プロム・バンク …一三一
プロレタリアート …一三二
プロレタリー …一三二
プロレタリア獨裁 …一三二
プロレタリア百人組 …一三二

ムダン會議……一三三
ムルマン……一三三

メ

命令第一號……一三四
メジライオンツイ……一三四
メンシェヴィキ……一三四
メンシェヴィキ・インタナショナリスト……一三五
メンシェヴィキ積極派……一三五
メーデー……一三五
メー、デー……一三五

モ

目標轉換派……一三六
モスクワ……一三六

ヤ

ヤクーツカヤ社・ソ・自治共和國……一三七
ヤクーツク悲劇……一三七
ヤチェイカ……一三七

ユ

郵電人民委員部……一三八
猶太人……一三八
猶太人虐殺……一三八

ラ

ライコム……一三九
ライソヴェト……一三九
ラコヴスキー大使召還事件……一三九
ラーダ……一三九
ラッパロ條約……一三九
ラトヴィヤ……一三九
ラポーチェエ・デーロ……一四〇
ラポーチャヤ・ムイスリ……一四〇
ラポートニク……一四〇

リ

リーベル・ダン派……一四一
リガ媾和條約……一四一
リクヴィダートル……一四一
陸海軍人民委員部……一四一
利權政策……一四一
立憲民主黨……一四二
臨時革命政府……一四二

ル

ルースカヤ・ムイスリ……一四三
ルースキエ・ヴェドモスチ……一四三
ルースコエ・スローヴォ……一四三
ルースコエ・ボガートストヴォ……一四三
ルーチ……一四三
ループリ……一四三
ルーマニア……一四四
ルーリ……一四四

レ

レヴォリュツョンナヤ・ロシア……一四五
レーチ……一四五
レナ射殺事件……一四五
レニニズム……一四五
レニングラード……一四七
レフコム……一四七
聯邦ソヴェト大會……一四七
聯邦中央執行委員會……一四七
聯邦中央執行委員會幹部會……一四八

ロ

勞働及防衛會議……一四九
勞働階級解放鬪爭同盟……一四九
勞働解放團……一四九
勞働宮殿……一五〇
勞働組合運動……一五〇
勞働組合蠟支部……一五二
勞働組合問題論爭……一五三
勞働者アルテル……一五三
勞働者クラブ……一五三
勞働者社會保險……一五三
勞働者代議員ソヴェト……一五三
勞働者通信員……一五四
勞働者反對派……一五四
勞働者豫備校……一五四
勞働人民委員部……一五四
勞働賃銀鐵則……一五五
勞働被搾取民の權利宣言……一五五
勞農監督人民委員部……一五五
勞兵會議……一五五
ロカルノ條約……一五五
六月十八日大示威……一五五
ロザンヌ會議……一五六
ロシア革命運動……一五六
ロシア共産黨……一五七
ロシア共産黨綱領……一五七
ロシア藝術院……一五八
ロシア社・聯・ソ・共和國……一五八
ロシア社・聯・ソ・共和國の憲法……一五八
ロシア社會民主勞働黨……一五九
ロシア社會民主勞働黨の宣言……一五九
ロシア諸民族の權利宣言……一五九
ロシア正式承認……一六〇
ロシア第一革命……一六〇
ロシア第二革命……一六〇
ロシア電化政策……一六〇
ロシア東方商業會議所……一六〇
ロシアに於けるマルクス主義……一六一
ロシアの友……一六一
ロシア勞働組合運動……一六一
ロスタ……一六一
ロチデル主義協同組合……一六一
ロシアから手を放せ協會……一六一
ローテ・ファネ……一六一

ワ

ワシントン會議……一六一

第二部索引【人名篇】

ア

アウイーロフ……一六二
アヴクセンチエフ……一六三
アクセリロード……一六三
アクセリロード女史……一六四
アゼフ……一六四
アレクサンドロフ……一六四
アレクシンスキー……一六四
アレクセーフ……一六五
アヲネーソフ……一六五
アンチポフ……一六五
アントノフ・オフセンコ……一六五
アンドレーフ……一六六

ウ

ウイッテ伯……一六七
ヴィノクーロフ……一六七
ウォーリン……一六七
ウォリスキー……一六七
ヴィレンスキー・シビリャコフ……一六七
ウォルギン……一六八
ヴォロシーロフ……一六八
ヴォロフスキー……一六九
ヴォロンスキー……一六九
ウグラノフ……一六九
ウハーノフ……一七〇
ウラヂミルスキー……一七〇
ウリヤーノフ……一七〇
ウリヤノヲ女史……一七一
ウルイヲエフ……一七一
ウンシリフト……一七一

エ

エセーニン……一七二
エニケエフ……一七二
エヌキヅゼ……一七二
エフドキーモフ……一七二
エリアヲ・シャルフ……一七二
エリザロヲ女史……一七三
エリダノハノフータレテミル……一七三

オ

オシンスキー……一七四
オフシャンニコフ……一七四
オリミンスキー……一七四
オルジョニキヅゼ……一七四

カ

カッショル……一七六
ガネツスキー……一七六
カーメネフ……一七六
カーメネフ……一七七
カラコーゾフ……一七七
カラハン……一七七
カリニン……一七七
カルピンスキー……一七八
カルポーヴィチ……一七八

キ

キセリヨフ……一七九
キセリヨフ……一七九
キーロフ……一七九

グ

クイブイシェフ……一八〇
クウィリング……一八〇
グヴオズデフ……一八〇
クスコヲ女史……一八〇
クズネツォフ……一八〇
グーセフ……一八一
グチコフ……一八一
クトゥゾフ……一八一
クピヤク……一八一
クラシン……一八二
クルイレンコ……一八二
クルスキー……一八三
クルッジャノフスキー……一八三
クループスカヤ女史……一八三
クレスチンスキー……一八三
クロポトキン……一八四

ケ

ゲゲチコリ……一八五
ケルジェンツェフ……一八五
ケレンスキー……一八五

コ

コルチャツク……一八六
コガノウイチ……一八六
ココフツォフ……一八六
ゴーゴリ……一八六
ゴリキー……一八六
ゴルブーノフ……一八七
ゴレムキン……一八七
コロチーロフ……一八七
コマロフ……一八七
コロトコフ……一八七
コロレンコ……一八七
コロンタイ女史……一八七

サ

サヴィンコフ……一八八
ザスーリッチ女史……一八八
サゾノフ……一八八
サプロノフ……一八八
ザルツスキー……一八九

シ

シェフチェンコ……一九〇
ジノヴィエフ……一九〇
シピアギン……一九一
ジャパリーゼ……一九一
シュミット……一九一
シュミット……一九一
シュミヤツキー……一九一
ジョルダニア……一九一
シリャプニコフ……一九二

ス

スイルツォフ……一九三
スウィデルスキー……一九三
スヴェルドロフ……一九三
スクリャピン……一九三
スクリャンスキー……一九三
スクルイプニク……一九四

スターリン……一九四
ステクロフ……一九四
ステパノフ……一九五
ストゥチカ……一九五
ストゥルーヴェ……一九五
ストルイピン……一九五
スハーノフ……一九五
スピリドノヲ女史……一九六
スミドウィチ……一九六
スミドウィチ……一九六
スミルガ……一九六
スミルノフ……一九六
スミルノフ……一九七
スミルノフ……一九七
スーリツ……一九七

セ

セマシコ……一九八
セラフィモウィチ……一九八
ゼルヂンスキー……一九八
セレダ……一九九
セレブリャコフ……一九九
ゼレンスキー……二〇〇

ソ

ソコリニコフ……二〇一
ソスノフスキー……二〇一
ソフー……二〇一
ソリツ……二〇一

タ

ダン……二〇二

チ

チェホフ……二〇三
チェルヴャコフ……二〇三
チェルヌイシェフスキー……二〇三
チェルノフ……二〇三
チチェリン……二〇三
チヘェゼ……二〇四
チャイコフスキー……二〇四
チュドフ……二〇四
チュバリ……二〇四

ツ

ツェレテリ……二〇五
ツュルパ……二〇五

テ

ティミリャゼフ……二〇六
デミヤン・ベドゥヌイ……二〇六

ト

トゥガン・バラノフスキー……二〇七
トゥルゲーネフ……二〇七
ドストエフスキー……二〇七
ドガードフ……二〇七
ドブガレフスキー……二〇八
ドブロヴィンスキー……二〇八
トムスキー……二〇八
トロツキー……二〇九
トルストイ……二一〇

ナ

ナポーコフ……二一一
ナリマーノフ……二一一

ネ

ネクラーソフ……二一二
ネクラーソフ……二一二
ネフスキー……二一二

ノ

ノギン……二一三
ノウィツキー……二一三
ノヴォルスキー……二一三

ハ

パウロヴィチ……二一四
バザロフ……二一四
バダエフ……二一四
バフートフ……二一四
ハリトーノフ……二一四
ハルトゥリン……二一四
パルマシェフ……二一五

ヒ

ピサリョフ……二一六
ピヤタコフ……二一六
ヒンチュク……二一六

フ

フィグネル女史……二一七
プガチョフ……二一七
プーシキン……二一七
ブジョンヌイ……二一七
ブルツェフ……二一七
ブハーリン……二一八
ブブノフ……二一八
ブマージヌイ……二一九
ブラゴエフ……二一九
ブリュハノフ……二一九
フルムキン……二一九
フルンゼ……二一九
プレヴェ……二二〇
プレオブラジェンスキー……二二〇
プレシコ・プレシコフスカヤ女史……二二〇
プレトネフ……二二一
プレハノフ……二二一
プロコポヴィチ……二二一

ヘ

ペシェホノフ……二二二
ペトロフスキー……二二二
ペトラシェフスキー……二二二
ペーレンキー……二二二
ペロフスカヤ女史……二二三

ホ

ボグダーノフ……二二三
ボグダーノフ……二二三
ボゴスラフスキー……二二三
ボクロフスキー……二二三
ボボフ……二二四
ボボフ……二二四
ボドウォイスキー……二二四
ボトレソフ……二二四
ホドロフスキー……二二四

マ

マキシモフスキー……二二五
マクラコフ……二二五
マスロフ……二二五
マスロフ……二二五

マヌイリスキー……二二五
マフノ……二二六
マヤコフスキー……二二六
マルトゥイノフ……二二六
マルトフ……二二六

ミ

ミコヤン……二二八
ミハイロフ……二二八
ミハイロフスキー……二二八
ミリュコフ……二二九
ミリュチン……二二九
ミヤスニコフ……二二九

ム

ムラロフ……二三〇

メ

メイエルホリド……二三一
メシチェリヤコフ……二三一
メシチェリヤコフ……二三一
メドウェデフ……二三一
メリニチャノフスキー……二三二
モスクヴィン……二三二
モストヴェンコ……二三二
モロゾフ……二三二
モロトフ……二三二

ヤ

ヤコウレフ……二三三
ヤコウレア女史……二三三
ヤロスラウスキー……二三三

ユ

ユレネフ……二三四

ヨ

ヨギヘス……二三五
ヨツフエ……二三五
ヨルダンスキー……二三五

ラ

ラウロフ……二三六
ラコフスキー……二三六
ラシェウィチ……二三六
ラジン……二三六
ラスコリニコフ……二三七
ラスプーチン……二三七
ラヂシチェフ……二三七
ラデック……二三七
ラピンスキー……二三八
ラファイル……二三八
ラーリン……二三八

リ

リトヴィノフ……二四〇
リーベル……二四〇
リヤザノフ……二四〇
リヤドフ……二四〇
リヤブシンスキー……二四〇

ル

ルズタク……二四一
ルイコフ……二四一
ルイスクロフ……二四二
ルヒモウィチ……二四二
ルトヴィノフ……二四三
ルクセンブルグ女史……二四三
ルナチャルスキー……二四四

レ

レジャワ……二四五
レニン……二四五
レプセ……二四九
レペシンスキー……二四九
レルモントフ……二四九

ロ

ロゴフ……二五〇
ロジコフ……二五〇
ロゾフスキー……二五〇
ロトシテイン……二五一

ワ

ワルジンマゲラズヂエ……二五一

イ
一週五日制度……二六三
エ
沿海州森林利權……二八〇
カ
各國別貿易の概況……二七六
外國利權企業の現勢……二七九
學校網……二七三
キ
協同組合の現勢……二七二
極東露領の漁業……二八一
ケ
經濟發展五ヶ年計畫……二五三
經濟發展計畫の實績……二六一
コ
工業發展の實績……二六八
國民經濟の推進……二六一
國民收入の增大……二六七
サ
最近五ヶ年貿易狀態……二七五
砂金鑛利權……二八〇
財政狀態……二六五
セ
石炭利權……二七九
石油利權……二八八
全聯邦共產黨の現勢……二八八
全聯邦共產黨中央委員……二八九
全聯邦共產黨中央統制委員……二七五
タ
對外貿易の現勢……二八三
對外輸出信用貸問題……二七九
ト
東方諸國との貿易額……二七七
ニ
日露經濟關係の現勢……二八一
日露貿易關係……二八二
日露貿易品目……二七〇
ノ
農業發展の實績……二六三
農業集團化の過程……
ヒ
七時間勞働日……二六三
ヨ
傭船料……二八三

ソヴエト・ロシア辭典

大竹博吉編著

第一部

ア

【アイゼナッハ派】

一八六九年、アイゼナッハ（獨逸）大會において社會民主勞働黨を結成した獨逸マルクス主義者の一派をいふ。此の一派は父リープクネヒト、ベーベル等を首領としラッサアル派と猛烈に鬪爭した。一八七五年に至り此派はラッサアル派と合併し、獨逸社會民主黨となつた。

【赤き室】

ソヴエト聯邦の稍や多數の勞働者がゐる工場や企業には必らず露語で「クラスヌイ・ウゴロータ」と稱ぜられる「赤き室」がある。革命に關する資料や繪畫、圖書などを集め勞働者の文化向上、修養、談話、小集會等の室にあてゝゐる。普通各自の工場の工場委員會が之を管理することになつてゐる。一九二六年現在の統計では全聯邦中にある「赤き室」の總數は二萬一千七百余である。

【赤旗勳章】

ソヴエト聯邦における最高の勳章、赤衞軍の勇士又は勞働戰線における一般の仕事に殊勳ありし者に與へらる。

【アゼルバイジャン社・ソ・共和國】

最初一九一八年バクーに於て建設されたが間もなくトルコ軍の侵入と共にソヴエト政權顚覆し、一九二〇年に至り再興、ロシア社・ソ・聯・共和國と軍事經濟同盟を締結。現在後コーカサス社・聯・ソ・共和國に加盟す。領域五萬平方露里、人口約二百萬、石油（バクー）鹽（アプシロプスキー半島）の産出多く、住民は主として農業牧畜を營む。

【アナーキズム】

有ゆる强制的×××な××し、個性の完全なる自由と基礎とする理想社會を希求する。社會の共同體××××アナーキズムの要求する理想である。アナキーズムの代表

的理論家としてはプルードン、バクーニン、スチルネル、モスト、クロポトキン、レクリュ等が擧げられる。アナーキズムの思潮はまた無政府共産主義（バクーニン、クロポトキン）個人無政府主義（スチルネル、テケル、マ・カイ）基督教無政府主義（トルストイ）アナルコ・サンヂカリズム（ソーレル）等に分たれる。ロシア革命に際してアナーキストは小露西亞の農村においてマフノを頭首とする武裝團體を組織し活動したが幾許もなくソヴエト政權の鎭壓する所となつた。

【アフガニスタン王國】

ソヴエト土耳古斯坦地方と英領印度との中間に介在し、住民約五百萬人、首府カブール。英國は夙にロシア勢力の印度侵入をおそれア國を自己勢力範圍としたが、一九一九年ソヴエト・ロシアの支持をうけて獨立し、現在ソヴエト聯邦との間に友好條約、中立保障條約等を結び密接なる關係にある。

【アフランカ】

「保安警察部」の項を見よ。

【アプハジヤ社・ソ・共和國】

ロシア社・ソ・聯・共和國における自治共和國と同樣の權利のもとにグルヂィヤ社・ソ・共和國に屬す。舊ロシア帝國領クタイスキー縣の一部、領域約五千平方露里、人口十八萬、首府は黑海沿岸のスフム市、住民は牧畜を主とし、煙草の産地として聞ゆ。

【アムステルダム・インタナショナル】

世界大戰後第二インタナショナル復興と共に組織されし國際勞働組合聯合にして、戰後一九一九年二月ベルン會議において組織され各國勞働組合の多數を糾合し、一九二〇年半ばまで世界唯一の國際勞働組合であつた。第三インタナショナル（モスクワ）に對立してプロレタリア××××に反對し勞資協調政策を支持し、國際聯盟勞働局の事業に參加し之と密接なる關係を有す。モスクワに赤色國際勞働組合（プロフインテルン）が組織されて以來前者は國際勞働組合運動の右翼とし、後者は左翼として互に對立す。單一戰線の旗印のもとに兩者の合同が計畫さるゝこと屢々なるも未だ成らず、アムステルダム市に本部を有し加盟者約二千萬と稱せらる「インタナショナル」參照。

【アルコス商會捜索事件】

一九二七年五月十二日ロンドンにあるソヴエト聯邦の對英貿易機關アルコス商會は突然ロンドン警察の手で家宅捜索を行はれた。アルコス商會が英國共産黨とモスクワの共

産黨インタナショナル執行委員會との間に革命陰謀の連絡所になつてゐるといふ嫌疑による。然し其の結果英國政府が何らかの重大なる證據をあげたことは公表されない。一般には英露斷交の豫備行動として捜索が行はれたものと解されてゐる。

【アルハンゲリスカヤ縣】

白海に面するロシアの北部地方ドゥヴィナ河の河口にアルハンゲルスク市（港）あり。一九一八年英佛聯合軍が白衞軍を援けて上陸占領しユデニチ將軍の「北部政府」を此地方に組織したが、一九二〇年赤軍の掃蕩する所となりソヴエト政權に統一さる。

【アルメニヤ社・ソ・共和國】

一九二〇年赤衞軍の同地方占領と共に建設、ザ・コーカサス社・聯・ソ・共和國に屬す。領域約三萬平方露里、首府エリヴァン、住民は農業を主とす。

【アヴンガルド】

「前衞隊」を見よ。

【アンチ・セミチズム】

猶太人排斥の思想、政治的には猶太人の權利に制限を加へんとする要求となつて現はれる。ヨーロッパにおいては中世紀時代より猶太人の公民權に各種の制限が加へられた。例へば猶太人は市の一定區域以外には居住することを許されず、特別の着物を着ることを強制されたりすることも屢々である。アンチ・セミチズムは一時自由主義思想の擡頭と共に衰や緩和されたやうに見えたが、世界大戰後、或る國々ではまた盛んになりつゝある。一八七〇年代に先づ獨逸で起り、それから他の國でも反猶太政黨が起つた。現在でも墺太利、洪牙利、波蘭等には反猶太政黨がある。帝制時代のロシアでは一定の境界を限り中央ロシアの諸縣は特別の場合を除いては、原則として猶太人の居住が許されず官吏になるにも大學に入るにも制限が加へられ、其の居住地方では屢々大衆的虐殺が行はれた。一九〇三年及び一九〇五年には六百六十の地方で猶太人虐殺が行はれた。一九一七年革命後ソヴエト政權は猶太人に對しても他の異民族と同樣に權利の制限を撤廢した。それ以來ロシアの反猶太主義は反革命運動と一脈の連絡をもつて行はれつゝある。反猶太主義の主たる原因は人種的宗教的偏見によるが、或る場合には其の國の資本家が猶太人との商工業上の經濟競爭に之を利用する事も往々ある。

イ

【イズヴェスチヤ】

ソヴェト聯邦中央執行委員會の機關新聞、日刊、最初一九一七年十一月革命の直後ペトログラドに於て發刊、一九一八年勞農政府のモスクワ移轉と共に同地に移る。組織の上でも發行紙數の上でも、ソヴェト・ロシアにおける最大の新聞である。

【イスクラ】

在外ロシア社會民主々義者團體「勞働解放」團が流刑地より歸還せるペテルブルグ「鬪爭同盟」派のレニン（ウリヤノフ）マルトフ、スタロヴェル（ポトレソフ）等と共に創刊せるロシア社會民主派の新聞。第一號は一九〇〇年十一月「イスクラ（火花）から焰は燃え立つ」といふ、題詩をかゝげて發刊された。「イスクラ」の任務はロシアの大衆的勞働運動を把握して革命的社會民主黨を結成し「合法的マルクス主義」（修正主義）及び「經濟主義」と鬪爭するにあつた。ロシア社會民主黨第二回大會で「イスクラ」は黨の中央機關紙となり、五十一號までレニンは編輯に參與した。一九〇三年十一月社會民主黨がボリシェヴィキとメンシェヴィキに分裂するやレニンは「イスクラ」を去り、同紙はメンシェヴィキの機關紙となり、一九〇五年の革命まで續刊し、革命の始めに廢刊した。歷史的に「舊イスクラ」といふのはロシア社會民主黨分裂前の「イスクラ」の謂である。それ以後の「イスクラ」は新イスクラと言はれる。

【一月九日事變】

一九〇五年露曆一月九日（陽曆一月二十二日）日露戰爭で敗戰の結果、首都ペテルブルグの民衆は皇帝ニコライ二世に對する生活負擔の輕減請願を名として、示威運動を起し、僧侶ガポンを先頭に立てた「ペテルブルグ工場勞働者協會」はじめ多數の群集は皇居たる冬宮に押しよせた。其請願書には政治的要求を含む條項あり、政府は之を不穩なりとし軍隊をして群衆に發砲せしめ死者千人以上、負傷者數千人を出す。同夜首都の勞働者街では街上の諸所に防塞を築いて勞働者は軍隊と衝突し、此の騷擾は全ロシアの各地に傳播した。「一九〇五年革命」參照。

【一國社會主義建設可能論】

一九二六年中に全聯邦共產黨の幹部派と反對派との間に行はれた論爭の中心問題である。トロツキーは一九〇五年

以來の持論たる永久革命理論により、ロシアで最初に成し遂げられる革命はブルジョア革命である、從つてロシアの無產階級は此の最初の革命で一時的に同盟者となつた農民（卽ちブルジョア革命の支持者）と絕えざる鬪爭——卽ち不斷の革命を行つてゆかればプロレタリア政權を完全に建設する事は出來ない。その上に周圍の產業的先進國のプロレタリア群がロシア革命を××××××を起さぬかぎり、ロシア一國內で社會主義制度を完成することは不可能だと主張してゐる。ジノヴィエフ等の新反對派も之に同意して幹部派の農民に對する讓步政策を革命の墮落なりとし、かくてロシア一國內で社會主義の建設が可能なりとする幹部派の意見は根據なき空想か、自己僞瞞であると攻擊した。之に對し幹部派を代表するスターリン、ブハーリン等は、ソヴェト政權は農民とプロレタリアートの××の下に×××××となりつゝある、また此の政權は重要產業、貿易、金融機關を國家の手に掌握しつゝ日と共に社會主義的資本の巨大なる蓄積に成功し、之と並行的に發達しつゝある協同組合を通じて、何等の後退もなしに全線に亘つて社會主義の道に向つて進出しつゝある。從つて何年かの後には假へ他の國でプロレタリア革命が起らなくても、ロシアは一國だけで社會主義制度を建設することが可能であると確信すると言つてゐる。而してかゝるロシアの社會主義の成功に反對する、周圍の資本主義國が總がゝりでソヴェト政權の倒潰に全力を盡すだらうといふトロツキー其他の反對派の考へは、資本主義國同志の間における帝國主義といふ新らしい利害の衝突によつて、その反ソヴェト聯合が容易には完全なものとなり得ないから、一種の杞憂にすぎないと主張してゐる。

【イワノヴォ・ヴォズネセンスカヤ縣】

一九一七年革命後ウラヂミルスカヤ、カストロムスカヤ兩縣の一部から分離組織さる。有名な染織工業地でロシア革命運動史の上に大きな役割をもつ勞働運動の中心地である。革命勃發の第一日からソヴェト政權を支持し、同地の勞働者は擧げて赤衞軍に投ずる等の勇敢さを示した。

【インタナショナル】

勞働運動の上で用ゐられるインタナショナルの意味は勞働階級の國際的聯合たる「勞働者國際協會」である。かゝる聯合の思想が公式づけられたのは一八四〇年マルクス、エンゲルスの「共產黨宣言」中にある「全世界のプロレタリア結合せよ」といふ言葉による。それが實行に移されたのは

一八五四年、英佛勞働者が接近の結果ロンドン博覽會に際し國際勞働者政治集會が開かれ、其處で勞働者國際協會組織が決議されしに始まる。マルクスは其建設に親しく參加しインタナショナル指導機關たる總評議會の幹部に選ばれた。此の第一インタナショナルの宣言と規約もマルクスによつて書かれた。宣言規約中のプロレタリアの政治闘爭の意義に關する問題で、インタナショナル内部における社會主義各派の衝突が起り、殊に無政府主義者バクーニン派とマルクス派の論爭は激烈を極め、一八七二年ヘーグ會議に於てバクニン派は此のインタナショナルから除名さるゝに至つた。巴里コンミューンの潰滅後、此のインタナショナルは内部の分裂により遂に一八七六年總評議會の決議により解散した。然し此の第一インタナショナルの資本主義に對するプロレタリアート國際的共同戰線の思想は各國の勞働級階の間に深い根帶を植えつけ、一八八九年巴里に召集された國際社會主義者大會は無政府主義者を除外せる第二インタナショナルを組織した。第二インタナショナルは其の存在の二十五年間に九回の國際社會主義者大會を召集した。卽ち、巴里大會——一八八九年。ブリュッセル大會——一八九一年。ロンドン大會——一八九六年。巴里大會——一九〇〇年。アムステルダム大會——一九〇四年。スツットガルト大會——一九〇七年。コペンハーゲン大會——一九一〇年。及びバルカン戰爭勃發に關連して召集された一九一二年のバーゼル臨時大會等である。同インタナショナル加盟各國社會黨の恒常的連絡のため白耳義ブリュッセル市に國際社會黨ビューローがおかれてゐた。第二インタナショナルの活動は二つの時代に分つことが出來る。一九〇〇年代の初頭殊に一九〇四年までの第二インタナショナルは革命的見解の支配的時代であつた。この時代までの各種の大會では常にブルジョアジーとの協調の不可、ブルジョア政府への參加拒否、帝國主義と戰爭とに對する反對を決議してゐた。しかし一九〇〇年代の初頭以來各國社會黨内に小ブルジョア分子が入り込み、改良主義の發達と共に第二インタナショナルは漸次に右傾し、帝國主義の發達に伴ふ戰爭問題に對するスツットガルト、コペンハーゲン、バーゼル大會等の決議は可なりに軟化的色彩を現はすに至つてゐる。一九一四年世界大戰の勃發と共に、第二インタナショナル加盟の各國社會黨及び勞働組合の大部分は階級闘爭の約束を放棄して、××擁護の名の下に防衛主義に傾いた。同時にインタナショナル幹部中には參戰國聯立内閣の大臣の椅子を占める者を多數に出すに至り、「黄色インタナショナル」の名を冠せられ、世界大戰を劃期として、第二インタナショナルは一時其の活動を停止した。第二インタナショナル中の非戰論者は新たに世界戰爭に反對する革命的インタナショナルの創建を屢々企圖し、後に結成されたモスクワ共産黨第三インタナショナルの素地をつくつた。世界大戰終熄と共に一九一九年から一九二二年にかけ屢々會議を重ねて第二インタナショナルが復興されたが此の時既に結成された第三インタナショナル卽ち、共産黨インタナショナルと對立するに至り全世界的單一インタナショナルは失はれた。また英國獨立勞働黨、獨逸獨立社會民主黨、佛蘭西社會黨、ロシア社會民主黨・メンシェヴイキ派、ロシア社會革命黨左派、墺太利社會民主黨その他の第二インタナショナルからは戰爭問題で分離し、共産黨インタナショナルにも加盟せざる一派が一九二一年初め維也に「第二半インタナショナル」を組織した。第二半インタナショナルが第三共産黨インタナショナルと乖離せる點はプロレタリア獨裁と其の革命的方法を承認し得ざる點にあつた。結局第二半インタナショナルは一九二三年五月、第二インタナショナルと合併した。

【インタナショナル勞働者青年同盟】

一九〇八年獨逸のスツットガルト市の大會に於て、カアル・リブクネヒト參加の下に組織さる。勞働者青年團の濫觴は一八七〇年代であつて、經濟、政治闘爭と敎化運動を其の目的とし帝國主義とも闘爭した。スツットガルト大會の後同盟の多數は第二インタナショナルの指導の下に主として文化運動を提唱するに至つた。世界大戰後一九一九年ベルリン大會に於て改造されたインタナショナル青年同盟は、共産黨インタナショナル青年同盟（其項參照）と對立してゐる。

【インテリゲンツィヤ】

敎養ある階級——例へば自由職業家たる醫師、敎授、著述家、記者、藝術家、工業企業の指導者卽ち技師等の如きを言ふ。ソヴエト・ロシアではインテリゲンツィヤを定義して彼等は資本の雇人であり、資本主義の社會においては概してブルジョア的イデオロギーの取次人であり、自由主義的ブルジョアジーの政治的氣分と欲求の表現者であるとしてゐる。

ウ

【ヴェエスエヌハ】(V.S.N.H)
「最高國民經濟會議」を見よ。

【ヴェチェカ】
全露非常委員會（フセロシィスカヤ、チェレズウイチャイナヤ、コミッシィヤ）の略稱。更に略して單に「チェカ」とも言つた。反革命運動、ソヴェト政權の政策に對するサボタージ、投機その他の犯罪を取締るため、革命混亂時代に組織され特別の軍隊を有する所謂革命期における赤色テロルの本部である。最初の組織者は故ゼルジンスキー。各縣に其の支部を有し當時市民戰慄の的となつた。一九二一年國內市民戰爭の終熄、新經濟政策の施行と共に犯罪檢擧と處罰に對する絶大なる權力をやゝ制限し、ゲペウ（國家政治保安部）と改稱した。「ゲペウ」參照。

【ヴォツカ解禁】
ヴォツカは露西亞人の國民酒である。一九一四年世界大戰の勃發と共に製造と飲用を帝制政府が禁止した。爾來年々ヴォツカの密造と密飮によつて罰せられる者國內を通じて數萬人の多きに達す。革命後もヴォツカ禁止は維持された。強烈なるヴォツカの害は國民の肉體と精神に及ぼす所大なりと考へられたからである。之によつて國庫が失ふ所の酒稅收入は數億ルーブルと言はれた。が、露西亞人がヴォツカなしで暮した日は大戰後も、革命後も、一日もない。へんぴな農村の到る所に粗惡なサモゴンカ（自釀火酒）を作るサモゴンシチク（密造者）なる階級が生れた。芬蘭、エストニア、ラトヴィア等の露國々境には密輸のため粗製ヴォツカの釀造場が續々設立された。ソヴェート政府は遂に兜をぬいで、一九二四年より酒精分二十パアセント以下を含むヴォツカを國營酒造局より賣出す。賣行不良。酒精三十パアセントとす。尙ほ賣れず。最近遂に舊の如く四十パアンセトのヴォツカを賣出した。

【ヴェルサイユ媾和條約】
世界大戰後一九一八年六月廿八日巴里の近郊ヴェルサイユにて聯合國と獨逸との間に調印された最初の媾和條約。獨逸は此の條約により、ヨーロッパにおける自國領土の一部を失ひ、全植民地を放棄し、軍隊の數を制限され、航空隊を廢棄し、聯合國に對して艦隊の大部分と商船の一部を提供した上に巨額の賠償金を課せられた。

【ヴェルサイユ派】
一八七一年の巴里コンミューン一揆に際し巴里よりヴェルサイユに逃走せる政府員にして昨日の敵なりし獨逸軍の援助により巴里コンミューン一揆を鎭壓す。

【ヴェルスト】
露里、我が九町四十五間に相當す。

【ヴォロスチ】
ロシアの農村行政區域、數個の村落を統合して一行政區とせるもの。郡と村の中位にあり曾て日本にありし鄕に當る。ソヴェト政權樹立後、其の執政機關はヴォロスチ執行委員會（ヴォルイスポルコム）である。

【ヴォロネジ大會】
革命黨「土地と自由」により一八七九年六月二十日ヴォロネジ市に召集さる。此の大會で新らしいテロル派と舊「土地と自由」派との間に革命戰術に關する論爭が行はれ、結局兩派は行動の自由を保留するといふ妥協條件で分裂を免かれたが、間もなく「人民の意志」派と「土地改革」派（チョルヌイ・ペレデリツイ）の二派に分裂した。

【ウクライナ・社・ソ・共和國】
ソヴェト聯邦加盟六共和國中の一つ、領域三十九萬六千平方露里余、人口二千五百萬人以上（一九二六年の調査）主なる住民はウクライナ人（小ロシア人）であつて、大ロシア人、猶太人、ポーランド人、モルダヴィヤ人等を含む。豐穰なる農業國、また豐富なる工業地域を包括する。ドン流域に石炭及鐵鑛山あり、また砂糖產地として有名である。豐富なる天產に惠まれてゐるがために革命以來內外からの間斷なき政變に弄ばるゝの運命に陷つた。一九一七年革命と共にウクライナは「中央ラーダ」政府（「ラーダ」參照）の支配する所となり次でドイツ軍の占領と共に帝政派ゲートマン政權（「ゲートマン」參照）に代り、更にその後無政府主義者マフノの政權の支配する所となり、同時にポーランド軍の侵入する所となつた。その間またソヴェト政權の起倒すること二回に及んだ。一九二〇年ソヴェト政權が完全に統一し、現在の共和國を建設した。ベッサラヴィア對岸のモルダヴィヤ人分布地方を以て一九二五年モルダヴィア自治共和國とした。

【ウズベキスタン・社・ソ共和國】
一九二五年中央アジア諸民族國の國境改造と共に組織さる。その名稱は主なる住民がウズベク人なるより起る。舊タシケント、スイルダリン、フェルガン、サマルカンド地

方、及びブハラ共和國の一部を含む。首都サマルカンド、最大都市はタシケント市、住民は農業を主とし棉花の産地同共和國内にタツヂク自治州を含む。

【ウリチマチスト】

「最後通牒」派、卽ちロシア社會民主黨中の一派にして一九〇八、九年第三期國會のボイコットを主張し、召還派よりも一層急進的に黨員中の國會議員に對して最後通牒を送り國會脫退を主張した。當時レニン等ボリシェヴィキは召還主義にも最後通牒主義にも反對し國會壇上より大衆に向つての××××を主張した。

エ

【永久革命論】

「トロツキズム」を見よ。

【英露委員會】

一九二四年に赤色國際勞働組合（プロフインテルン）の提唱により國際勞働運動の單一戰線結成のため英露兩國勞動組合の自由提携を目的として組織された。最初一九二四年九月グールに開かれた英國勞働組合大會に全露勞働組合中央評議會議長トムスキー等數名の代表が出席したのを動機として、兩國組合の接近が提唱され、其の回答として、同年十一月にモスクワで開かれた第六回全露勞働組合大會へ英國組合代表としてパーセル等數名出席し、ロゾフスキーの提案により「世界列國の反動的單一戰線の結成に鑑み世界勞働運動單一戰線の必要」を强調せる決議が採決され、此決議を實現するため英露聯合委員會が組織され翌二五年九月、スカルボロに開かれた、英國勞働組合の總評議會により確認された。一九二五年十二月廿五日ベルリンに召集された英露委員會の協議會には英國側よりヒュシートリン以下四名、ロシア側よりトムスキー、ドガドフ以下五名が出席し、アムステルダム××と全露勞働組合中央評議會との聯合大會を無條件にて召集すべしとのロシア側の提議をアムステルダム側が否決せることに對し遺憾の意を表した。次で一九二六年七月パリにおいて開かれた英露委員會協議會では、ロシア側は英國炭坑罷業援助に關する問題を提起し英國代表は同問題の審議を拒絶し英國勞働組合總評議會の行動を非難せるロシア側の決議の撤回を要求し結局兩者の接近を見ず問題の決定を同八月のベルリン會議まで延期した。然し此のベルリン會議に於いても英國側はロシア側の炭坑罷業に對する援助を干渉に過ぐるとして排斥し、第二の議題たる單一戰線問題に關してはアムステルダム××と全露勞働組合との協議會の失敗はアムステルダム派側に罪ありと遺憾の意を表して別れた。越えて一九二七年四月ベルリンに召集された英露委員會では（一）勞働運動の國際的單一（二）英露委員會の行動の規準（三）過去二年間における英露委員會の事業と經驗の總決算と將來の活動に關する問題が議題とされた。英露委員會の任務はアムステルダム國際勞働組合と全露勞働組合との單一合同を促進せんとするにあるが、今日まで其の目的は完全に達せられては居

ない。最近全聯邦共産黨の少數反對派は英露委員會よりロシア側の脫退を主張したが、多數派は此の委員會との關係の繼續を主張してゐる。

【英露斷交】

一九二七年五月二十六日英國保守黨內閣の外相チャンバーレンはロンドン駐在ソヴェト聯邦の代理大使ローゼンゴルツに對し英露間の一切の外交關係斷絶を通牒した。之れにより一九二一年の英露通商協約も一九二四年にマクドナルド勞働黨內閣により締結された英露外交關係設定に關する條約も破棄された。斷交の理由は明確でないが、保守黨閣員中の强硬派チャーチル、バーケンヘッド、ジョインソン・ヒックス等は既に所謂「ジノヴィエフ書翰事件」の後保守黨が選擧により大勝して一九二四年十一月勞働黨內閣に代つて政權を獲得した當時から對露斷交を主張し、その後支那各地に起つた排英運動をソヴェト聯邦の煽動によるものと見做し、また一九二六年の英國炭坑夫罷業に對するソヴェト聯邦勞働組合の罷業資金援助に對し極度に憤慨してをり、斷交を動機として世界各國の反ソヴェト空氣を激成しうるものと信じた結果と見られる。然し英國の對露貿易は一九二一年の通商條約締結以來極めて順調に發達し英國の對露輸出は常に列國の首位を占めて來た關係上英國內にも對露斷交反對の意見が相當に强い。一九二七年十一月卅一日からジュネヴに開催された聯盟軍縮準備委員會に出席したリトヴィノフは十二月五日英國外相チャンバーレンと會見した。その結果兩國の關係が何等かの妥協に向ふかも知れぬと期待されたが、單に「忌憚なき意見を交換することが出來た」との共同聲明を見ただけで具體的の成果は認められなかつた。ソヴェト側は一九二九年の英國議會の改選まで待てば保守黨の對露政策に幻滅を感じた英國民が、再び勞働黨をして議會に多數を制せしめるか、少くとも勞働・自由兩黨の聯合內閣を作り出す機會を與へるであらうから、其の結果自然英露關係が復活されるものと見てゐたが、果して一九二九年秋の總選擧で勞働黨が勝利し再びマクドナルド內閣が組織されると共に國交を回復した。

【エコソ】(EKOSO)

「經濟評議會」を見よ。

【エコノミズム】

「經濟主義」を見よ。

【エス・エス・エル】(S.S.S.R)—(U.S.S.R)

「ソヴェト聯邦」を見よ。

【エスエル黨】(P.S.R)

「社會革命黨」を見よ。

【エス・デェキ】(S.D—Ki)

社會民主黨員。露語「ソツィイアル・デモクラト」の略稱。「全聯邦共産黨」參照。

【エストニヤ共和國】

芬蘭灣の南岸にある舊ロシア帝國領エストランディヤ縣が革命後獨立共和國となる。人口百七十五萬人の八割八分はエストン人より成り、領域四萬一千平方基米突を有す。農業國、首都レヴァル。一七一七年の末、一度ソヴェト政權を樹立したが、一九一八年二月國內のブルジョア階級は獨逸侵入軍の援助をかりてソヴェト政權を顚覆した。一九一八年獨逸に革命おこりドイツ軍の撤退するや再びソヴェト政權が組織されたが反ソヴェト運動のため打倒された。最高政治機關はセイマ（國會）と稱し議員百名より成り、大統領を選ぶ。金屬、織物、製紙等の工業あり。

【エチンストヴオ】

「單一主義」の意。一九一七年三月革命後に結成された社會民主黨中の戰爭繼續論者、防衛派の別稱。ロシア社會民主黨の父と稱せられるゲオルギィ・プレハノフ、デイッチ、アレクシンスキー等により指導さる。獨逸に對する勝利へ！と勞働者を宣揚し戰爭に反對せるボリシェヴィキと鬪爭し、立憲民主黨（カデット）と提携してソヴェト政權樹立後之に抗爭したが、市民戰爭終熄後その首腦は外國へ亡命した。

【エヌエス黨】

「國民社會黨」を見よ。

【エポオ】(E.P.O)

「エディノエ・ボトレビィテリノエ・オブシチェストヴォ」即ち「單一消費組合」の略稱。革命前から其の組合は存在したが事實上の完全なる統一は行はれてゐなかつた。一九一七年十一月革命後、工場と勞働組合所屬の消費組合は各地方別に「エポオ」に統一され、各組合より代表者を選出して之を統一的な指導機關とす。消費物資の大口仕入れは悉く此の「エポオ」を經て行はれ、「エポオ」は重要都市に直轄の販賣所配給所を有す。「協同組合」參照。

【エルフルト綱領】

一八九一年獨逸のエルフルトに開かれた社會民主勞働黨大會で決定された綱領であつて、理論問題と實踐問題との二つの部分に分たる。第一の理論の部では資本主義から社會主義への社會的發展の理論を闡明し、第二の實踐の部で

は資本主義社會のもとにおいても、達成し得らるべき各種の要求が提起された。此の綱領は各國社會民主黨綱領の模範となり、ロシア社會民主黨も亦た之を採用したが、その後に起つた各國の共產黨と共に此の綱領を新らしい共產黨の綱領に代へた。カウツキーの「エルフルト綱領註解」は或る時代において社會民主黨（團體）のマルクス主義教科書となつてゐた。

【エンピリオモニズム】

ロシアにおける唯心哲學派の思潮、マルクス主義の哲學的淨化を旗印とし、ア・バグダノフにより祖述され、一九〇五年革命に際しボリシェヴィキ派に味方したロシア社會民主黨員の間にも非常に流行した。經驗一元主義である。レニン、プレハノフ等は之をマルクス主義の旗幟にかくれた反動哲學なりとして排斥した。レニンの「唯物論と經驗批判論」は多く此の思潮の反駁のために割かれた。

オ

【オイラトスカヤ自治州】

一九二〇年六月二日全露中央執行委員會の結合により、舊アルタイスカヤ縣の一部、オイラト人の居住地方を分離して成立、住民十五萬、牧畜、林業を主とす。州の主府ウラル。

【オクチャブリスト】

「十月黨」を見よ。

【オテチェストヴェンヌイエ・ザピスキ】

一八一八年發刊され一八六〇年代に革命團體人民派の機關誌となり、一八八四年政府より閉鎖さる。「祖國の記錄」の意。

【オプシチナ】

「土地共有體」を見よ。

【オプホフスカヤ防塞】

一九〇一年のオプホフスキイ工場に起れる有名な事件。メーデーに參加せる勞働者の讖首に端を發し、全勞働者は解雇職工の復職、八時間勞働制、工場事務所の勞働者に對する侮辱的態度の改善等を要求した。政府がカザック兵を送り罷業團を壓迫せんとするや勞働者は街上に器物をもつて防塞をきづき、勞働者の妻子も之に參加して九時間に亘り抗爭をつゞけた。

【オプリチナ】（除外帝領地）

一五六四年イワン大帝四世は各地方の大きな領主から小なるは村落、大なるは一郡にわたつた土地を取りあげ、之をモスクワ國家の有よりも除外して皇帝の私有地とし、腹心の貴族を送つて管理させ、其の收入は帝室の特別の支出に充てられた。此の制度は群雄割居時代のあとをうけ、地方の封侯豪族の領內に「除外地」即ち、帝領を割り込ませることによつて領主を監視し、其の力を解體させる手段とした。

【オルグ・ビュロー】

全聯邦共產黨組織部　即ち「オルガニザツョンノエ・ビュロー」の略稱。「全聯邦共產黨」を見よ。

力

【對外文化連絡協會】（對外文化協會）略稱「ヴオクス」といふ。會長カメネワ夫人、ソヴエト・ロシアの文化を海外に普傳し、亦た海外の文化をソヴエト・ロシアに紹介するを目的とす。曩にソヴエト繪畫展覽會を日本に送れる等の事業は專ら、同協會の指導の下に行はる。ロシア觀光のため旅行する外國人に對し案內紹介等の便宜は此の協會が提供する事となつてゐる。革命十週年に際し、ロシアの經濟、文化、を宣傳するため移動博覽會を組織し世界各地を巡回せしめる計畫をした。

【解雇手當】

ソヴエト聯邦の勞働法典によれば、雇傭者は勞働者其他一般被傭者に對して、解雇の際二週間分の賃銀給料を支拂ひ、又た勞働契約が（イ）企業の全部又は一部の廢止の結果（ロ）生產的性質を有する理由により仕事が一ケ月以上に亘り休止される結果（ハ）傭入れたる勞働者、又は勤務者が役に立たざることを發見せる場合、等により破棄される時は解雇を二週間前に豫告する義務がある。

【外交人民委員部】

露略「ナルコム・インデェル」又は更に略し（N.K.I.D）といふ。ソヴエト聯邦の外交政策を行ふ。此の部の在外機關は全權代表部（ポルノモーチノエ・プレドスタヴィテリストヴォ、略稱ポールプレドストヴォ）と名づける。然し之は國內に使用される名稱であつて外國にありては國際的に一般に用ゐられる所に從がひ大使館又は公使館（露語「ポソリストヴオ」）といふ。

【買取賦金】

一八六一年の農奴解放令により農民が、舊領主より買取れる土地買取代金は政府により立替へられ農民は年賦を以て國庫に牧納した。其の年賦金をいふ。

【各區聯合派】（メジライオンツイ）

世界大戰後ペトログラードの各區に活動せるロシア社會民主勞働黨の各種の分派（メ派、トロツキスト、プレハノフ派其他）が統一的活動をするため各區聯合委員會なるものを組織し之を運動の中心とした。之に屬する者を「メジライオンツィ」（各區聯合派）と呼んだ。各區聯合派は革命後大部分ロシア共產黨に統一された。

【學者生活改善中央委員會】（C.K.U.B）

ソヴエト・ロシアの學者の生活を保護するため人民委員會議の直轄のもとにある機關、學者のための寄宿者、公衆食堂、圖書館等を有し學者として與へらるべき各種の特典を享受することを學者に援助する。

【革命委員會】

「レフコム」を見よ。

【革命裁判所】

一九一七年革命の後ロシア共和國內に設置された革命擁護のための特別裁判機關、ソヴエト聯邦の現行法典と裁判制度が設定されるまで各種の犯罪は人民の權利の宣言及び憲法に基き革命裁判により峻烈に處斷された。フランス大革命時の革命裁判に則る。露略「レフ・トリブナル」

【カザック】

帝制ロシア時代、ドン、クバン、テルスキイ、ウラル等の地方に分布せる農民中の特殊の階級、比較的多くの土地を與へられ、農村は兵團組織をなし、帝室より特典を賦與され忠誠を盡すを以て良心とした。革命前のロシアにおけるカザック騎兵は有名である。罷業一揆等の際にはカザック兵は常に其の鎭壓に向けられた。一般農民と多少異なる生活習慣を有し「アタマン」と稱する兵團の首長は古くから選擧によつてあげられた。革命と共に其の上層階級は反革命軍に加擔し下層階級はソヴエト政權を支持した。

【カバルヂノ・バルカルスカヤ自治州】

一九二二年ロシア聯邦共和國中のゴルスカヤ共和國より分離獨立す。人口二十萬、住民の多くはカバルヂン人、バルカル人、牧畜、農業を主とす。北部コーカサスにあり。

【壁新聞】

市民戰爭中に赤衞軍の各部隊內に流行し、次で各工場、官廳、勞働者クラブ、農村の讀書小屋、學校等に普及した。經濟復興と共に一般的な新聞雜誌が普及されるやうになつたが、「壁新聞」は依然として新聞には揭載されないやうな小範圍の社會生活の報導をする機關として殘されてゐる。其の組織は、何處でも團體生活の行はれる所では團體自から編輯員を選擧し、其の團體に最も緊切な關係のある問題を一枚乃至は數枚の新聞に作りあげて壁に貼り出す。取扱はれる問題は種々雜多であるが、例へば一つの工場の壁新聞を見れば其處には工場幹部の經營法の正不正から協同組合、住宅問題その他一切に關する報導が揭出される。

【カムチャトカ】

オホック地方を合せてカムチャトカ半島一帶をカムチャトカ縣とす。地域百十四萬三千五百平方露里、一九二〇年の

人口四萬一千人、主としてユカギル、カリヤク、トゥングス、カムチャダル等の異民族。漁業と狩獵を主業とす。一九二二年日本軍の沿海州撤兵と共にソヴェト政權の支配に歸す。首都ペトロパウロフスク港は人口二千、カムチャトカ産毛皮は質において世界に有名である。

【カラチェヴオ・チェルケススカヤ自治州】

一九二二年の全露中央執行委員會令によりゴルスカヤ自治共和國より分離、地域一萬平方露里、人口十五萬のうち四割五分はカラチ人、二割五分チェルケス人。一割三分カザック、六分ナガイ人、三分アバジン人、主業牧畜、一部は農を業とす。ロシア社・聯・ソ・共和國に屬す。

【カルムイツカヤ自治州】

ロシア社・聯・ソ・共和國に屬し、一九二〇年アストラハン、ツァリーツィン、スタフロポリ、ドン諸縣中のカルムイク人の分布地方を分離して自治州を組織す。カルムイク人は蒙古族と同じく牧畜を主業とし大多數は遊牧民である。デニキン軍に加擔して反ソヴェト戰爭に勇敢に活躍したがソヴェト政權の同地方平定後自治權を與へらる。領内に都市を有せず首都を臨時ヴォルガ河口のアストラハン市におく、人口十二萬五千人、領域八萬七千平方露里。

【カレリスカヤ勞働コンミュン】

芬蘭土との國境カレリア地方にあり、一九二〇年組織。「勞働コンミュン」(露語トゥルドヴヤ・コムムナ)はヴォルガ沿岸にある獨逸人勞働コンミュンと同じく共產主義制度を實行するといふ意味ではなく、一種の自治體の謂である。久しく芬蘭土とロシアとの間に歸屬問題に關し繫爭をつゞけたが一九二二年の住民大會によりソヴェト政權に對する信賴の意を表明した。住民十四萬五千、六萬五千平方露里の地域を有し豐富なる林產地。

【カンヌ會議】

一九二二年カンヌに召集された國際會議、當時の英首相ロイド・ジョージはソヴェト・ロシア、獨逸、墺太利等が經濟的に孤立して居てはヨーロッパの經濟恢復至難なりとし上記各國の代表者參加の下に、聯合國首相會議の開催を提唱した。各國はカンヌ會議において次の如き經濟復興に必要なる根本原則を提示した。(一)各民族の政治經濟制度に對する自決の權利の保障。(二)經濟復興資金を要する國家に對し投下資本と利子を保障する約束のもとに信用貸をする。(三)舊國家及び團體の債務の承認、沒收財產の返還、損害の賠償。(四)商業に對する法律的經濟的保障の確立。(五)他國の現存制度に反對する宣傳を愼しむこと。(六)隣接國に對する敵對行動を愼しむこと。(七)ソヴェト政府の正式承認は上記諸條項の豫備的承認があれば之を行ふ等である。ソヴェト・ロシアは此の條件をもつて列國が經濟的にロシアを奴隸化せんとするものだとし、カンヌ會議の決議はゼノア會議、ヘーグ會議より一步も進んでおらずと冷淡なる態度を示したため、同會議は結局何の成果をも齎らすに至らなかつた。

【幹部會】(プレシヂウム)

ソヴェト制度の根本は幹部會を以て常時政權代行機關としてある。從つてソヴェト・ロシアに於ける殆んど凡ての機關は幹部會(プレシヂウム)をもつて最高の恒常的執行機關としてゐる。「ソヴェト大會」の項、附錄「圖解」等參照。

キ

【休養の家】

ソヴエト・ロシアでは富豪、貴族から没収した別荘、邸宅等を「休養の家」と名づけて勞働者、官公吏が休暇を利用して靜養する場所にあてゝゐる。コーカサス、クリミヤ、等の風光明媚の地、また大都會の近郊にはさうした家が非常に多い。

【貴族制度】

「ドゥヴォリャンストヴォ」といつて帝制ロシア時代には十三萬の貴族階級があり農奴解放の後にも尙ほ約一億の農民が所有する土地に匹敵するほどの土地を世襲財産として占有し國家政治の上に特種の優越權をもつてゐた。革命後此の制度は廢止されたが、此の封建的制度が長く續いてゐたためにロシアの農民を一層革命的にした。

【共産主義】

生産の機能と手段及びあらゆる生産の基礎（工場、土地、鑛山、運輸機關等々）を個人乃至は一定の團體の私有たらしめず、之を全社會の××とする主義又は制度。共産的生産は全社會成員の需要を滿足させるための社會的生産であつて、共産的分配は社會的生産に應じて共産的基礎のもとに社會的分配を行ふものである。各人の才能に從つて生産し、各人の需要に從つて分配する——それが共産社會であるとなす。共産社會に於ては所有物の不平均を生むところの私有制度がなく、搾取がなく、誰も個々の資本家のために働かず皆な社會のために働き、强要がなく、社會的生産と分配とのために階級的秩序を保つ國家政權といふものを必要とせず、從つて階級といふものが無くなつて仕舞ふとなす。卽ちエンゲルスのいへる如く、共産社會では人間による支配は、物による支配に代へられるとなす。

【共産黨】

プロレタリアートの××により資本主義を×して社會主義、共産主義制度の社會を××せんことを綱領とする無産政黨。此の政黨は二つの根本的な統制上の指導原理をもつてゐる。（一）民主的中央集權主義、卽ちすべての黨機關の選擧制度及び下級機關の上級機關に對する徹底的服從。（二）黨のあらゆる命令決議を全黨員が無條件的に履行する紀律——である。世界各國の共産黨は共産黨インタナショナルを其の國際的中央機關として結合してゐる。（「共産黨インタナショナル」參照）。次に各國に於ける共産黨の現勢を示す（五十音順）

【アメリカ共産黨】

一九一九年アメリカでは二つの共産黨が結成された。一は「アメリカ共産黨」他は「アメリカ共産勞働黨」（サンヂカリスト的傾向をもつ）である。一九二一年コムインテルンの努力により兩黨合併し、合法政黨として存在を續ける必要から勞働黨と稱し、一九二三年の大會で共産黨の秘密結社を解散し、更に一九二四年共和黨の急進分子と提携したゝめコムインテルン執行委員會の非難する所となり、中央委員會は政策を變改した。一九二五年現在の黨員一萬六千三百七十五人。

【アルゼンチン共産黨】

一九一七年に組織された國際社會黨をば一九一九年共産黨と改稱。南米諸國中アルゼンチン共産黨は最も發達しており或る産業地方では地方勞働組合幹部會の多數派となつてゐる所もある。一九二六年に三つの地方議會へ各一人づゝの議員を送つた。

【イギリス共産黨】

一九二〇年に創立され一九二五年の黨員數五千七百五十人。獨立權を保留しつゝ勞働黨に入り其の內部で勞働黨右翼幹部に反對の宣傳を行つた。一九二四年の勞働黨會議で共産黨員除名が決議され翌二五年の會議で此決議は確認されたが勞働黨の下級機關は之に反對した。議會へは共産黨から唯一の共産黨議員としてサクラトヲルが選出されてゐる。

【イタリー共産黨】

一九一九年の末イタリー社會黨は共産黨インタナショナルに結合したがコムインテルン第二大會の二十個條盟約の採決と共に脫退し、一九二一年新たに同黨の約三分の一が分裂して共産黨を組織した。一九二二年の淸黨後も黨員は四萬二千人を算した。ファシストの政權獲得後彈壓されて秘密結社となる。コムインテルン第四回大會はセラチの指導する社會黨左翼と共産黨の併合を決定した。一九二四年の議會選擧において共産黨は尙ほ三十萬票を獲得した。數個の機關紙は秘密出版による。

【ウルグワイ共産黨】

一九二〇年に組織、國會に二人、地方議會に四人の議員を有す。六千の發行部數を有する日刊機關紙あり。

【エストニア共産黨】

一九一八年以來秘密團體として勞働組合内に活動をつゞけ、一九二四年十二月の騷亂以來猛烈なる白色テロルに見舞はれ勞働運動は殆んど擊滅された。それ以來共産黨員は多く農村へもぐり込んで活動してゐる。

【オーストラリー共産黨】

黨員五千五百名、其うち約二千二百名は百二十九個の生産機關内のヤチェイカ（細胞）に組織されてゐる。一九二五年の第八回黨大會で長い間黨内に存在した分派を整理し新らしい中央委員を選擧した。

【オーストラリヤ共産黨】

一九二五年現在の黨員約四百名、英國共産黨のごとく黨の自治權を保留して同國勞働黨に加入せんとしたが成功せず、今尙ほ其の儘となつてゐる。

【オランダ共産黨】

社會民主黨から分裂せる一派を以て組織され一九二五年末現在の黨員の數は千五百六十二名。

【ギリシャ共産黨】

一九二四年の黨員約二千五百名。共産黨の活動を禁ずべき國内法はないが、其の中央機關紙は一九二五年十一月一日以來發行を禁止されてゐる。

【キューバ共産黨】

一九二五年左翼社會黨聯合として結成され、結黨の瞬間に一千名の黨員を得たが直ちに禁壓、秘密團體となる。

【コロンボ共産黨】

一九二四年に組織され秘密團體として勞働組合内に活動しつゝある。

【スイス共産黨】

一九二一年に組織され一九二五年現在の黨員四千人、五つの日刊新聞を有す。

【スウェデン共産黨】

一九二一年舊社會民主黨左翼（一九一五年結成）により組織さる。黨内左右兩翼の紛糾ありし後、コムインテルン第五回大會後、コムインテルンの中央集權主義に反對せる右翼のヘグルンド派を除名するに至つた。その結果一九二六年現在の黨員は約一萬人となつた。

【スペイン共産黨】

一九二〇年社會民主黨の分裂と共に組織さる。彈壓きびしく黨の中央委員は屢々全員捕縛され一九二五年秘密結社に組織替へするに決し、中央委員會を外國に移した。秘密黨員として登錄さるゝ者千二百人、機關紙の發行部數七千。

【チェコ・スロヴァク共産黨】

一九二〇年に組織され翌二一年社會民主黨より分離し其のチェック及びドイツ部が聯合して共産黨を組織した。初め彈壓を蒙つたが大衆的支持をうけて存在をつゞけ現在十萬人の黨員を有し一九二五年の議會選擧に七百萬票の總投票數のうち九十二萬三千票を獲得した。

【チリー共産黨】

一九二一年舊社會黨より組織さる。黨内には尙ほ日和見分子多く強固なる共産黨とはなつて居ない。

【デンマーク共産黨】

一九二五年現在の黨員八百名、週刊の機關紙を有す。

【ドイツ共産黨】

一九一四年の末にカール・リプクネヒト、ローザ・ルクセンブルグ等の組織した「スパルタカス」團を基礎とする。一九二〇年十一月獨立社會民主黨大會で同黨を脫退した分子が「スパルタカス」と合同しドイツ共産黨を結成した。現在黨費を負擔してゐる黨員約十五萬人、其他に失業者として黨費を負擔せざる黨員が相當にある。約五十の日刊週刊の新聞を有し總發行部數三十萬。一九二三年ライプチヒ大會でブランドレルを首領とする多數派と、社會民主黨との單一戰線のもとに獨逸聯邦内の各國における勞農政府に參加せんとする多數派の政策を日和見的なりとして之に反對する少數派とに分れ、コムインテルン執行委員會は少數派の意見を支持した。サクソン及びチュリンゲンにおける共産黨と社會民主黨の聯立政府、ハンブルグ勞働者一揆、一九二三年十月革命計畫の失敗等により多數派の中央委員會内に分裂が起り、ブランドレルは遂に失脚した。同年十一月から翌二四年三月までドイツ共産黨は法律上存在を許されず秘密結社となつたが、ドイツの如く多數の共産黨員を有する國では共産黨禁止の法律は却つて運動を强盛ならしめるばかりであつた。故に政府は間もなく一片の形式にすぎざる共産黨禁壓令を撤廢した。一九二四年四月フランクフルトの黨大會においてドイツ十月革命計畫の誤謬を清算し、中央委員會へは新たに多數派より十一名、中央派より三名（左翼に近い）左翼一名が選まれた。一九二五年黨内にルート・フイシェル、及びマスロフ派の極左翼運動が起り、遂にコムインテルンは一九二六年に入つて之等の傾向を排擊しドイツ共産黨は極左翼を除名するに至つた。黨の中央機關紙として「ローテ・フアネ」（赤旗）を有す。

【東洋諸國共産黨】

一九二五年末の現在、多少とも共産黨の發達せる東洋の諸國は支那、××、××、インドネシア、土耳古、シリア、波斯、チュニス、埃及、印度、等があるが、支那の一部分を除いては何れも秘密團體として活動してゐる。

【ノールヴェイ共産黨】

一九二三年ノールヴェイ勞働黨を脫退せる分子を以て組織さる。一九二五年黨員約七千を有し、十六の新聞を發行しその總部數二萬。

【パラグワイ共産黨】

一九二四年組織、地下的活動をなす。

【ハンガリー共産黨】

一九一八年に結成され翌一九年には洪牙利ソヴェト共和國を組織した。數ケ月にして轉覆、白色テロルが行はれ、秘密結社となる。一九二五年に至り洪牙利ソヴェト政權轉覆後最初の共産黨大會召集され、新たに中央委員を選擧し綱領を決定した。大會後、この大會に盡力したラコシ以下六十四人は檢擧され、政府は之を死刑せんとしたが、內外勞働者の反對運動により延期された。

【フィンランド共産黨】

一九一八年に組織されたが翌一九年の勞働者ターデター に失敗して以來社會民主黨に入り、其の後脫退して社會勞働黨に入り政府の彈壓を避けつゝ、共產黨の獨立を保つてゐたが一九二三年社會勞働黨も解散を命ぜられた。一九二四年以來地下的活動をつゞけ、產業機關の間に勢力の根を張りつゝある。

【ブラジル共産黨】

一九二一年に組織されたが今尙ほ秘密結社として存在をつゞけてゐる。黨員は勞働組合及び協同組合の內部に活動し月二回發行の秘密出版新聞二つを有する。

【フランス共産黨】

一九二〇年のトゥル大會で社會黨の多數と、サンヂカリストの加盟してゐた第三インタナショナル委員會とが結合して組織され、結成の當時は黨員十三萬人と註せられた。その後フロッサール派の右翼の脫退を見たが一九二四年の議會選擧に際しては九十六萬票の投票を得て二十六人の議員を出してゐる。一九二二年フランス勞働組合から分裂してプロフインテルン（赤色國際）に加盟したフランス勞働總同盟とフランス共產黨とは密接な關係にある。一九二五年現在の黨員八萬三千三百廿六人。ジョーレスの創刊せる「ユーマニテ」は中央機關紙として二十萬の發行紙數をもつてゐる。

【ブルガリア共産黨】

一九〇三年にロシアにおけるボリシェヴィキ派と同樣右翼と分裂して、「チェスニャキ」派を組織せる一派は一九一九年コムインテルンの建設に參加し共產黨と改稱す。一九二三年には四萬の黨員を有し大に優勢であつたが同年ツァンコフのファシズム政變に會し、農民の支持を得ずして失敗し、同年秋農民組合と提携して一揆を起したが政府の鎭壓する所となる。一九二五年ソフィヤの敎會堂爆破を共產黨の所爲なりとせる政府が多數共產黨員を捕縛し死刑せる以來、同國の共產黨は秘密結社となつた。

【ベルギー共産黨】

一九二〇年勞働社會黨から分裂した共產主義者により組織さる。一九二五年現在の黨員九百名。一九二六年の選擧には議會に二つの議席を得た。

【ポーランド共産黨】

コムインテルン第一回大會に先だつ三ケ月、一九一八年に社會民主黨及び社會黨左翼により組織さる。白色テロルに彈壓され秘密團體として活動をつゞけ三つの新聞と三つの雜誌を秘密出版しつゝある。

【ポルトガル共産黨】

一九二〇年マキシマリスト、無政府サンヂカリストの統一團體により結成さる、微々として振はず。

【メキシコ共産黨】

一九二一年に組織、黨員僅少、機關紙發行部數五千、主として鐵道從業員、織物工、石油坑夫の間に讀者を有す。

【ユーゴースラヴ共産黨】

一九一九年セルビヤ、クロアト、ボスニヤ、ヘルツェゴヴィナ、ダルマツィア、南部ハンガリーの社會黨聯合を以て結成さる。一九二一年に至り二十年の遠刑又は死刑に處すべき反共產黨法が發布された。一九二五年現在の黨員約二千三百人。

【ラトヴイヤ共産黨】

一九〇四年に結成されたラトヴィヤ社會民主勞働黨の後身である。一九一九年一月リガに於てソヴェト政權を樹立したが間もなく同年五月反動勢力の轉覆する所となり、秘密團體となる。現在十五種の秘密出版雜誌と新聞を有す。

【リソアニア共産黨】

最初から全然秘密結社として存在し、國內の反動派と鬪爭しつゝある。

【ルーマニア共産黨】

各種の社會黨の團結により組織され、聯合大會の大多數

がコムインテルン加盟を聲明するや同大會は一齊に檢擧され、代議員の多くは殺された。黨員千五百名中の多くは現在監獄生活と亡命生活をなす。

【ロシア共産黨】

「全聯邦共産黨」の項を見よ。

【共産黨インタナショナル】

略稱「コムインテルン」、は各國共産黨の國際聯合である。第三インタナショナルともいふ。此のインタナショナル創設の必要は世界大戰による第二インタナショナルの崩壞と共に其の中の非戰論者（インタナショナリスト）の間に提唱され、一九一五年のチンメルワルド會議、一九一六年のキンタール會議に於いてレニン等は之が結成を企圖したが兩會議においてはレニンを首領とする謂ゆる「チンメルワルド左翼」が結成されたのみで會議は分裂した。大戰の終結と共に既にロシアに於て政權を獲得したロシア共産黨（後に全聯邦共産黨）の主唱により、一九一九年三月初旬モスクワに於て第一回國際革命無產政黨大會が召集され玆に共産黨インタナショナルが結成されるに至つた。同大會は全世界のプロレタリアに對する宣言を採決し、プロレタリア××のための勞働者の××を其の任務とした。完全に正確な計算ではないが一九二五年現在「コムインテルン」に參加する各國共産黨の黨員は約二百萬人と計上されてゐる。共産黨は或る國では合法的に、或る國では非合法的に存在し、何れも「コムインテルン」に密接な連絡をもち、凡ての國々の個々の共産黨はセクションとして單一的國際共産黨の成員となつてゐる。「コムインテルン」に加盟するには其の第二回大會が採決した二十一ケ條規約の承認を要する。「コムインテルン」の最高機關は全世界大會（コングレス）であつて、大會は、開期と開期の間の指導機關として「コムインテルン」執行委員會（EKKI）を選擧する。執行委員會はまた恒常的指導機關として幹部會を選む。大會の決議に對し加盟各國の共産黨は服從の義務を負ふ。コムインテルンは第二インタナショナルと對立し、世界勞働運動の×××分子を抱擁し各種の指導的任務を履行する。またコムインテルンは階級内部の敵として右には日和見改良主義、左には無政府サンヂカリズム的思潮と闘つてゐる。農民大衆を反資本主義闘爭に××××××として「××政府」の組織を提唱してゐる。その根本的任務――プロ大衆の×××結成、綱領の確立、ソヴェト國家制度××××××××社會主義の勝利等。

第一回大會――一九一九年三月、モスクワ、「全世界プロレタリアに對する宣言」採決。出席者五十二名。

第二回大會――一九二〇年七月、八月、モスクワ（開會式レニングラード）、二十一ケ條の共産黨規約採決。出席者二百十四名。

第三回大會――一九二一年六月、七月、モスクワ、出席者六百名。

（第三回大會と第四回大會との間に一九二二年二月より七月の間に二回の執行委員會擴大總會あり）

第四回大會――一九二二年十一月、十二月、モスクワ、出席者四百一名。

（第四回大會と第五回大會との間に一九二三年六月執行委員會擴大總會あり）

第五回大會――一九二四年六月、モスクワ、出席者五百〇四名。第六回大會の確認に附すべき綱領規約を決定す。

一九二五年四月執行委員會擴大總會、一九二六年三月執行委員會擴大總會、同十二月擴大總會あり極左共産黨を排撃す。「共産黨」の項參照。

【共産黨インタナショナル執行委員會】（EKKI）

「共産黨インタナショナル」を見よ。

【共産黨インタナショナル青年同盟】

露略「コムインテルン・モロジョジ」又は「キム」（KIM）といふ。一九一九年十一月ベルリンに秘密大會を開いて創立さる。同大會へは十四ケ國の青年同盟參加し、共産黨インタナショナルの方針を採用した。一九二一年モスクワに於ける第二大會に於て各國共産黨青年同盟と各國共産黨との相互關係を明かに決定し、青年同盟は團體としての自由を保有するも、當該國共産黨の政治的指導の下に活動する事となる。一九二二年モスクワに第三回大會を召集、地方工場ヤチェイカ（細胞）組織の基礎を定めた。現在共産黨インタナショナル青年同盟は二十四ケ國の部（セクション）を有し、最も有力なるはソヴェト聯邦、獨逸、スカンヂナヴィア諸國、チェック等であるが二十四ケ國中の多くの國で青年同盟は非合法團體となつてゐる。之に對立して第二インタナショナルに屬する「インタナショナル勞働者青年同盟」（其の項參照）がある。

【共産黨少年團】

「赤色少年團」を見よ。

【共産黨史料部】 略稱「イスト・パルト」

聯邦共産黨（舊ロシア共産黨及び社會民主黨）並に一九一七年十一月革命に關する史料研究を任務とする特別の委員

會、諸種の史料文献等を編纂刊行する。

【共産黨宣言】 一八四七年マルクス、エンゲルスによりロンドンに於て書かれ同年無産運動の綱領として採用さる。社會の歴史は階級闘爭の歴史なりとする。階級的矛盾、ブルジョアジーとプロレタリアートの二階級の對立、ブルジョアジーの崩壊、プロレタリアートの新社會創造、其實現のために全世界のプロレタリアートの取るべき行動等を闡明す。

【共産黨大學】 此の大學の根本任務は共産黨員としてソヴェト機關の政治的指導者と教育家を養成するため各科の教育を施すにある。此の大學に入學するためには一年以上黨の學校において政治教育をうけまた三年以上生産に從事せる經歴と三年以上共産黨員たる經歴とを必要とする。一九二五年現在全聯邦を通じて此種の大學は十五あり七千五百人の學生を收容す。

【共産黨中央委員會】 (C. K.)

黨大會により選擧され大會と大會の期間における共産黨の最高機關、其の各部委員會を通じて黨務の指導、黨の發展、黨規の維持、政治的統制、宣傳等を行ふ。之等の黨務を行ふため中央委員會は(一)宣傳部、(二)事業配置部、(三)出版部、(四)女工、農婦部、(五)黨の史料調査部等を有する。「全聯邦共産黨」參照。

【共産黨中央統制委員會】 (C. K. K.)

全聯邦共産黨の重要なる指導機關の一、黨員の黨紀紊亂黨道徳の破壞を審議監査するため第十回黨大會の決定により組織された。以上の問題の審議に當つては黨中央委員會と並行的に絶大の權限をもつ。「全聯邦共産黨」參照。

【共産農業經營】

十一月革命後ソヴェト聯邦内には土地共有のもとに共同耕作を營み生産施設、農具、家畜、を共有とし又た生産品をも共有とする農業經營の形式が起つた。之等を共産農業經營(コムホーズ)といふ。一九二六年現在ロシア社・聯・ソ共和國内(全聯邦にあらず)の共産農業經營體の總數は千四百六十三經營、一經營の平均土地占有量は百〇一デシャチン餘(一デシャチンは我が一町歩餘)である。また他の共同的經營數は——農業アルテル八千四百三十七經營(一經營の占有土地平均六十五デシャチン)合資耕作四千百六十二經營、(占有土地平均約七十六デシャチン餘)である。

【協調審議委員會】

ソヴェト・ロシアにおける勞働者と企業家との爭議協調機關、委員は勞働者側と企業家側より半數づゝ參加せしめる。若し兩者の間に起れる爭議が勞農監督委員部において解決せざる場合、問題の大小に從ひ中央或は地方の勞働組合と企業機關とから代表者を出して組織される此の委員會の審議に附す。更に此の委員會でも解決せざる場合は仲裁委員會の審議に移される。「仲裁委員會」「勞農監督委員部」參照。

【協同組合】

ロシアにおいて初期の形態をもつた消費組合が起つたのは十九世紀の五十年代で、工場稼ぎに出かけた農民や工場勞働者の間に屢々共同出資による小賣店が設けられた。一八六六年にはカストロム縣で農民の信用組合が組織され、九十年代に入るや既に協同組合の原理を適用した家畜、農具の購入、秣苅、森林伐採等の共働を目的とした組合が小農民の間に組織された。ソヴェト政權樹立後ロシアにおける協同組合の役割と意義は從前のものと一變した。ソヴェト政府は協同組合を經て資本主義を××し社會主義を××する手段の一つとしてゐる。革命の最初の年から今日までにソヴェト・ロシアの協同組合は其の社會的經濟的制度の變化に伴ひ根本的變化の大きな段階を數回經てゐる。一九一八年四月十二日に公布された最初の消費組合法では、住民中の勤勞階級の大多數が組合に加入することを奬勵してゐるに止まる。その後戰時共産制度は協同組合の役割に非常な變化を與へた。此の制度のもとでは協同組合は商工資本との闘爭手段でもなければ資本の搾取から消費者を保護する手段でもなく、協同組合の任務は國家といふ大きな範圍における分配の機關となり、一九一九年三月二十日の消費組合法では、人民の消費に對する有ゆる分配の仕事が擧げて協同組合に託されてゐる。國家は全人民に對する食糧その他の配給を協同組合の手を經て行ふ事とし、從つて全人民は悉く單一勞農消費組合(略稱E. P. O)に統一されることを法律的に命じた。此の法律は協同組合の自由を强制的に拘束するものとして古い協同組合家の反對を買つたが、ソヴェト政府は之を斷行した。一九二〇年一月廿七日の法律により消費、手工業、農業等各種の形態をもつた協同組合は一つに統一され信用組合は當時の社會で信用貸といふものが消滅した結果、廢止された。新經濟政策の施行と共に再びソヴェト・ロシアの協同組合は新らしい第三の發展段階を迎へた。食糧徴發制度を撤廢し商品交換の自由を基礎とする經濟制

度が復活すると共に、私有商人の力を制肘して勞農階級の利益を擁護するために有力な消費、農業、協同組合の組織が必要となつて來た。一九二一年レニンは協同組合の役割を定義して「協同組合は商業形態として私有商業よりも有利であり有益である。協同組合は多くの住民の團結を容易ならしめるから、從つて將來國家資本主義から社會主義へ轉向するといふ見地からも大なるプラスとなる」と書いてゐる。一九二一年五月の共産黨會議と、翌二二年八月のソヴエト大會では、協同組合が私有資本との闘爭に役立ち勞農階級の結合に役立つやうに活動すべきものであることが力説された。之によつて新らしい協同組合の役割は、出來るだけ廣い範圍の消費者と生産者を自由なる信用と利益によつて誘引結合するといふ事となり、其の主意のもとに協同組合の發達を計ることが宣傳された。同時に農業、手工業等の協同組合は新經濟政策の施行以來、多くは各自に獨立した團體となつた。新經濟政策施行の直後、ソヴエト・ロシアには三つの形態の協同組合が聚約的に發達しはじめた。卽ち消費、農業、手工業の協同組合である。それから稍や後になつて一九二二年一月から信用組合、更にすつと後になり一九二四年八月廿一日の條令による住宅組合が起つた。

かくして現在では五つの形態の協同組合がある譯である。その組織について概說する。

消費協同組合　最低單位の消費組合が數個以上聯合して地方聯合組合を組織し之を經て中央組合卽ち「ツエントロ・ソユズ」に加盟する。大規模産業機關の勞働者の協同組合、交通從業員協同組合の如く組合員二千名以上を有するものは地方聯合を經ずに直接「ツエントロ・ソユズ」に加盟する。組合規約は一九二一年以後も屢々變更され（全人民の義務的加入制度が其の後撤廢された如く）一九二四年五月二十日に現行の消費組合法が公布された。これによれば消費組合加入有資格者は憲法により參政權を賦與された凡ての人民であつて、其の加入は各自の自由となつた。從つて從前加入の資格をもつてゐた者で憲法によつて參政權を剝奪されてゐる者、私有商人、牧入を目的として他人の勞力を搾取してゐる者は消費組合に加入する權利を失ふ事となつた。又た同法により消費組合の事業の規準が定められ、組合には次の權利が與へられた。（イ）農業、手工業、一般工業生産品の販賣、（ロ）仲介、代理の原則のもとに國營及び協同組合經營の工業製品を一般人民に分配、（ハ）模範賣店の設置、（ニ）原料品の買付けと加工、（ホ）組合員及び周圍の勞

農階級の需要を滿足せしむるため農業、手工業、工業生産品の加工、（ヘ）組合員の製品、組合員が生産のため必要とする機械用具の仲介販賣と購入、（ト）組合員の利用に提供する倉庫の開設、（チ）信用貸部の設置、（リ）協同組合の思想普及のための敎化宣傳、（ヌ）組合代表者會議の決定する所に基づき組合員以外の需要にも應ずる、等の權利である。ソヴエト消費組合が單に經濟的のみでなく政治的に特色をもつてゐる事が之によつて判る。

農業協同組合　一九二一年八月十六日の法令により單一消費組合から獨立するの權利が認められた。農業協同組合の任務は、農業經營生産力の增加、微力なる農民に對する經濟的援助、農民の獨立經營の發達、農業の改善、小規模單個經營より大規模共同經營への轉向を容易ならしめるため其の中心勢力となる事などである。製粉所、バタ製造所、その他原料品加工の共同機關を設置し、葡萄、馬鈴薯、棉花、麻、烟草、藥草、及び牧畜等の如き特別な農業文化の向上をはかり、種子の供給販賣等を仲介し、農民經濟の利益を計るのが主要任務である。組合の組織體系は消費組合の場合と略ぼ同じ。全露農業協同組合同盟（略稱「セリスコ・ソユズ」）が其の中央機關である。中央機關の下には個々の生産部門による獨立した中央部がおかれてある。例へば麻、馬鈴薯、バタ等の如きは各生産別中央部を有す。

手工業協同組合　一九二二年八月二十一日最高國民經濟會議の確認せる現行規則に基き組織され、中央機關は露語略稱「フセコ・プロム・ソユズ」と謂ふ。地方の個々の手工業組合手工業アルテルは州、縣の聯合を經て之に加盟する。此種の協同組合は戰時共産主義時代にも存在したが新經濟政策と共に一九二一年七月七日の手工業協同組合法が公布されて以來特に發達した。組合員のために原料の購入、生産品の販賣を仲介し必要なる信用貸を與へるのが主たる目的である。

信用組合　新經濟政策が施行され、協同組合が發達を遂げると共に從來全く廢滅に歸してゐた信用組合を復興するの必要が起り一九二二年一月廿四日人民委員會議により信用組合法が公布された。此の法律によれば各組合は五十名以上の組合員を有する必要があり、三個以上の組合をもつて聯合組合を組織するの權利を與へられ、其の資金は現金物品による組合員の拂込株と國立信用貸銀行からの借入れを以てする。信用組合の事業の性質は一九二三年財務、農務兩人民委員部の條令に基き次の如く定められた。（イ）組

合員に對し經營に必要なる現金、物品の貸付、(ロ)一般人民の遊資を預かり利用する、(ハ)振替、割引等の方法により個人又は團體間の勘定を簡易にする、(ニ)組合員の生産經營等に必要なる用具、材料、原料の貸付、立替購入、(ホ)組合員生産品の仲介販賣、(ヘ)組合員の企業經營其他の改善組織建設、(ト)當該地方住民の間に農業、生産工業等の智識普及、(チ)組合員の農業、生産工業等の改善に對する各種の援助等。信用協同組合の全露中央機關は一九二三年開設された全露協同組合銀行、略稱「プセコ・バンク」である。

住宅協同組合　以上四つの協同組合とは其の内容形態と條件を稍や異にする。この組合は革命騒亂中に破壊された各都市の住宅難を緩和するために起つたもので、一九二四年八月二十一日の住宅協同組合法による。この法令によれば「住宅難を緩和するため廣く勤勞大衆に對し獨立的原則のもとに住宅の建築を援助する」を目的とし、市民は次の三つの形態による住宅協同組合に任意に加盟することが出來る。(一)公有化されたる家屋を賃租借する住宅租借組合、(二)組合員の需要を滿たすため新築、破壊されたる家屋の修繕、又は未完成建築物の完成のために組織さるゝ住宅建築協同組合、(三)勞働者、官廳勤務者、勞働組合又は共産黨々務に從事する者によつて組織さるゝ勞働者住宅建築協同組合。之等の組合は共に地域的に聯合組合を組織し更に中央住宅協同組合同盟に結合する。上述五つの協同組合の外に一般消費組合に加盟しながら獨自の有力なる中央機關を有する軍隊協同組合と勞働者協同組合とがある。ソヴェト政權の見る所によれば協同組合は社會主義制度建設の訓練所であり且つ新らしき基礎の上に經濟的改造を行ふ重要なる手段の一つである。一九二六年四月一日現在全ソヴェト聯邦内における各種協同組合の總數は七六、三四二組合、同組合員總數一八、九一一、七六二人。(數字は協同組合中央評議會の統計報告による)

【協同組合縣支部】
「グブ・ソユズ」を見よ。

【極左共産黨】
露語「ウリトラ・レエウイ」ソヴェート聯邦における新經濟政策をもつて革命的自殺とし、唯一の産業プロレタリア團體たる勞働組合の手に産業の全管理權を掌握し、官僚化したソヴェート産業における支配人(ディレクトル)の支配權を撤廢せよと要求する。此の一派は全聯邦共産黨の多數派が執りつゝある半社會主義的資本制度の下に漸進的に國内の生産分配機關を協同組合化する方法を以て世界革命が如何に延引してもソヴェト聯邦は單獨に社會主義國家を創建しうるといふ見解と政策を、日和見的自己欺瞞なりとして攻撃してゐる。一九二一年にラボーチャヤ・プラヴダ(勞働者の眞理)、一九二三年にラボーチャヤ・オッポヂーツイヤ(勞働者反對者)等を組織し、秘密の間に勞働者の間に反幹部宣傳を行ひ其の都度多數派から排撃された。此の一派の主張はアナルコ・サンヂカリズム的傾向をもつてゐると見られてゐる。トロツキー、ジノヴィエフ、カメネフ等と共に一九二七年十二月の共産黨大會で除名された者の中にも多數此派の連中がゐた。

【虚無主義】
「ニヒリズム」を見よ。

【義勇艦隊】
略稱「ドブロフロト」帝制ロシア時代の義勇艦隊に倣ひ組織され、航空事業の發達を計る目的を有する特殊の株式會社、其の任務とする所は(一)ソヴェト聯邦内における旅客及び貴重品の航空輸送、(二)空中寫眞撮影事業、(三)邊境地方の航空探檢、(四)ソヴェト航空事業の發達等である。

【キルギス自治共和國】
ロシア社・聯・ソ・共和國中の自治共和國。アストラハン、ウラル、トゥルガイ、セミパラチンスク、アクモリンの諸縣中、キルギス族の分布地方を合せて領域二百萬平方露里、人口五百萬を有す。キルギス人の主業は牧畜狩獵。

【銀行國有化】
十一月革命後、最初は他の私有企業と同樣に私有銀行も所有者の手に殘して勞働者監督下に置れたが、私有者の手中に銀行を殘しつゝ行はれる監督の不可能なことが判つたので一九一七年十二月十四日の法令でロシアに現存する全銀行は施設、財産、預金とも國有化を宣布し、ソヴェト政府は多くの財源を得、また銀行事業の國家統一を完成した。

防に自覺せしめ聯邦内の化學工業發達を促進することを目的とする協會。

【義勇航空艦隊】
略稱「ドブロレト」帝制ロシア時代の義勇艦隊に倣ひ組織され、航空事業の發達を計る目的を有する特殊の株式會社、其の任務とする所は(一)ソヴェト聯邦内における旅客及び貴重品の航空輸送、(二)空中寫眞撮影事業、(三)邊境地方の航空探檢、(四)ソヴェト航空事業の發達等である。

【キルギス自治共和國】
ロシア社・聯・ソ・共和國中の自治共和國。アストラハン、ウラル、トゥルガイ、セミパラチンスク、アクモリンの諸縣中、キルギス族の分布地方を合せて領域二百萬平方露里、人口五百萬を有す。キルギス人の主業は牧畜狩獵。

【銀行國有化】
十一月革命後、最初は他の私有企業と同樣に私有銀行も所有者の手に殘して勞働者監督下に置れたが、私有者の手中に銀行を殘しつゝ行はれる監督の不可能なことが判つたので一九一七年十二月十四日の法令でロシアに現存する全銀行は施設、財産、預金とも國有化を宣布し、ソヴェト政府は多くの財源を得、また銀行事業の國家統一を完成した。

ク

【グブソユズ】

中央協同組合聯合を「ツェントロ・ソユズ」といふに對し縣の協同組合聯合を「グブ・ソユズ」といふ。「グブ・ソユズ」の任務は縣内の各個の協同組合に對し必要なる商品の供給かなし、都市と農村との物資交換を順調圓滑ならしむるにある。「ツェントロ・ソユズ」參照。

【グラフキズム】

ロシア革命後一九一八年より一九二〇年に至る戰時共産制時代に國有化されたる全産業機關を悉く産業部門別としてグラフカ(主腦部或は中樞部の意)又は中央機關に統一せる制度をいふ。新經濟政策と共にグラフカは解體して個々のトラストに改造さる。

【グラフ・ポリト・プロスヴェト】

「中央政治教育委員會」を見よ。

【グルジンスカヤ社・ソ・共和國】

グルジィヤ(ジョルヂヤ)における反ソヴェト＝メンシェヴィキ政府が赤軍により掃蕩された一九二一年二月に建設。アブハジヤ、アツジャリスタン、南部オセチイ等の自治共和國を統轄しザ・コーカサス聯邦の盟主となる。首府チフリス。グルジィヤの人口二百四十萬、グルジン、アルメニア、オセチ、韃靼の諸民族及びロシア人より成る住民は主として農業を營む。

【クリムスカヤ社・ソ・自治共和國】

舊タヴリチェスカヤ縣に屬する黑海沿岸のクリミヤ半島にあり。同地は一九一八年最初のソヴェト政權が出現して以來、ドイツ軍の占領、デニキン軍、ウランゲリ軍等白衞軍の根據地となり、數回政變を繰返し一九二一年ソヴェト政權の手に歸しロシア社・聯・ソ・共和國中の自治共和國となる。領域三萬三千平方露里、人口七十六萬餘、住民はタタール人(韃靼人)ロシア人、ウクライナ人、ギリシア人、アルメニア人、獨逸人等、農業、牧畜、果樹、蔬菜、煙草の栽培を專らとし、葡萄の名産地、絹をも産す。また南に黑海を望み北に山嶽を負ひ高架索沿岸と共にロシアにおける有數の療養地。首府シンフェローポリ。セヴァストーポリ軍港あり。

【クレストインテルン】

「赤色國際農民組合」を見よ。

【クレスト監獄】

帝制時代ペテルブルグにあつた政治犯人監獄、十字架型に建築されあるため其の形により斯く稱せらる。

【クレムリン】

上代ロシアの各都市にあつた市城、卽ち「堅め所」の意、外敵の襲來に際して之を堅めて近鄕の人民の來援を待つに備へた。最も壯麗且つ美術的な又た規模に於ても代表的なものはモスクワ「クレムリ」(露語「クレムリン」と言はず「クレムリ」といふ)である。モスクワ「クレムリ」内には現在ソヴェト聯邦中央執行委員會、及び人民委員會議がある。レニンも曾てクレムリ内に住みカリニン、ルイコフ、スターリン其他ソヴェト政權の幹部は其内に住む。内城壁外の「赤き廣場」はレニン始め革命鬪士の墓地となつてゐる。ナポレオンもモスクワ占領の時、其の城内に住んだ。

【クロンシタット事變】

一九二一年三月一日クロンシタット軍港に演說會を開き無政府主義者と左翼社會黨員をソヴェトに加入せしむべしと決議し、翌三月二日該演說會代表者は革命軍事委員會を組織し同市のソヴェト政權を顚覆し、全市を支配し、ソヴェト政府の選擧法の非と國内破壞に對する罪を責め、政權が臨時革命委員會に移れることを飛檄した。此の反亂には同地の水兵が加擔し鎭壓に向へる赤衞軍と數日間交戰をつゞけた後鎭壓された。反亂の原因はソヴェト政權の食糧徵發その他一般に戰時共産制度に對する人民の不滿の反映である。此の反亂によりレニンは新經濟政策施行を一層深く決意したと言はれてゐる。

【クロンシタット反亂】

一九〇五年革命騷亂中、クロンシタット××は反亂を起したが同地砲兵隊より砲擊をうけて直ちに降服した。

【軍事産業委員會】

一九一五年八月二十七日ロシア國會の決議により戰爭に必要なる軍需品の生産を圓滑ならしめるため政府、企業家、勞働者の代表者により組織された。ペトログラドではボリシェヴィキの提議により十一月二十七日の工場選擧人會で之に參加拒絕を決定した。政府は改めて選擧人會を召集し之に反對せるボリシェヴィキ派の勞働者を檢擧し、メンシェヴィキ派のグヴオズデフを首領とする軍産委員會參加派の勞働團體が結成された。然し此の團體も一九一七年一月に至り左傾的なりとの理由で解散を命ぜられ其の會員は檢擧された。

【軍事總教育】

通常兵役の義務は男子に限られてゐるが、共産黨青少年團における軍事教育は男女を通じて行はれてゐる。學校における軍事豫備教育の外に勞農の子弟には十九歳より二十歳の終りまでの二年間を通じて合計十週間の軍事教育が義務的に課せられてゐる。

【軍縮とソヴエト・ロシア】

一九二七年夏の日英米三國軍縮會議が失敗に歸した後、同年九月國際聯盟總會と理事會の申合せにより十一月卅日からジュネヴに軍縮準備委員會を開く事となり、之にはヴォロフスキイ暗殺事件以來スイスと斷交狀態にあつたため同國内に開かれる一切の會議に出席を拒絶して來たソヴエト・ロシアが同國との紛爭を解決して新たに參加を申込んだ。次席外務委員リトヴィノフが全權として出席、大に外交界に興味を與へたが、ソヴエト・ロシアは豫期の如く會議の劈頭に軍備全廢の原則的提案をなし、この問題は一九二八年開催さるべき軍縮會議の審議に廻すことゝなつた。ソヴエト政府の軍縮に對する一貫した見解は、今日まで國際聯盟を中心として行はれた各種の軍縮に關する事業は寄木細工的で雜多な情實に纏綿され根本的に行詰つてゐるから、眞に軍縮の目的を達成するには、今日までの一切の行懸りを清算して新規蒔き直しにやり直さねば駄目だといふにある。

【軍隊政治教育部】

露略「プウル」革命軍事會議に直屬し、赤軍並に艦隊内に共産黨的指導と政治教育とを與へる最高機關。

ケ

【計劃經濟】

何れの國家でも經濟計劃のない政府はないが、私有經濟の自由、私有資本の自由が完全に保障されてゐる社會では國家が完全なる計劃的經濟を遂行することは至難だ。大規模經濟機關を國家の手に掌握し且つ貿易を國有とするソヴエト聯邦では各年度の前において次年度の國民經濟の規準を計劃的に立て、之によつて經濟の運用を行つてゐる。需要、供給、生産、分配、輸出、輸入、購入、販賣等は特別の場合を除き此の計劃に從つて行はれる。國家の豫算とは全然別個のものであつて、此の計劃の立案は勞働及び防衛會議に屬する國家計劃委員會(ゴスプラン)が行ふ。例へば一九二七年九月には既に一般の情勢を基礎として同年十月より一九二八年九月に至る計劃經濟表が作製され之を「……年度ソヴエト聯邦國民經濟監督數字表」と名づけてゐる。試みに其中から戰前との比例(戰前を一〇〇とし)に於て一九二六=七年度に實行された經濟計劃及び一九二七=八年に實行せんとする經濟計劃表を工業、農業、運輸機關、

税收入等の項目において略示せば次の如くである。

	一九一三年%	一九二六・七年%	一九二七・八年%
一、工業			
石炭 〃	一〇〇	一〇七、一	一二四、一
石油 〃		一〇九、七	一二〇、七
銑鐵 〃		七〇、五	八二、三
金屬材 〃		七六、三	八五、二
綿織物 〃		一〇五、四	一一二、〇
二、農業			
耕地面積	一〇〇	九五、一	九七、六
家畜 〃		九六、九	一〇二、八
三、運輸			
鐵道延長	一〇〇	一三〇、三	一三二、〇
貨物輸送高 〃		九九、一	一一四、二
四、税收入			
全租税	一〇〇	八三、五	九四、一
內消費税 〃		七三、〇	八六、九

「勞働及防衛會議」參照。

【經濟管區制度】

ソヴエト聯邦では各地方を州、縣の行政管區の外に經濟

的見地から統一的に區劃し十二の經濟管區が制定されてゐる。即ち(一)北西地方、(二)北東地方、(三)西部地方、(四)中央工業地方、(五)ヴャトカ・ヴェトルジ地方、(六)ウラル地方、(七)中央黑土地方、(八)中部ヴォルガ地方、(九)ヴォルガ下流地方、(一〇)南西地方、(一一)南部鑛業地方(一二)高架索及びソヴェト聯邦領アジア地方(此内には(イ)西部シベリア、(ロ)クヅネツコ・アルタイ、(ハ)エニセイ、(ニ)レナ・アンガル、(ホ)ヤクーツクの諸地方を含む)

【經濟主義】(エコノミズム)

一八九〇年代の末から一九〇〇年代の初頭にかけて發展したロシア社會民主黨内における一つの思潮。此の思潮は「在外ロシア社會民主々義者同盟」や、ロシア内の各團體を一時相當に廣く把握した。その中央機關紙は「ラボーチャヤ・ムイスリ」(勞働者の思想)「ラボーチェエ・デェロ」(勞働者の事業)であつた。經濟主義の根本的立場は(一)勞働運動の最も大きな意義は生活の改善、獨立的勞働組合、勞働者協同組合等を獲得するがために資本主義と純經濟鬪爭を行ふにある、專制政府との政治鬪爭は智識階級が自由主義者と提携して行ふべきものである。(二)中央集權的な黨機關の革命的指導機關としての役割を認めず勞働運動としての大衆運動にのみ重心を置く。(三)革命鬪爭を後廻しとして日常の勞働條件改善を目的とする罷業をもつて革命鬪爭にかへる等である。この「經濟主義」の思潮に對抗してレニンとプレハノフは猛鬪した。一九〇〇年頃のロシアにおいて、經濟主義は急激な發展をとげ異常な流行を見た。「修正マルクス主義」と共通點をもつ。

【經濟評議會】

ソヴェト聯邦「勞働及び防衞會議」の地方機關、略稱「エコソ」。その委員は當該地方の執行委員會に屬する各經濟關係の局課から選任される。評議會の任務は地方經濟機關の間の連絡統一を計るにある。

【ゲペウ】

普通「國家政治保安部」又は「公安局」と譯される。「ゴスダルストヴェンノエ・ポリティチェスコエ・ウプラウレニエ」の略稱。革命直後の非常委員會(チェカ)を一九二一年改稱せるもの。ソヴェト政權に反抗する有ゆる分子を探偵し捕縛し處刑するの權能をもち、現在十數萬の特別軍隊を有す。「ヴェチェカ」參照。

【縣執行委員會】

露語略稱「グブイスポルコム」。又は(G. I. K)縣ソヴェト大會により選擧され之に對し責任を有する縣の最高政權機關。モスクヮ及びレニングラードを除き普通其の成員二十五人以下、任期一年、通常每月一回召集される。其の仕事の範圍は(イ)縣執行委員會幹部會及び各部(行政部)の事業監査(ロ)中央政權の法令、命令、布告の實施(ハ)縣内の政治的秩序維持(ニ)縣内にある中央政府所屬各官廳支部に對する指導監督等である。每年三回以上擴大會議を開き縣執行委員の外、郡、市、大規模産業地區ソヴェトの執行委員會より一名づゝの代表者を集め縣政の統一連絡を計る。縣執行委員會の開期と開期の間には議長以下七名から成る縣執行委員會幹部會が其の政權を代行する。縣執行委員會の行政各部は(一)總務、(二)軍務、(三)財務、(四)農務、(五)地方經濟(最高國民經濟會議の支部を含む)、(六)社會救濟、(七)教育、(八)保健衞生、(九)勞働、(一〇)内國商業、(一一)勞農監督、(一二)警察、(一三)統計等の各部に分る。司法部の代りに縣檢事廳があり、更に特別の委員會制度の下に縣經濟會議がある。「附錄圖解」參照。

【縣ソヴェト大會】

每年一回以上召集される縣の最高政治機關。下級ソヴェト大會並にソヴェトの代表者、即ち(一)郡ソヴェト大會より人口一萬人每に一人、(二)市、及び市外所在の工場部落ソヴェトより選擧民二千人每に一人の割合を以て選出されたる代議員により構成される。縣ソヴェト大會の仕事は主として縣の豫算及び決算の確認、縣及び郡執行委員會の政務の審議確認、縣執行委員並に共和國ソヴェト大會代議員の選擧である。通常大會の外に共和國の勸告又は郡執行委員會と市ソヴェトの三分の一以上の要求ある時は臨時大會を召集する。「ソヴェト大會」參照。

【縣黨務委員會】

略稱「グブコム」共産黨縣大會により選擧され共産黨ヤチェイカ(細胞)を通じて縣のソヴェト、勞働組合、その他の機關に對する活動を指導する。

【憲法】

「ソヴェト聯邦の憲法」及び「ロシア社・聯・ソ・共和國の憲法」を見よ。

【憲法會議】

露語「ウチレディテリノエ・ソブラニエ」は建國會議とも譯し得るが、既に普及されたる邦譯は「憲法會議」である。廣義には新らしい國家制度或は憲法改訂のために行はれる國民代表者の會議である。ロシアにおいては一九一七年三

月革命の後に其の召集が豫定され、選擧を終り召集されたのは十一月革命後であつた。此の召集は一九一八年ソヴェト政權によつて行はれたが、議員の多數は社會革命黨員であり、ソヴェト政權に對立してソヴェトを以て全ロシアの最高政權と認むることを拒否したゝめ直ちにソヴェト政權により解散を命ぜられた。その後社會革命黨はチェツク軍コルチャツク軍等の占領せるサマラ、ウファ等で憲法會議を召集したが、成果なくして了つた。

【現物稅制度】

此の制度は一九二一年に都會において食糧品が非常に缺乏してゐた時代、多くの富有農民の手にある剩餘穀物が自由市場と輸送機關の缺如により都會に出て來なかつたのを絞り出すために現物をもつて課稅する方法として採用された。課稅の程率は耕地の廣さ家畜の頭數等により決定され無產農民は免稅された。一九二三年に至り農業單一稅の制定と共に此の稅法は廢された。

【公安局】

「ゲペウ」を見よ。

【工業銀行】（プロム・バンク）

新經濟政策施行後交通人民委員部、貿易人民委員部の參加のもとに最高經濟會議により創設さる。主として國營工業、貿易、交通事業に對する便宜を與ふることを任務とする特殊の國有銀行。

【工場委員會】

工場委員會制度が現在法律の規定によつて公認されてゐるのは、獨、墺、チエック及びソヴェト聯邦だけである。玆にはソヴェト聯邦についてのみ記す。工場委員會は勞働法典の百五十一條、百六十七條に定められる所、また一九二二年全露勞働組合評議會の決定せる所により各工場において必ず組織される。露語略稱「ファブザフコム」といふ。その根本的な任務は勞働者及び一般勤務員の境遇及び生活の改善、文化と技術の向上を援けるにある。同時に當該工場の生產機關の改善、生產計畫、經營計畫等に對し工場委員會は勞働組合を通じて參加し、勞働組合に對し多數從業員の意向を代表しまた組合への加入手續會費徵收等を取扱ふ。國營たると私營たるとを問はず二十五人以上の從業員を有する機關では必ず工場委員會又は之に準ずる現場委員會が組織され、それ以下の場合は代議員が選ばれる。委員會は企業內の勞働者總會により選出され該總會に責任を有し又た勞働組合に服從する。從つて工場委員たり得る者は必らず勞働組合員たるを要し、任期は六ヶ月である。工場委員の數は二十五人より三百人までの企業では三人、三百人より千人まで五人、千人より五千人まで七人、五千人以上九人である。委員は一定の時間（大工場においては五百人毎に一人は全時間）從業から解放され、それ等の賃銀費用は企業側の負擔とされる。

【工場徒弟學校】

大きな國營工場には必らず工場學校が附屬しており未成年者は見習として使役される代りに此の學校內で理論と實際について敎習をうけてから熟練工となる。中央統計院の報告によれば一九二五年現在全聯邦內の工場學校の施設は七百七十三校、六萬八千の徒弟が實習しつゝある。

【鄕執行委員會】（ヴォルイスポルコム）

「ヴォロスチ」を見よ。

【黄色インタナショナル】 革命主義的社會主義者の間では第二インタナショナルをさう呼んでゐる。「インタナショナル」參照。

【黄色勞働組合】 階級的勞働組合政策をもたざる勞働組合を左翼的勞働運動家の側からさう呼ぶ。

【交通人民委員部】 露略「ナルコムプゥチ」。ソヴェト聯邦内の水陸交通機關に關する一切を統轄す。

【合法的マルクス主義】 一八九〇年代にロシアで公然と許された新聞雜誌の上で宣傳されたマルクス主義をかく名づけた。合法的マルクス主義は其頃までロシアのインテリゲンツィヤの頭を支配してゐた人民主義革命思想(「人民主義」參照)に對する批判をもつて進出した。合法的マルクス主義の最初の大きな著述は一八九四年に出版されたペ・ストゥルヴェの「ロシアの經濟的發達の批判」である。それから一八九五年ペリトフ(プレハノフの匿名)の「一元論史觀」が出て以來、ロシアにおけるマルクス主義の流行に非常な刺戟を與へ、マルクス主義雜誌「ノーヴォエ・スローヴォ」(新聲)が公刊されるに至つた。九十年代の末には合法的マルクス主義の宣傳によつてマルクス主義はロシアの革命的インテリゲンツィヤの間における支配的な世界觀となるに至つた。然るに聽て間もなく合法的マルクス主義者の多くは(有名な人物ではストゥルヴェ、トゥガン・バラノフスキイ、ブルガコフ、ベルヂャエフ等)マルクス學說の吟味修正をはじめ自由主義的傾向へと轉じ多くは立憲民主黨に入つた。之に對して最も激烈に挑戰したのは在外「イスクラ」派である。「イスクラ」參照。

【合辨會社】 ソヴェト・ロシアにおける合辨會社の意味は個人資本參加のもとに國家が組織する企業會社の謂である。普通五一%即ち五割一分を國家の持株とし四割九分を個人資本の持株として事業管理上の權利をば國家の手に保持する事としてゐる。

【五月一日祭】(メー・デー) 一八八九年パリにおける社會黨國際大會において各國勞働者の共同精神を表示するため毎年五月一日を以て勞働者の國際祭日とすることを決議す。ソヴェト聯邦では公祭日として官廳、商店、會社、銀行、工場、觀覽物の一切が休む。

【國營保險局】 一九二二年財務人民委員部内に設置さる。最初國庫より二百五十萬ルーブルの基本金を與へられ先づモスクワ、レニングラド其他の重要都市に、次で各縣に支部を設けた。協同組合が獨立せる保險部を有する以外、一切の保險業務に對し國營保險局は獨占權を與へられてゐる。

【國營勞働者社會保險】 ソヴェト政府の制定せる此の保險法によれば、有ゆる勞働者又は一定の勞働者の集團(例へば大規模産業に從業する)は必ず保險加入をなし、其の保險金は雇主側の負擔とし病傷失業に對し保險する事となつてゐる。

【國會】 「ゴスダルストヴェンナヤ・ドゥマ」といふ。一九〇五年ロシア革命騷亂の後勅令を以て開設さる。但し選擧制度による下院を國會と稱し舊國務參議院(國家最高會議)を上院とす。第一、第二國會は政府と衝突して解散、一九一七年三月革命の際は第四期選出の國會であつた。三月革命後國會は一時政權の中心となつたが、勞農兵ソヴェトの權力增大と共に自然消滅した。「三月革命」「十一月革命」參照。

【國家計畫委員會】 露語略稱「ゴスプラン」。勞働及び防衞會議に屬する機關、國民經濟の一般的計畫を行ふ。

【國家資本主義】 現代資本主義國家における「國家資本主義」とは國家の權力によつて國民經濟を規制する制度の謂である。此の制度は世界大戰中に各國に行はれ消費量、價格、取引、更に進んで生産までが國家の監督をうけるに至つた。之を最初に行つたのは獨逸、次で他の諸國も之を施行するに至つた。現時ソヴェト・ロシアも國家資本主義制度のもとに國民經濟の運用を行ひ、政府と之に監督される經濟企業との契約の制度によつて表現されてゐる。レニンは此の國家資本主義制度の下における四つの基礎的形態を規定して利權企業、協同組合、仲介企業、租借企業に分類した。之等の企業は國家と一定の契約を結び其の監督をうける。ソヴェト・ロシアに於ては一定の限度を越えた稍や大規模な企業は悉く此の制度によらればならぬ。日本が北樺太に於て得たる石油、石炭の利權も、其他漁業林業等の利權も何れも此の制度に準じて讓渡されるものである。

【國家政治保安部】

「ゲペウ」を見よ。

【黒色百人組】

ロシア皇室擁護に熱心なる貴族官僚の間における極端反動主義者の一般的代名詞である。「チョルノソーテンツイ」を見よ。

【國際宣傳委員會】

赤色國際勞働組合の傍系的機關、一九二三年以來各種の産業別國際委員會を組織す。各國の勞働組合内にある左翼少數團體が國際的に結合し其の所屬組合員をXXXするこを主要なる任務とする。

【國際坑夫親善】

一九二六年六月エッセン坑夫大會において一定の國際區域における勞働條件の統一、一の國における罷業に際し他の國より石炭の輸送を拒絶する同盟が成立し、先づ(一)獨、佛、白、蘭(二)獨、波、チェックの坑夫親善が設定され、漸次に他の産業にも此の思想を普及せしめんとしてゐる。

【國際聯盟】

國際聯盟の思想は十九世紀の末から起つた。萬國議員會議も其の一つである。次で一八九一年スイスのベルンに國際平和局が設けられ各國の平和主義者が民族間の爭議を仲裁する機關となつた。一八九九年ロシアの主唱でヘーグに最初の國際平和會議が召集され仲裁裁判協約に二十六ケ國が調印し、此の平和會議は一九一四年まで毎年定期的に會議をつゞけて來た。現在の國際聯盟は一九一九年二月、英、米、佛、伊、日、伯、支、葡、波、チェック等の諸國から成る委員會の作案により組織された。國際聯盟は先づ戰勝各國により組織された上、中立國が之に招聘され、更に後に至つて獨逸その他の戰敗國の加盟が勸誘された。聯盟の目的は各國民間の協調と戰爭回避にある。聯盟の事業は常設事務局を有する聯盟理事會と聯盟總會により行はれる(二條)。聯盟總會は聯盟各國より三名以下の代表者を出し決議に際しては一國一票主義とする(三條)。聯盟理事會は最初英、佛、伊、日と他の小國四ケ國から成立し、理事會の議席は常任と臨時とに分れてゐる(四條)。一九二七年に獨逸が加盟してから常任理事は英、佛、伊、日、獨の五ケ國となり殘る四つの席を他の聯盟國が順次に占めることゝなつた。總會、理事會の決議は滿場一致の場合にのみ效力を發生する(五條)。聯盟の所在地はジュネヴとする(七條)。加盟各國は軍備制限の必要を原則として認める(八條)。聯盟國間の爭議に對する仲裁々判の決定に服することを同意し

其の決定後三ケ月間は戰爭を始めぬ(十二、十三條)。加盟國間の爭議が仲裁々判により解決されざる場合は聯盟總會の審議に移す(十五條)。加盟國が十二、十三、十五の各條に違反し戰爭を開始せる場合は之を他の加盟各國に對する敵對行爲と認め各國は其の國と斷交し聯盟規約を尊重する國に軍事的援助を與へる(十六條)。爭議國の一方が聯盟に加盟し他方が然らざる場合聯盟は之に干渉し若し非加盟國が戰爭を開始せる場合は聯盟は第十六條の行動に訴へる(第十七條)。聯盟國は聯盟規約に抵觸する條約を結ぶを得ない(二十條)。二十二條に獨逸植民地の委員統治に關する取極め二十三條においては聯盟の人道的精神が强調されてゐる。聯盟規約決定當時の加盟國は四十ケ國であつたが一九二六年ドイツが常任理事國となる約束で加盟する事となるやブラジル、スペインの兩國も常任理事國たらんことを要求し容れられずして脫退した。ソヴェト聯邦の國際聯盟に對する態度は、世界各國民間の相互關係を誠意をもつて整理せんとする機關にあらずして數個の大國の我意を遂げる道具に過ぎずとして、之を承認することも之に加盟することも拒絶してゐる。

【國際勞働組合評議會】

「プロフインテルン」(國際赤色勞働組合)は最初「メジドゥナロドヌイ・ソヴェト・プロフソユザ」即ち國際勞働組合評議會、略語「メジソフプロフ」と呼んだ。

【國際勞働者救援協會】

一九二一年ロシア大飢饉に際して、各國の勞働組合が救濟醵金をロシア勞働者に送つたのを動機として組織、翌二二年七月ベルリンに於て第一回の國際會議が召集された。それ以來屢く各國の勞働者に對する相互救援機關となつた。一九二三年日本大震災に對し援助を決議し上海に代表者を派遣し、同地においてヨーロッパ勞働者の義捐金を日本勞働組合代表に傳達した。また同年ルール地方の勞働者に對しても巨額の救濟金を送つた。一九二四年伯林に開かれた大會には二十四ケ國の代表者が出席し、之と同時にソヴェト・ロシアに支部が設置され、支那、英國その他各國の罷業及び勞働運動の事變あるごとに多額の援助金を送つてゐる。一九二六年度の報告によると二十四ケ國の各支部を通じて會員の數は千五百萬人以上に達してゐる。ロシア、ドイツ等のごとく此の組織の發達してゐる國では出版部、劇場、映畫劇場等を有し之によつて宣傳と基金の募集を行つてゐる。

【國章】
ソヴェト社會主義共和國聯邦の國章は鎚と鎌とを中央に交叉し麥の穗を以て其の周圍を圓形に圍む。

【國民社會黨】（「N. S」黨）
人民派中の穩健派により一九〇五年革命の後に結成され進歩的小ブルジョア黨として大なる勢力をなすに至らず、十一月革命後、反ソヴェト運動を起せるチャイコフスキー等は此の黨派に屬した。

【國立銀行】
略稱「ゴスバンク」。ソヴェト聯邦の國立銀行は一九二一年の末新經濟政策の結果現在の形に組織された。一九二二年十月十一日附の法令により國立銀行の紙幣發行局はチェルヴォネツ（國立銀行券）の發行權を與へられた。ソヴェト聯邦國立銀行の外に各種の專門的な信用貸銀行、例へば貿易銀行、商工銀行、協同組合銀行等があるから國立銀行は全ソヴェト聯邦の信用貸事業を獨占してゐる譯ではないが、他の銀行に對し親銀行の役目をもつてゐる。「チェルヴォネツ」參照。

【國有化】
露語ナツョナリザーツィヤ。土地、水利、鑛山、產業、商業、交通機關等を國家の所有に換へること。社會革命の段階において政治經濟上の權力を資本階級より無產階級へ完全に移すため生產手段の國有化は必然的であるとの解釋にもとづき、ソヴェト・ロシアでは一九一七年十一月革命の直後に各種の國有化法令が發布された。土地國有、銀行國有、水運機關、鐵道の國有、全大規模產業の國有等に關する法令がそれであつて、玆に擧げたる範圍の國有制度は新經濟政策後といへども保持されてをり、此の制度は純粹資本主義經濟への後退を阻止するソヴェト政治の基調だとされてゐる。

【國有貿易制度】
「貿易國有制度」を見よ。

【ゴスイズダト】
露語「ゴスダルストヴェンノエ、イズダーテリストヴォ」の略稱、卽ち國立出版會社。

【ゴスキノ】
教育人民委員部に屬する活動寫眞企業の中心、多くの映畫製作所を有する。國立映畫會社。

【ゴスプラン】
「國家計畫委員會」を見よ。「人民委員會議」參照。

【ゴータ綱領】
ゴータ（獨逸）に於ける獨逸社會勞働黨中の二派——ラッサール派と、アイゼナッハ派（マルキスト）との聯合大會（一八七五年）で妥協により採決された綱領を言ふ。主要條項は（一）勞働の全生產品は勞働者のために、（二）貸銀鐵則（三）國家信用貸による共同生產、（四）ブルジョアを「單一反動大衆」と認める等である。此の綱領はマルクスの排擊する所となり一八九一年のエルフルト大會で改訂された。「エルフルト大會」參照。

【コミッサール】
ソヴェト政府或は地方政權の任ずる全權執政官である。例へば「ナロドヌイ・コミッサール」又は略語「ナルコム」は中央官省卽ち「ナロドヌイ・コミッサリアト」の長であつて、普通邦譯の人民委員である。戰時共產主義時代は此のコミッサール制度の最も普遍せる時代であつて、軍隊では中隊、聯隊、旅團、師團、その他工場にも停車場にも官廳の各課にも悉く共產黨員のコミッサールが配置され、「專門家」の仕事ぶりを監視した。新經濟政策以來、その事は特別の場合を除き殆んど無くなつた。

【コムインテルン】
「共產黨インタナショナル」を見よ。「インタナショナル」參照。

【ゴルスカヤ社・ソ・自治共和國】
一九二一年一月廿九日舊露領テルスキー縣の一部に建設さる。北部コーカサス地方にあり、ロシア社・聯・ソ・共和國に屬す。始めオセチン、イングシ、チェチェン、カバルヂン、バルカル、カラチャイ等の諸民族を統合せるが其後カバルヂン、バルカルは分離して自治州を組織し、更にカラチャイ及びチェチェンも分離す。住民の主業は農及び牧畜、首府ウラヂカフカズ市。

【ゴル・ソヴェト】
露語「ゴロド」卽ち「市」ソヴェトの略。ゴル・ソヴェトは各市に於ける最高の政權機關である。

【コロコル】（鐘）
一八五七年から一八六七年までゲルツェンがアガリョフと共に發行した新聞。一八六五年までロンドンで、それ以後ジュネヴで發刊、ロシアへ密輸入され當時のインテリゲンツィヤ革命家の間に大きな勢力をもつてゐた。

【コロス・トゥルダー】
一九〇六年ペテルブルグで發行されたメンシェヴィキ機關

紙。「勞働の聲」の意。

【コンムーナ】

露語「コンムーナ」卽ちコンミユーンには二つの意味がある。第一の意味は、中世紀における自治體の意。現在のソヴエト・ロシアでも行政區たる「獨逸人勞働コンムーナ」「カレリア勞働コンムーナ」の稱呼のもとに此の意味で用ゐられてゐる。（その項參照）第二の意味は平等の權利のもとに共同財產を有する人々の團體、卽ち「共產」の意味に用ゐられる。

【コンムナール】

二つの意味、一、「巴里コンミユーン」の參加者（其項參照）二、中世紀の自治體の成員。

【コンムニスト】

ブレスト對獨媾和に反對したロシア「左翼共產黨」の機關紙。最初一九一八年三月五日から十九日までペトログラードで發刊、その後同年四月二十日から六月までの間に四號だけモスクワで發刊された。

サ

【在外ロシア社會民主勞働黨中央委員部】

一九〇八年黨中央委員會の決議により組織されし亡命黨員の指導機關。一九一〇年の中央委員會總會の後、ボリシエヴィキ、メンシエヴィキ、ブンド派、ポーランド人、ラトヴィア人の各團體から一名づゝ計五人をもつて組織さる。翌十一年ポリシエヴィキは之を脫退す。

【最高國民經濟會議】（略 V. S. N. H）

「ウイスシィ・ソヴエト・ナロドノゴ・ハジャイストヴア」の頭字により略稱して「ヴエ・エス・エヌ・ハ」といふ。聯邦中央執行委員會の直轄の下に人民委員會議の中に列する全產業經濟指導の最高機關である。ソヴエト國家資本に屬する有ゆる產業機關は多く此の會議の直轄に屬し各地方の國民經濟會議を統轄する。

【財政人民委員部】

略「ナルコム・フィン」ソヴエト政府の財政を管掌す。

【細胞】

「ヤチエイカ」を見よ。

【サマラ縣】

ヴオルガ流域の中部にあり、革命中にヴオルガ流域を支配する騷亂の中心地となつた。一九一八年六月チエツク軍に占領され其の援助の下にボリシエヴィキに追はれた社會革命黨はサマラ市で憲法會議を開いた。其の後コルチヤツク軍の占領に歸したが、同年十月七日赤衞軍が占領統一した。

【ザリヤ】（曉光）

「イスクラ派」（レニン、プレハノフ、マルトフ等）の一九〇一年——一九〇三年に亘り發刊せる學術的政治雜誌。革命的マルクス主義を強調した。「勞働解放團」及び「レニン」參照。

【三インタナショナル伯林會議】

一九二二年四月ベルリンにおいて第二、第二半、第三の三つのインタナショナルの會議が開かれた。目的はファシズムの擡頭に對し各國無產階級の單一戰線結成にあつた。第三インタナショナル（共產黨）代表者は無條件單一戰線を提議し、第二半の代表は之を支持したが第二インタ代表者の拒絶する所となり此の問題では會議は分裂した。然し同會議は各所屬政黨が左のスローガンを以て絕えず示威運動を行ふ必要あることを認めた、（一）八時間勞働制の確立、

(二)失業防止、(三)資本の進撃に對する鬪爭、(四)ロシア革命の支持、ロシアとの修交關係の復活、及びロシア飢饉に對する援助、(五)各國無產者戰線の統一。

【三月革命】 露曆一九一七年二月廿七日(太陽曆三月十二日)にペトログラードに勃發せる革命なるが故にロシアでは一般に「二月革命」と呼ぶ。世界大戰の慘禍と國內の疲弊に動搖せる首都の勞働者は街上に出でゝ××と合體し臨時政府ゐ×××革命後社會黨各派は勞農兵ソヴェトを組織し全國より代議員を召集したが、一方當時の國會の多數派は國會委員會を組織し、立憲民主黨、十月黨、右翼社會革命黨等を中心とする臨時政府を組織し、ソヴェトに對立し事實上において二重政權を現出した。後、臨時政府は社會革命黨及びメンシェヴィキ兩派の手に移つたが、臨時政府の對獨戰爭繼續政策は廣く勞農階級の反對する所となり、レニン、トロツキー等によつて顚覆され、十一月七日の革命により政權は勞農兵ソヴェトの手に移つた。現ソヴェト政權は此の日を以て帝制政府顚覆の記念日として公祭日としてゐる。「十月革命」參照。

【三月十八日一揆】 一八七一年巴里における勞働者一揆が政權を獲得しコンミューンの自治を布告せる日。ソヴェト政府は此日を公祭日とす。「巴里コンミューン」參照。

【産業仲裁委員會】 企業家と勞働者の間に於ける仲裁機關。ソヴェト・ロシアでは一九二二年以來此の制度が設けられ勞働組合と國營其他の企業との間に爭議が起り協調委員會で解決困難の場合之に訴へ双方とも其の判決に服從の義務がある。委員長には勞働人民委員或は同人民委員部の地方代表者が任命される。

【産業ピュロー】 ロシア共和國內の大工業地方にある國營企業相互間の評議機關。

【三圃式耕作】 ロシアにおいて普及されてゐる農業耕作のやり方、土地を三つの部分に分ち其うち二つの部分を順次に耕やし一つの部分は耕作を休んで土地の休養をはかる。

シ

【ジーズニ】 (生活) 一八九九年から一九〇一年までペトログラードで發行された合法的マルクス主義の機關紙、政府が發行を禁止すると共に編輯部は外國に移された。

【十一月革命】 一九一七年十一月七日のロシア革命、露曆十月廿五日の革命なるが故にソヴェト・ロシアでは一般に「十月革命」といふ。其項を見よ。

【十月黨】 (オクチャブリスト) 一九〇五年ロシア第一革命の當時結成されたブルジョア地主黨、正式には「十月十七日同盟」と稱す。一九一七年三月革命の當時まで國會における有力なる政黨、議長ロヂヤンコ、初期臨時政府の陸相グチコフ等は之に屬した。

【十月革命】 露曆一九一七年十月廿五日(陽曆十一月七日)に行はれた勞農革命。ソヴェト・ロシアでは一般に「十月革命」又は「十月廿五日革命」と稱せらる。一九一七年二月革命(陽曆三月)の結果に對して不滿を抱ける勞農階級は、臨時政府が媾和と土地問題の解決を遷延せるに憤慨して動搖した。ボリシェヴィキの旗下に結合せる無產勞農階級に對し臨時政府は、武力を以て鎭壓せんとした。之より先き一九一七年四月十八日より二十日、同六月十八日、同七月三日より五日、同八月廿六日等に行はれた數回の臨時政府反對の示威運動は、ロシア勞農階級が十月革命建設の爲になせる鬪爭の諸段階を示すものである。此の運動のうちに最初極めて無勢力であつたレニン等のボリシェヴィキ黨は工場委員會、ソヴェト、その他の諸團體の間へ「全政權をソヴェトへ」を標語とし漸次に勢力を植えつけ、××によつて臨時政府を××せんと準備し、第二回ソヴェト大會召集の問題を中心として事件が展開され、臨時政府の首班ケレンスキーは社會革命黨を率ゐメンシェヴィキ派と提携してボリシェヴィキ派に同情を有するペトログラードとクロンシタットの軍隊を武裝解除し之を他の地方に移さんとした。然るにボリシェヴィキ派は遂に十月十六日に至りペトログラード・ソヴェトの軍事革命委員會を組織し同二十一日該委員會はペ地方司令部に對し軍隊監督權の讓渡を要求した。越えて十月二十三日軍事革命委員は勞働者義勇隊より成る赤衞隊を組織した。之と共にメ

ンシェヴィキ派の臨時政府内相ニキーティンは秩序紊亂の廉を以てボリシェヴィキ派の運動を鎭壓すべき命令を發し、翌二十四日ケレンスキーは首都の近郊にありし軍隊をペトログラドに召集し、ボリシェヴィキ派の機關紙「ラボォチィ・プゥチ」（勞働者の道）を閉鎖し、大衆的捕縛を策せるも首都の物情すでに騷然として收拾の方法なく、翌十月廿五日殺氣橫溢のうちにペトログラド・ソヴェトは召集され、七月事變（其項參照）以來臨時政府の捕縛の手を脫して潛伏せるレニン及びトロツキーは勞働者に擁せられて突如として此のソヴェト會議に現はれ、壇上に熱辯をふるつた。この時すでに臨時政府は混亂の前に空位を擁するに過ぎず、同夜第二回全露ソヴェト大會の決議により深更二時臨時政府員の一部は捕縛され一部は逃走し、茲に殆んど流血の慘事を見ることなくして世界歷史を一新すべき一大政變が爲しとげられた。翌廿六日ソヴェト大會は媾和に關する法令及び土地に關する法令を採決した。之等の法令はレニン自身の執筆せるものである。二十七日人民委員會議（內閣）の組織に關する法令が採決された。この日ケレンスキーはペトログラド郊外より數百名のカザックより成る手兵を以て逆襲を試みたが成功せず遂にロシアを棄てゝ逃走した。十月革命が當時政權の所在地たりしペトログラドで斯く血を見ずして行はれたに反し、第二の政治中心地たるモスクワでは十月二十五日より十一月二日に亘る激烈なる××鬪爭のうちに經過し到る所に×××か行はれた。その後、十月革命により建設されたソヴェト政權に對しロシアの全反ボリシェヴィキ政黨——社會革命黨、メンシェヴィキ、立憲民主黨、舊帝制時代の將校、官吏、その他の分子が或は武力により、或はサボタージにより抗爭を試みたが、何れもソヴェト政權を顚覆するに至らず、一九二七年十一月七日（新曆）ソヴェト・ロシアは盛大なる十月革命十年紀念祭を擧行した。毎年此の日を以て建國公祭日とする。（本文のうちの日附は特に註釋なきかぎり舊露曆（太陽曆に十三日遲る）による。）「レニン」「全聯邦共產黨」其他の本文に關係ある諸項參照。

【十月大罷業】

一九〇五年十月の全ロシアに亘る總罷業をいふ。その結果ニコライ二世帝は十月十七日の「宣言」を公布し國會開設を宣布した。

【修正主義】

「ベルンシュタイン主義」を見よ。

【十二月黨】

露語十二月を「デカブリ」十二月黨を「デカブリスト」といふ。アレクサンドル一世帝の時代にありしロシアの秘密革命團體の名である。進歩思想を抱ける將校（其中には多くの貴族あり）が其の黨員となり專制政府の顚覆と農奴制度の廢棄を目的とした。一八二五年十二月十四日ニコライ一世卽位の日を期して一揆を起したが、忽ち鎭壓された。五人の首領ペステリ、カホフスキイ、ルイレエフ、ベストゥイジェフ・リュミン、ムラヴィヨフ・アポストルは絞首され、他はシベリアへ遠刑に處せられた。ロシアにおける社會革命運動に最初の基石をおいた歷史的事變である。

【十二月モスクワ一揆】

一九〇五年十二月モスクワに起つた勞働者一揆をいふ。十二月九日に勃發し多くの死者を出し勞働者街は××に包圍され機關銃をもつて射擊されたが一揆勞働者は十二日間に亘り抗爭をつゞけ同月廿一日に至つて鎭壓さる。

【ジェン・アットデェル】

露語「ジェンスコイ・アットデェル」（婦人部）の略稱、共產黨婦人部のこと。一九一八年十一月にモスクワで第一回全露女工及び農婦大會が召集され千百四十七人の婦人代議員（內農婦は約一割）が參集した。其の大會後ロシア共產黨は獨立した婦人部を設けて婦人の間に宣傳を行ひ婦人問題の指導機關とした。現在共產黨の各地方委員會には必ず婦人部がある。

【シオニズム】

十九世紀の末に起つた世界各國にあるユダヤ人の團體、パレスチナにユダヤ人獨立國の建設を目的とした。大戰後ユダヤ人共和國は英國の保護のもとにパレスチナに建設されてゐる。

【住宅組合】

ソヴェト聯邦で之が發生したのは新經濟政策以後である。自治體が直接に管理し切れない沒收家屋を個人の私有に移らせないため其の家屋內の居住者により組織された住宅組合に貸租借の形式で之を貸下げ、修繕管理の責任を組合に負はせる。組合員たる資格は勤勞階級に限る。互選により委員長及び委員を選任し直接管理の任に當らしめる。

【時間外勞賃】

ソヴェト・ロシアでは勞働法典第六十條の定むる所により規定時間外勞働による賃銀は如何なる場合にも一倍半以下たるを得ず、それが二時間以上に亘る時は二倍とする。公

祭日及び日曜日の勞働は全部時間外勞働として計算される事になつてゐる。

【自治共和國】

或る國家に屬し立法及び政治の自治權を有するもの、例へばロシア社・聯・ソ共和國に屬する多くの自治共和國は其の領域内の問題に關しては定められたる法律の範圍において其の領域内の政治上の自治權を有す。附錄「圖解」參照。

【自治州】

ソヴェト聯邦中の何れかの共和國に屬しながら州内の問題に關し獨立せる立法權を有し其の地方の民族生活について政治上の自決權を有する州。自治州は其の所屬共和國の中央執行委員會の決定に基づき組織され、州ソヴェト大會を召集して縣執行委員會と同等の權利を有する州執行委員會(O. I. K)を選擧する。

【七月事變】

一九一七年六月十八日ケレンスキー政府の行へる獨逸戰線への進擊が失敗に歸するや勞働團體の反政府熱高まり聯立内閣に殘れる立憲民主黨の閣員は辭表を提出し戰線の軍隊も動搖した。七月四日ペトログラードで勞働者五十萬人の大示威運動行はれボリシェヴィキは之を利用し首都の勞働者や戰線の間に目ざましき反政府宣傳を行ひ政權奪取を企圖した。之が鎭壓のためケレンスキー政府は戰線の軍隊を首都に召集しボリシェヴイキの彈壓を行ひ「プラヴダ」編輯部を閉鎖し、勞働者と一部の兵卒を武裝解除しトロツキー、カメネフ等は捕縛されレニン、ジノヴィエフ等は一時身を潛めた。

【失業問題】

ソヴェト・ロシアにおける失業者は新經濟政策後、年毎に增加した。これは革命騷亂中に農村へ歸農した勞働者が都市における產業復興と共に一時に都會へ殺到したのと各官廳や經濟機關が業務の緊縮を計るため冗員整理を行つたためである。失業防止のため地方より職業を求めて都會に出る者に對する入市制限令が發布されてゐる。最近全聯邦における失業者の數は

年次	勞働組合員數	失業者數
一九二五年	五、三三、九〇〇人	九一〇、四〇〇人
二六年一月	七、〇六七、九〇〇人	一、〇三九、〇〇〇人
同十月	九、〇〇〇、〇〇〇人	一、二八、〇〇〇人

(一九二七年度中央統計院統計年鑑による)

【執行委員會】 (イスポルコム)

露語「イスポルニーテリヌイ・コンミッテット」を略して「イスポルコム」と略して「I. K」といふ。ソヴェト・ロシアでは鄉(「ヴォロスチ」といひ數個村を合せた郡の下位にある行政區)、郡、縣、州、自治州、自治共和國、共和國、聯邦共和國、ソヴェト社會主義共和國聯邦にいづれも執行政權として夫々のソヴェト大會により選出された執行委員會がある。其うち共和國聯邦(ソヴェト聯邦)聯邦共和國(多數の共和國を包括するロシア、高架索の如き)共和國(白ロシア、トルコメニスタン、ウズベキスタン其他前記聯邦共和國中の各共和國)等の執行委員會はいづれも「中央執行委員會」といひ、それ以下は何々縣、郡、鄉「執行委員會」といふ。

【執行政權】

ソヴェト制度では立法、司法、行政は三權分立主義によらず、執行政權は他の國家的行動の部門と獨立分離されずに統一されてゐる。例へば中央執行委員會と人民委員會議とは其の掌中に立法、執行、監督の各政權を統一してゐる。

【司法人民委員部】

略「ナルコム・ユスト」、共和國内の司法機關を統轄し、法の運用を監督し、中央執行委員會、人民委員會議、勞働及び防衞會議等に附議さるべき法律案の豫備的審議を行ひ、それ等の解釋をも公布する。司法人民委員長は同時に共和國檢事總長である。縣の範圍における法の管掌は縣檢事總長に屬する。

【支那から手を放せ協會】

對露干涉時代にイギリス勞働組合の組織した「ロシアから手を放せ」運動に則とり、支那革命に對する列國の干涉に反對し革命を援助するため一九二五年に全聯邦勞働組合中央評議會の提唱によりソヴェト・ロシアで此の協會が組織された。その後イギリス、墺太利、ドイツでも同樣の團體が起り一九二五年八月十六日ベルリンに於て此の協會の大會が召集され八百名の代表者參集し、支那革命の援助と各國の對支干涉反對を決議し、同樣の團體を各國において組織すべきことを申合せた。一九二七年三月十五日ニューヨークに於て米國の「支那から手を放せ」協會が組織され、同四月には日本において勞働運動左翼の評議會が此の運動を起した。

【ジノヴィエフ書翰】

一九二四年秋、丁度英國議會の總選擧間際になつて保守

黨新聞に「ジノヴィエフ書翰」なるものが發表された。その書翰の内容は共産黨インタナショナル議長ジノヴィエフが英國共産黨に宛てた「軍隊内の共産黨細胞に命じて英國内の兵器庫を爆破せしむべし」といふ訓令的性質を有するものであつた。之により英國民は喫驚し勞働黨内閣が之に對し何等の處置を取らざるに不安を感じ保守黨に投票し遂に保守黨内閣が成立した。然し一方からは此のジノヴィエフ書翰は保守黨の或る幹部が選擧戰を勝利に導く手段として僞造したものだと言はれてゐる。反ソヴェト的僞造文書事件はその後も屢々起つてゐる。一九二五年には共産黨インターナショナルとセルビアのホルソット農民共和黨との條約、ジノヴィエフからフランス共産黨員カシェンに宛てた北アフリカ問題に關する書翰、クレストインテルンのルーマニア農民黨に宛てた書翰、その他ブルガリア首府の教會爆破事件に關するものなど二十餘種の僞文書が現はれて各國の政界を騒がした。その後多くの反ソヴェト僞文書製造團が發見されたが、伯林にあつたドルジェロフスキー團、ヴキンナにあつたヤクボウィチ團、ロンドンのシンクルトン團など主たるもの。

【シベリア革命委員會】

略稱「シブレフコム」。一九二五年までシベリアのソヴェト政權は革命委員會のもとにあつた。全シベリア・ソヴェトの制度が確立すると共に革命委員會は同ソヴェト執行委員會を以て代へられた。

【市民戰爭】

一國内の一つの階級又は團體が他の階級又は團體に對する戰爭、武力による政權の爭奪に際して起る。ロシアの革命運動が高潮に達して來た時、ボリシェヴィキは市民戰爭によつて政權を奪取することを政策とした。ボリシェヴィキ革命の後、一九一八年から二一年までソヴェト政權を顚覆せんとする反ソヴェト市民戰爭が行はれた。デニキン、ユデニッチ、カレヂン、コルチャック、セミョノフ、ウランゲル等の將軍は反ソヴェト市民戰爭を指導した代表的の人物である。一九二一年までにロシア各地方に起つた反ソヴェト白衞軍は悉くソヴェト政權の鎭壓する所となつた。世界大戰後市民戰爭はドイツ（一九一八年、二〇年、二一年、二三年）、フィンランド（一九一八年）ハンガリー（一九一九年）ブルガリア（一九二三年、二四年）エストニア（一九二四年）支那（一九二四年―二七年、それ以後まで繼續）等諸方で行はれた。

【社會愛國派】

口先では社會主義又は社會黨を標榜しながら事實においては國民主義的な愛國主義、排外主義、祖國防衞主義の傾向をもつ一派。十一月革命前までロシアに存在した此種の政黨は、社會革命黨、メンシェヴィキの大部分、及び國民社會黨（エヌ・エス）の全部。彼らは土耳古からコーンスタンチノープル略取、「最後の勝利戰爭繼續」を唱へた。

【社會革命黨】

露語「パルティヤ・ソツィアリストフ・レヴォリユツィオネロフ」頭字略にて通常「エス・エル」黨と呼ぶ。人民派（其項參照）の傳統をうけて一九〇〇年代の初頭に結成されたロシアの國民主義的革命黨であり專制政治に反抗して恐怖手段をも採用する綱領をもつた政黨である。一九一七年革命の初期にエス・エル黨は勞兵ソヴェトのうちで最も有力な多數黨であつた。從つて同黨の首領ケレンスキー（其項參照）は三月革命から十一月革命に至るロシア革命の發展段階において特別の役割を演じた。黨内に各流の思潮を抱擁したが、大別して左右兩翼に分れてゐた。一九一七年十一月革命の際この左右兩翼は徹底的に分裂し、左翼はボリシェヴィキと共にソヴェト政權に參加したが、後に反ボリシェヴィキ一揆を起して失敗した。一九二二年までロシア各地に起つた反ソヴェト運動にはボリス・サヴインコフの綠衞軍運動をはじめ一九二〇年クロンシタット反亂など社會革命黨の指導せるものが多い。「三月革命」「十月革命」參照。

【社會保險】

「國營勞働者社會保險局」を見よ。

【ジャコベン黨】

フランス大革命の高潮時代における支配的政黨、國内の輿論を率ゐる自治團體を指導し、反革命運動との鬪爭を任務とせるジャコビン倶樂部は國内に普れく網を張つてゐた。ロシア共産黨の「ヤチェイカ」即ち共産黨「細胞」はジャコビン倶樂部に範を則つたものと言はれてゐる。また反革命に對する赤色テロルも此ジャコビン黨の始める所である。ボリシェヴィキとジャコビン黨は其の革命行動に於て共通點が多い。

【上海事件】

一九二五年春上海の日本紡績工場に罷業が起り、英國警察が罷業者を射殺せるに端を發し五月三十日上海において支那勞働者大學生の大示威運動行はれ示威隊は租界に侵入せんとし英國警官隊と衝突した。之を動機とし全支那に亘る排外運動が起り外國人企業、商店に對する總罷業とボイ

コット行はれ、打倒帝國主義を標語とする南支一帶の國民革命運動にまで進展した。此頃より第三インタナショナルと支那革命運動との關係は益々密接となつた。

【召還權】

ソヴェト・ロシア獨特の選擧人が其の代表者を召還する權利である。ソヴェト又は勞働組合等に代表者を選出せる選擧人は有ゆる場合において其の代表者の不信を問ふために之を召還する權利がある。卽ちソヴェト・ロシアにおいては選擧權は同時に召還權を含むものである。

【小規模産業】

ソヴェト聯邦中央統計院の統計編纂法に從へば「小規模産業」は動力を有せずして三十人以下の勞働者を有するか、又は動力を有し十人以下の勞働者を有する生産企業をいふ。中央統計院一九二七年度統計年報によると一九二五年十月現在ソヴェト聯邦内の小規模産業の總資本額は六億五千萬ルーブル餘、全産業資本の六十八億二千萬ルーブルに對して約一割である。

【小人民委員會議】

「人民委員會議」を見よ。

【傷病保險組合】

ロシアでは一九一二年の法律制定によつて設立された。當時のロシアでは積極的な勞働組合運動が許されなかつたので、此の傷病保險組合は勞働者を一つの組織に結びつける唯一の事業であつた。從つて此の組合はロシア革命運動史の上では極めて重大な役割をもつた。一九一七年革命後の初期には社會救濟委員部が設けられ、傷病保險組合は自然不要となつたが、新經濟政策と共に復活されソヴェト政府は一九二二年に至り失業傷病に際して生活を保障する勞働保險局の制度を設けた。保險金はすべて雇傭者側の負擔に屬し被傭者は全然保險金の支拂から免除される。而して一人と雖も他人を雇傭する者は、其の被傭者のために保險金納入の法律的義務を負ふ事となつてゐる。

【商品ルーブル】

「タワルヌイ、ルーブル」。ソヴェト紙幣の流通時代、日々紙幣相場の低落するに對し一定のルーブル價の標準を保つため商品ルーブルなる標準が定められた。卽ち其の時のソヴェト紙幣により大約戰前の一ルーブルに相當する商品を購入しうるソヴェト紙幣の額を以て一商品ルーブルとした。給料の支拂その他取引の契約においてソヴェト紙幣が低落しても動搖せざる貨幣の概念を定めるため採用された計算

法である。

【職業紹介所】

ソヴェト聯邦では職業紹介所は勞働人民委員部のうちの一機關となつてをり、有ゆる勞働力の需要供給關係を此機關に集中し仲介手段によつて之を整理してゐる。其の雇傭及び被傭條件は勞働法の定むる所によつて行はれるが、職業紹介機關の事業のやり方に就ては絕えず勞働人民委員部と全聯邦勞働組合中央評議會の指導に俟つことゝなつてゐる。紹介は無料。

【食糧徵發制度】

ソヴェト政權が戰時共産制時代に施行した制度。國家の必要により農民のもとにおける生産品（穀物、家畜、牛乳製品等）をば生産者が次の生産又は生活消費のため必要とする一定量だけを殘して剩餘を徵發した。一九二一年の新經濟政策と共に此の制度は食糧現物稅制度に改められ、更にその後貨幣徵稅制度に改められた。「戰時共産主義」「新經濟政策」參照。

【シリセリブルグ要塞監獄】

帝制時代にロシア革命家政治犯人が幽閉された所、ペトロパウロフスク要塞監獄と並稱さる。ペトログラード郊外にあり、現在革命博物館の一部となる。

【新經濟政策】（ネップ）

露語「ノーワヤ・エコノミチェスカヤ・ポリティカ」を略し「ネップ」といふ。新經濟政策が最初公式化されたのは一九二一年三月十二日第十回ロシア共産黨大會でレニンが之について演說して以後である。ネップはソヴェト・ロシアにおける全然新らしき經濟形態であつて、其の要點は、戰時共産制度の下における食糧徵發制度から食糧現物課稅制度への轉向、及び貨幣經濟への還元、それに引續き貿易の國有並に大規模産業、交通、金融等の機關をソヴェト國家の手に保持しつゝ内國商業取引の自由への還元である。ソヴェト政府は之により多數農民の不平を緩和し、國内の經濟的破壞より脫出せんとした。ネップの施行されるや其の第一年より農業及び産業は著るしき恢復の兆候を示した。ネップと共に大規模産業は悉く獨立經濟のもとに國營トラスト及びシンヂケートの組織に移された。ネップ以來國内農工業の生産額は急速に向上し、工業生産に於ては一九二一年八億四千萬金貨ルーブル、一九二二年十一億ルーブル、越えて一九二四年四十五億一千萬ルーブル、一九二五年六十七億四千萬ルーブルに躍進した。之に比例して農業生産も向上した。

（數字は凡て中央統計院一九二七年發行の統計集による）

レニンは一九二一年新經濟政策問題について曰く「我々は直進的に社會主義の建設に赴くのではなく、經濟のあらゆる方面において國家資本主義へ退却するのである。強襲的進擊にあらずして極めて困難にして不愉快なる各種の退却を伴ふところの繼續的な持久戰への轉向である。これが經濟問題の解決に到達するため、卽ち社會主義の基礎への轉向を保障するための必要條件である」と。また曰く「我々は現在の危機を激成してゐるプロレタリアに對する小農民大衆の經濟的反抗を認識せねばならぬ……他の諸國において革命が起らない限りは農民との協調だけがロシアにおける社會革命を救ふ唯一の手段である」更にまた「交換の自由とは商業の自由である。商業の自由は資本主義への退却を意味する。自由交換と自由商業、それは個人と個人との間における商品の交換を意味する。マルクス主義のイロハでも學んだ者は此の交換と商業との自由から不可避的に商品生産者の間に資本の所有者と勞働力の所有者との分裂が生れるといふ事を知つてゐる」と。「國家資本主義」「個人私有資本」參照。

【新々經濟政策】

一九二五年の春行はれた新々經濟政策は一九二一年の新經濟政策の如き急廻轉を劃するものではない。が、新經濟政策の連續であり、亦た其の範圍の擴張である。新經濟政策は經濟行爲における個人の自由を認めたが、尙ほ窮窟な制限が附帶した。個人商業は認めるが課稅により資本の蓄積を制限する。個人の生産企業は認めるが、小規模産業（其項參照）の限度を越える場合は國家との間に特別の利權契約を締結する。農民は牧蔭の自由取引を許されるが、自力を以て耕作しうる限度以上の土地の利用、土地の賃貸借、雇傭勞力の使役を禁ずる、等の附帶制限があつた。一九二四年の春、個人資本の急激な發達が國内の問題となり、右の制限が完全に實行されておらぬ事が云爲され、其の制限を勵行する政策を取るや、經濟的行詰りが各方面に起つた。途に國内の經濟的實狀を合法的に認める事になり、個人商業を國營商業、購買組合と鼎立的に活動させるため苛稅より保護し、個人企業の自由の範圍を擴張し、また農業の勞力雇傭、土地賃貸による經營を臨時公認することゝした。

【シンヂゲート】

普通には資本團の聯盟を意味する。ソヴエト・ロシアのシンヂゲートは國營企業トラスト中の同一企業部門の統一せ

るものである。

【新反對派】

全聯邦共産黨内のトロツキズム、（「トロツキズム」を見よ。）シリヤプニコフ派（「勞働者反對派」を見よ）等の舊反對派に對稱して一九二五年以來曾てトロツキズムを排擊せるジノヴィエフ、カーメネフ等がスターリン、ブハーリン、ルイコフ等の多數幹部派に反對して起てるを「新反對派」とする。レニン未亡人クルプスカヤ女史も最初この新反對派側に立てるが、その後之と絶緣し、幹部派側に立つた。新反對派は間もなくトロツキー派その他の反對派と聯合し幹部多數派の内外政策を攻擊し、其の行動が黨大會によつて排擊されるや諸種の反幹部的陰謀を企圖した廉で同派の幹部は先づ共産黨中央委員會から除名され、ジノヴィエフの如きは多年占めてゐた共産黨インタナショナル執行委員會議長の椅子を奪はれ（ブハーリン之に代る）最後に一九二七年十二月の全聯邦共産黨大會の決議により他の反對派指導者と共に徹底的に共産黨の黨籍から除名さるゝに至つた。但し從來の態度を改め黨規に服することを誓ひ再入黨を希望する者には六ヶ月の後に其の期間の行動に照らして復黨問題が考慮されることになつてゐる。

【人民委員】（ナルコム）

露語「ナロドヌイ・コミッサール」卽ち人民執政官又は人民委員にして普通國家における各省大臣に當る。ソヴエト聯邦各省及び、聯邦に加盟せる各共和國はいづれも憲法の規定に從つて中央執行員會をして、それ〳〵の人民委員を選任せしむる。「人民委員會議參照」

【人民委員會議】

露語「ソヴエト・ナロドヌイフ・コミッサーロフ」を略し「ソヴナルコム」といふ。各人民委員（大臣に相當する）の會議であつて内閣にひとしい機關である。其の成員たる各人民委員は政務執行のために中央執行委員會により任命される。ソヴエト聯邦が聯邦人民委員會議を有すると共に、聯邦の成員である加盟各共和國も夫々の共和國の人民委員會議を有する。（附錄「圖解」參照）。聯邦人民委員會議は緊急を要する各種の問題（軍事外交をも含めて）に對し直接に行政立法の手段を講ずる。但し政治經濟生活の一般的規準を設定する所の法規、また現存する國家組織に變改を齎らす如き法規は中央執行委員會の確認を經て公布される。聯邦人民委員會議に屬する各種の人民委員部の外に「勞働及び防衞會議」と「小人民委員會議」がある。「勞働及び防衞會議」

は露語略稱「SNO」——即ち「ソヴエト・トゥルダー・イ・アバロナ」の頭字略である。ストーは聯邦の有ゆる經濟政策の指導機關であつて、「國家計劃委員會」（略「ゴスプラン」）即ち「ゴスダルストヴェンナヤ・プラノヴヤ・コミッシィヤ」はこれに屬し國家の統一的經濟計劃を確立する機關である。從つてストーは經濟政策問題については獨立して各官廳及び全國民が服從履行の義務を有する法令發布の權利をもつ。「ストー」の地方直屬機關は州、縣における「經濟評議會」（略「エコソ」）即ち「エコノミチェスコエ・ソヴェシチャニエ」である。小人民委員會議は人民委員會議の審議を要する諸問題の豫備的評議機關である。人民委員會議の構成は附錄「圖解」を見よ。

【人民委員部】（ナルコマート）

露語「ナロドヌイ・コミッサリアート」を略して「ナルコマート」といふ。普通國家の外務「省」又は內務「省」のごとき「省」にひとしい。ソヴエト國家における上級執政機關であつて、其の「長」となる者は中央執行委員會の選任する人民委員即ち「ナルコム」である。人民委員部には「長」のもとに數名より成る「コレギィヤ」即ち參議委員があり該委員は人民委員會議によつて任命される。ソヴエト聯邦（USSR）の中央執政機關は九の人民委員部から成り立ち、其うちの五——外交、陸海軍、內外商業、交通、郵電の各人民委員部はソヴエト聯邦の人民委員會議のうちにのみ存在し聯邦加盟各共和國には之に等しい獨立した機關はない。他の勞農監督（會計檢査院に似てヨリ廣汎な權限を有する。例へば各官廳の會計のみならず公私經營の一切に亘る關係の檢查監督を行ふ）最高經濟會議（他の人民委員部と同じ權利のもとに主として國營產業を統轄する）勞働、財政の各人民委員部はソヴエト聯邦の中央機關中に之を含むと同時に聯邦加盟の各共和國にも之に同じき機構を有する。而して聯邦加盟各共和國のそれらの機關は、それに該當する聯邦直屬の人民委員部によつて指導される。例へばロシア社・聯ソ・共和國の勞働人民委員部は、その上級機關としての聯邦勞働人民委員部の指導命令に從つて行動する。

而して各共和國人民委員會議（言ひかへれば聯邦の成員となつてゐる、六個の共和國における各自の內閣にひとしい）は前揭の四人民委員部の外に、農務、內務、教育、保健、社會救濟、司法の各人民委員部があつて之を構成する。（各個の人民委員部の項を參照）。個々の人民委員部は立法權をもたない。人民委員部の發する律令及び命令は中央執行委員會及び人民委員會議の法の主意に反するを得ない。而して上記法令により許されたる範圍において發せられる各人民委員部の律令及び命令に對しては各縣の當該部局（たとへば內務部、教育部の如し）は絕對服從の義務を有する。附錄「圖解」參照。

【人民裁判所】

ソヴエト裁判制度の最下級の單位をなす裁判機關、刑事、民事の裁判事件の九割までは此の機關により處理されてゐる。人民裁判所は縣執行委員會により選出される陪審官と陪審官により任命さるゝ裁判官により構成され、縣裁判所の直接指導の下におかれる。人民裁判所の管轄する範圍は通常郡又は市の區域內である。

【人民主義】

主として十九世紀の後半ロシアに行はれた社會運動の思潮。ロシアにおける經濟文化の發達は、西歐に於ける發達の方向とは異なり、獨特のものであるとし、またロシアに農民經濟の共同體（オブシチナ）が存在することは、資本主義の發展段階を經ることなくして直接社會主義へ轉向する可能性を與へるものだと考へたのが、人民派的世界觀の特徵である。從つて之と全然反對な世界觀を有するロシア・マルクス主義者の成長と共に、人民主義はマルクス主義者の鬪爭の對象（階級の陣營內における）となつた。

【人民の意志】（ナロドナヤ・ヴォリヤ）

一八七九年ロシアにおける初期の革命團體「土地と自由」（「ゼムリヤ・イ・ヴォリヤー」其項參照）の解散後結成され、恐嚇手段により專政制度を改革することを綱領とした。露語ヴォリヤは「意志」にも「自由」にも通ずる。同黨の實行委員會は各種のテロル計畫を立て之を實行に移すと共に勞働者、農民の間に反政府宣傳を行つた。一八八一年三月一日のアレクサンドル二世帝のXXは同黨の「宣告」により行はれた。彼等は何人かのXXを行ふに際して委員會によつてそれを「宣告」することを常とした。一八八〇年代の半ば時の政府の密偵政策により秘密結社の中心が嗅ぎ出され擊滅された。此の一派に關係ある著名な政治裁判事件を年代順により略記する。

カザンスキー廣場示威運動事件。一八七六年十二月六日人民派革命團（結黨前）は首都ペテルブルグのカザンスキー廣場でロシアに於て最初の政治的示威運動を行ひ當時尙ほ人民派の青年鬪士であつたプレハノフ等も屋外演說を試みた。政府は之に解散を命じ多數の參加者を檢擧し內二十二

名は裁判に附せられ翌七七年一月十八日いづれも長期の遠刑に處せられた。その大部分は大學生であつた。

五十人裁判事件。一八七七年モスクワの「土地と自由」派五十人に對する裁判事件、宣傳、不法出版物頒布の罪による。法廷において被告織物職工ヒョトル・アレクセエフはロシア革命史上有名な演説をなし、「百萬の勞働者の節くれ立つたこぶしが振りあげられる日がくれば、××××は××する」と結んだ。被告の大部分はシベリアへ流されアレクセエフは十年の懲役に處せられた。

百九十三人裁判事件。人民派チャイコヴスキーの革命團員が一網打盡的に檢擧された一八七八年の裁判である。之に連座した革命家のうちには有名なるムイシキン、コヅリク、シネグーブ、シシコ、クヴャトコフスキー、ブレシコフスカヤ女史、サブリン、ペロフスカヤ女史、ヤキーモワ女史等があた。此の裁判の經過は、初めて新聞に揭載を許されロシアの民衆の前にはじめて社會主義の運動が紹介されセンセーションを起した。社會の同情が被告にあつまり減刑運動が行はれたが何れもシベリアへ流された。

ヘルソン金庫破り事件。一八七九年人民の意志黨員三名は運動資金調達のためヘルソン縣廳の金庫を破り百五十萬留を窃取した。一八八〇年オデッサ裁判所において被告三名のうち二名は長期の懲役、一名は終身懲役に處せられた。

十六人裁判事件。一八八〇年十月ペテルブルグ軍法會議において行はれた人民の意志黨革命隱謀事件に關する裁判クヴャトコフスキー、プレスニャコフは絞首、他は要塞監獄へ。

三月一日大逆事件。此の大逆事件は一八八一年三月二十六日から同廿九日に亘り裁判され人民の意志黨の有名なテロリストであつたジェリャボフ、ペロフスカヤ女史、キバリチッチ、ゲリフマン女史、ミハイロフ、ルイサコフ等は死刑に處せられた。たゞゲリフマン女史の死刑は姙娠中の故をもつて延期され、ヨーロッパの輿論が彼女に同情して喧噪を極めたので終身懲役に減刑され、間もなく獄死した。

二十人裁判事件。一八八二年二月に行はれた有名な裁判、人民の意志黨のテロリスト大會が一擧に檢擧された事件である。内十名は死刑を宣告されたがヨーロッパの輿論がやかましかつたので全部長期の懲役に減刑された。

二十三人裁判事件。一八八二年三月オデッサ軍法會議で行はれた。被告等が人民の意志黨のテロル團に加盟した廉で一部は終身シベリアへ流刑、一部は懲役。

フィグネル裁判事件。人民の意志黨實行委員十四名は裏切黨員の密告により檢擧されヴェラ・フィグネル女史はじめ八名死刑を宣告され、其うちロガチョフ、シトロンベルグは死刑執行、他は終身懲役に減刑されシリセリブルグ要塞監獄に幽閉さる。

ロパーティン裁判事件。人民の意志黨のロパーティン以下が裏切黨員を私刑殺害した事件にして一八八七年ペテルブルグ軍法會議により五名はシリセリブルグ要塞監獄へ他はシベリアへ流刑。

一八八七年三月一日事件。レニンの兄アレクサンドル・ウリヤノフ以下の有名なるアレクサンドル三世帝暗殺計畫事件。黨員の裏切りにより最初オシポフ、アンドリュシキン、ゲネラーロフ、カンチェル及びヴォルホフの五名は現場で爆彈を懷ろにせるまゝ事前に捕へられ、翌二日主動者、ウリヤノフ、シェヴィリョフ以下爆彈製作所と秘密出版所を兼れた隱れ家で捕はれ、彼等のうちウリヤノフ、ゲネラーロフ、アンドリュシキン、オシポフ、シェヴィリョフの五名は一八八七年五月八日シリセリブルグ要塞監獄で死刑を執行された。

この事件を最後として人民の意志黨時代の革命的テロル手段は漸次に大衆運動に代つて行つた。

【人民の意志派の飛片】

一八九一年の秋に組織された「人民の意志」派の青年團體により發行された。此の一派は漸次に社會民主派に接近しレニン等の「闘爭同盟」と連絡をもちレニンの小册子なども其の秘密印刷所で出版したが一八九六年總檢擧に逢ひ擊滅された。

【人民派・共産黨】

露語「ナロドニキ・コンムニスト」。左翼社會革命黨がソヴェト政府を脱退し一九一八年ドイツ大使ミルバッハ伯を暗殺せる時、同派を去つてソヴェト政府支持の態度をつゞけた一派、後この一派は共産黨に入る。

ス

【スヴェルドロフ大學】 十月革命の殊勳者スヴェルドロフの名を冠せる共産黨大學（其項を見よ）にしてモスクワにある。全聯邦共産黨員のための最高學府。

【スヴェズダ】（星） 一九〇六年の革命後最初にペトログラドで公刊されたボリシェヴィキ新聞、第一號は一九一〇年十二月廿九日に出づ。最初一週一回、次で二回、更に一週三回となる。ボ派の日刊新聞「プラウダ」創刊と共に廢刊された。

【スパートフ主義】（スパートフシチナ） 一九〇一年頃、モスクワ警視總監エス・スパートフは密偵を使つてモスクワ勞働者の間に、革命的鬪爭をせず單に工場主に對する經濟要求により境遇改善の目的を達しうることを宣傳させた。之がために「互助組合」なるものを組織し、過激な革命的勞働者は政府の力で驅逐された。しかし其の功果もなく一九〇三年遂に全國に波及せる大罷業の勃發を見た。當時勞働運動中に潛入せるスパートフ密偵團の活動は目醒しきものがあつた。それ以來ロシアでは「スパートフ主義」なる用語は、虛僞をもつて勞働者を釣り出し、勞働運動に不利な結果を與へるための煽動に對して一般に用ゐられるやうになつた。

【スパルタカス】 世界大戰後主戰派となつた獨逸社會民主黨に對抗してカール・リープクネヒト、ローザ・ルクセンブルグ、レフ・ヨギヘス等の組織せる共産黨秘密結社。「スパルタカス」は羅馬の奴隷一揆の首領の名から取つた名稱。此の團員は帝國主義戰爭に反對し社會革命を宣傳し、獨逸に十一月革命の起れる後社會民主黨シャイデマン政府が組織されるや、同年十二月「スパルタカス」はドイツ共産黨（其項を見よ）を組織した。

【スペェツ】 露語「スペツィアリスト」即ち「專門家」の略。此の用語がソヴェト・ロシアで廣く使はれるに至つたのは、ソヴェト機關に「スペェツ」——軍事の專門家たる將校や產業の專門家たる技師、衞生の專門家たる醫師などを味方として國力の恢復をはかる方策としてレニンが「スペェツの利用」を提唱したのに始まる。

【スラヴ主義】 十九世紀の中葉にロシアで流行した西歐主義（其項參照）に對抗し、ロシア文化の特徵を尊重せんとせる國粹主義的思潮。此の思想は十九世紀の後半において最も強調されヨーロッパの東南に向つてロシア帝國を膨脹せしめんとする汎スラヴ主義の理想に轉じた。「汎スラヴ主義」參照。

七

【西歐主義】
露語「ザーパドニチェストヴォ」。一八四〇年代に流行した西歐謳歌の思潮、スラヴ主義、（其項參照）國粹主義を排斥し、ひたすらにヨーロッパ文化と密接なる關係に立つことによりロシアの發達の途があると信じた。

【正教派】
キリスト教中の東ギリシャ教派の謂。帝制ロシア、セルビヤ、モンテネグロ、ルーマニア等においては國教とされた。革命後國家と宗教が分離されて以來ロシアの正教は數個の分派に分裂した。ティホン僧正派、アフト・ケフォリスト派、ジヴォイ・ツェルコヴ派（生ける教會）古代アポストル派、ヴォズロジチェンツイ（復活派）等に分離し、教會同志の間に屢々活潑なる論爭を起してゐる。

【政教分離】
國家と宗教の分離であつて、國家は宗教乃至は教會の事業に何等の干渉を行はずまた何れかの宗教に對して特別の支持を與へることをしない。出産、婚姻、離婚、死亡等の手續は宗教によらず行政的秩序によつて遂行される。ロシア革命後ソヴェト政府は帝制時代に極度に密接な關係におかれた國家と宗教とを完全に分離した。

【生産宣傳】
ソヴェト・ロシアでは生産能率の增進及び原料、燃料、機械等に對する注意深き取扱ひについての宣傳を「生産宣傳」と呼んで盛んに勞働者の間に行つてゐる。

【清算派】（リクヴィダートル）
此の名稱は一九〇七年頃のロシア第一革命後の反動時代に、メンシェヴィキ派のダン、マルトフ、ポトレソフ、マルトゥイノフ、レヴィツキー、チェレワニン等の率ゆる一派に與へられた。此の人々はロシアに於ける革命の到來は前途尙ほ遠しとして、古い地下的革命運動を廢し、非合法的な運動を清算して合法的に議會において言論、集會、組合の自由を獲得すべしと提唱したゝめ「清算派」と呼ばれ、また其の行動を清算主義（リクヴィダートルストヴォ）といつた。此の一派は多く世界大戰と共に祖國防衞派となり、軍需品の生産を圓滑ならしめるため政府の組織した「軍事産業委員會」（其項參照）に參加し、いはゆる社會主義愛國派となつた。
「レニン」「マルトフ」「メンシェヴィキ」等參照。

【清黨】
露語「チストカ」。革命後洪水のごとくロシア共產黨に入黨せる志操堅固ならざる不良分子、一夜づけ黨員、いはゆる「紙製共產黨員」を淸掃するため一九一九年の夏、全國の黨機關に亘り第一回の淸黨が行はれ、更に一九二一年、新經濟政策の施行後にも行はれた。之により一時黨員の數は七十余萬人から三十萬人餘に激減した。一九二四、一九二五年にも部分的な淸黨が行はれた。一九二七年の大會における反對派除名も特殊の重要なる淸黨運動である。

【正統マルクス主義】
マルクス、エンゲルスの學說を展開するに、いはゆる「批判」的傾向乃至はベルンシタイン主義、修正主義（其の項參照）と異なり、マルクス及びエンゲルスによつて確立されたる社會的發展の根本法則を基礎とし之を飽まで變改しがたきものと信ずるマルクス學徒を正統マルクス主義者とする。レニンは其の代表的な一人であり、ボリシェヴィキは何れも正統マルクス主義者を以て任じてゐる。

【政治解放勞働黨】
社會革命派に屬する團體にして一八九九年モスクワで組織されプロレタリアの階級鬪爭を承認すると共に一方からはテロル手段を承認し「戰鬪隊」を組織す。ゲルシュニ、ブレシコフスカヤ女史等の有名人物が參加してゐた。一九〇二年社會革命黨に合體した。

【セーヴル條約】
一九二〇年八月十日英、佛、伊の間に土耳古分割に關し締結された條約、之によりフランスはシリアの外に地中海のアレクサンドレット灣一帶の棉產地、及びヘラクリ流域の石油產地の利權を得た。イギリスはメソポタミヤの委任統治權を得、ギリシヤはフィラキヤ及びガリポリ半島を含むヨーロッパ土耳古を割取した。此の條約に調印した土耳古舊政府は國民運動により顚覆され希土戰爭でケマルの率ゆるトルコ國民軍がギリシヤ軍を敗りトルコ國民運動が起つて條約は空文となつた。

【赤衞軍】
ソヴェト・ロシアを國內の市民戰爭と外國の干涉出兵から救出した數百萬の赤衞軍は一九二一年以後平和時代に入ると共に漸次に減少され一九二六年において常備兵數五十六萬二千となつた。常備兵の外に國家保安部の軍隊十三萬は國內の各地に配備され、また每年約四十萬の民兵が特別の師團內で短期間の敎練を受ける事となつてゐる。一九二六

七年度の赤衛軍費は總豫算四十七億六千萬留の中の七億二百萬留約一割四分に當る。

【赤衛隊】 露語「クラスナヤ・グワルディヤ」。一九一七年十一月革命に活動した勞働者の軍隊は一九一八年二月に至り正規的な赤軍「クラスナヤ・アルミヤ」が組織されると共に廢さる。

【赤色國際農民組合】（クレストインテルン）一九二四年モスクワに結成され、四十ケ國から代表者が集まり「全世界の農民と勞働者は結合せよ」といふスローガンを提起した。其の書記部は國際農業研究所を組織し機關誌「農民インタナショナル」を發行してゐる。翌二五年四月クレストインテルン協議會がモスクワに召集された。赤色國際勞働組合（プロフインテルン）と密接なる關係を有す。

【赤色國際勞働組合】 第一回大會は一九二一年の夏に召集され第二回大會は翌二二年夏に召集された。第一回大會が召集されるに至つた動機は一九二〇年六、七月の交、イギリス勞働者代表とイタリー勞働組合代表がソヴエト・ロシアを訪問した結果、臨時國際勞働組合評議會が結成され此の機關が主唱者となり大會を召集するに至つたのである。赤色××がアムステルダム××に對立して結成されたことは人の知る所。第二大會に出席せる各國の代表は千百萬人の世界の左翼的勞働組合員を代表したと註せられる。その後世界資本家の共同戰線に對抗せんがため國際勞働組合運動の單一戰線結成が必要だとし、アムステルダムと赤色××との合同が提唱され、之を達成する目的を以て英露委員會が組織されたが、「今尚ほ兩者の充分なる諒解が遂げられるに至つてゐない。以下赤色國際勞働組合の歴史を略記する。

一九二〇年七月共産黨インタナショナル及び全露勞働組合中央評議會（後に全聯邦と改稱）の提唱により各國左翼勞働組合國際機關の中心を組織する事となり各國の代議員モスクワに參集し、（一）世界大戰により革命的勞働運動は停頓した（二）各國の勞働組合は全力を盡して社會××ト××××ソヴエト共和國の××を任務とする大衆の中心となるに努力す、（三）之がため無產者××の××を樹立すべし、（四）アムステルダム勞働組合聯合はプロレタリア的原則を確立し得ざるものと認める。而して之がために、（一）現存の勞働組合より脫退することなしに、（二）全世界の勞働組合内に組織的に××××の宣傳を行ひ、（三）世界の勞働運動を改造するために戰鬪的國際委員會を組織するとの宣言を發表して赤色國際勞働組合、即ち「プロフインテルン」が結成された。一九二一年七月三日より十九日まで モスクワに第一回大會を開き、各國共產黨員の外に多數のサンヂカリスト參加し勞働組合の中立問題につき大論爭が行はれ、（一）赤色國際勞働組合を鬪爭の中心機關とし、（二）第三インタナショナルと密接なる連絡を設定し、（三）國民的にも國際的にも××行動の共同的準備をなし、（四）共產黨と連絡の設定等を決議し各國勞働組合が工場委員會を組織して活動に利用せんことを勸告した。一九二二年十一月十九日より十二月二日まで モスクワに第二回大會開かれ、（一）執行委員會の報告、（二）アムステルダムの單一戰線破壞と其對策の審議、（三）組織問題、（四）共產黨インタナショナルと赤色國際勞働組合の相互關係、（五）物價騰貴と失業問題（六）帝國主義對策、（七）ロシア組合と新經濟政策、（八）東洋諸國の勞働運動、（九）勞働組合と協同組合の關係等の問題を審議し、單一戰線維持のため組合の相互關係問題でサンヂカリズム的立場を有するフランス代表に讓歩し從來の決議を改訂。また東洋諸國の勞働運動に關し勞働階級の民族的偏見の打破、國民解放運動の支持等を決議した。一九二四年七月八日より二十二日まで モスクワに第三回大會を開き、モスクワ、アムステルダム兩國際勞働組合の合同のため全世界勞働組合大會の召集を提議した。而して一九二六年三月九日より十五日まで第四回總會をモスクワに開會、（一）現勢、（二）勞働運動の緊急任務、（三）支那における勞働運動、（四）大平洋勞働組合大會問題、（五）日本に於ける勞働運動、（六）八時間勞働問題等を議題とし十七のスローガンを決議した。（一）勞働時間延長反對、八時間勞働、十八歲未滿及び有害及び地下勞働に對する六時間制の原則確立（二）賃率の規準確立、低下反對、（三）失業保險の生活最少限保障、（四）組合組織の自由の獲得、（五）對反動組合鬪爭（六）有產階級への租稅轉嫁、（七）組合内部の官僚主義との鬪爭、（八）組合内討論の自由獲得、（九）アメリカ式階級協調に對する鬪爭、（一〇）全男女青年勞働者の組合への誘引、（一一）各國内における組合單一の確立、（一二）各國勞働者とソヴエト聯邦勞働者との接近、（一三）西歐勞働者と被抑壓東洋勞働者との接近、（一四）國際聯盟及び聯盟勞働局との鬪爭、（一五）戰爭反對、（一六）共產黨、社會民主黨、及び無所屬勞働者の反資本同盟、（一七）全世界、全人種を包括する階級的國際勞働組合單一のための鬪爭。——而して赤色××と關係を有する各國の勞働組合は、（一）赤色××

に結成せるもの十九ケ國組合員總數千三百六十四萬餘（ソヴェト聯邦の九百三十萬人、支那の二百八十萬人を最多とし朝鮮の二千人を最少とする）（二）組合の中央部は赤色××の方針に同意するも政治的其他の條件により形式的には之に加へざるもの九ケ國、組合員總數二十四萬五千人（内フィンランドの五萬人、××の三萬四千人を最多としラトヴィアの八千人を最少とする）（三）右傾勞働組合内にあり少數派として存在し赤色××に接近するもの二十三ケ國　組合員數二百六十四萬人（イギリスの九十萬人、ドイツの八十萬人を最多としパレスチナの二千人を最少とする）の三種類に分れてゐる。

【赤色支配人】

國有又は公有化された企業を經營する主任者を「クラスヌイ・ディレクトル」即ち「赤色支配人」といふ。赤色支配人のうちには勞働組合から推薦された勞働者がなる場合が多い。さういふ場合には輔佐のため技術主任として技師が任命される。漸次に共産黨員中の相當教育を受けた赤色支配人が多くなりつゝある。

【赤色少年團】

露語「ユーヌイ・ピオネル」といふ。一九一九年瑞典で組織され主として勞働者の子弟から成る階級的ボーイスカウトである。ロシアでは一九二二年以來共産黨青年團の指導の下に各地に組織され少年時代から階級意識の注入と新生活の建設に導くために教育してゐる。結團の當時全ロシアを通じて團員僅かに一萬人、翌二三年七萬五千人、二四年二十萬人、二五年百萬人、二六年百五十萬人、といふ急激な發達をとげた。運動、手工藝を學び團體生活を行ひ少年團クラブ、新聞等を有す。入團に際しては眞の勞働階級となり常に若きレニン派としての覺悟を有すべしと宣誓する。

【赤色スポーツマンインタナショナル】

國際運動協會がソヴェト運動家を排斥せるため一九二一年七月モスクワに於て第一回大會を開き各國の革命的勞働者スポーツマンを招待し赤色運動家國際協會「スポルト・インテルン」の成立を宣言した、毎年大會を開く。

【赤色テロル】

「テロル」を見よ。

【ゼノア會議】

世界大戰により荒廢せるヨーロッパの經濟復興を目的とし且つ各國協同して對露交涉を行ふために一九二二年四月

二十日より五月二十日までゼノアにおいて開催。ソヴェト・ロシアとの交涉は各國の利害相反し何等の成功を見るに至らず遂に會議をヘーグに移して繼續する事だけを取極め閉會す。此の會議においてソヴェト首席代表チチェリンは各國の間に極度の軍縮を提議して列國代表を煙に捲いた。又ソヴェト代表は列國の沒收私有財產の返還賠償要求を拒絕した。

【ゼムリャ・イ・ヴオリヤ】

「土地と自由」を見よ。

【一九〇五年革命】

普通ロシア第一革命と稱せられる。一八九〇年代の末以來、ロシアの革命運動は農民の間にも勞働者の間にも高潮を呈してゐた。一九〇二年のオブホフ勞働者一揆、ロストフ大罷業、ズラトウスト一揆、また一九〇三年夏の南露における總罷業などゝ並行して農民運動が全國内に擡頭してゐた。ロシア政府はズバートフ主義の政策（其項參照）で革命運動を阻止しやうとしたが效果なく、日本との交戰により國民の注意を國内問題から外戰に振り向けやうとした。この政策は初め愛國熱の一時的勃興によつて成功したかの如く見えたが滿洲における敗戰の報傳はると共に、國内の革命的空氣は一層激化した。一九〇五年一月九日に行はれたガポン僧正を先頭とする戰爭反對請願の示威運動はペトログラード冬宮前で機關銃の雨を浴び「血の日曜日」といふロシア革命史上の一大椿事をひき起した。これが一九〇五年革命の發端となり、相次いで國内いたる所に勞働者と農民の一揆が蜂起した。革命運動は自由主義者、ポリシェヴィキ、メンシェヴィキ、社會革命黨などの各種の反政府分子により指導された。軍隊内の騷亂、戰艦ポチョムキンの反亂等が起り同年十月には全ロシアに亘る總罷業に進展し、農民大會、勞働者ソヴェト等が組織された。十月十七日に言論、結社、集會の自由を認める「宣布」が發せられ、議會開設が約束されたので、之を劃期として革命團體の間に左右兩翼の分裂が起り、立憲民主黨は政府と妥協し、左翼は尙ほ各地で反抗をつづけたが、十二月三日ペトログラード・ソヴェトが先づ檢擧され、次で各地の一揆も順次に鎭壓された。此の革命の經驗は一九一七年革命の基礎を作つたものとされる。

【千九百十七年革命】

「三月革命」「十月革命」を見よ。

【選擧權】

ソヴェト・ロシアにおける選擧權の原則は、革命後直ちに公布された「被搾取勤勞人民の權利宣言」に基きロシア社・ソ・聯・共和國憲法（附錄其項參照）のうちに定められてゐる。選擧期日までに滿十八歲に達した左の者は性、信敎、人種、民族、住居等の差別なくソヴェトへの選擧被選擧の權利が與へられる、卽ち（イ）生産的、社會的勞務により生計の資を得る者並に之等の者に勞務に從ふ可能性を與へるため家事に從ふ者（ロ）赤兵及赤色水兵（ハ）イ、及ロに屬する人民にして何等かの程度において勞働能力を失へる者。さらに外國人と雖と勞務に從ふ目的を以てソヴェト共和國領內に滯在する者、政治的避難民も之を與へられる。選擧被選擧の權利を剝奪されてゐるのは（イ）利潤のため雇傭勞力を利用する者（ロ）資本の利子、企業の收入、財產上の所得等不勞所得により生活する者（ハ）私有商人、商業仲介業者（ニ）舊帝制警察機關の密偵、その指導者、××（ホ）精神病者（ヘ）破廉恥罪により刑の宣告をうけ刑期中の者。

【前衛隊】（アヴァンガルド）

軍隊或は艦隊の前衛隊。社會運動では自覺せる積極的な階級的先進隊の意に轉用さる。

【全聯邦共産黨】（ボリシェヴィコフ）

舊稱「ロシア共産黨」。一九二六年に改稱さる。一九一八年までロシア社會民主勞働黨（ボリシェヴィコフ）と稱されたが同年三月の第七回大會にメンシェヴィキをも含む舊黨名を放棄することとなり「ロシア共産黨」と改稱した。最初ロシア社會民主黨の基礎が結成されたのは一八九八年三月十四日ミンスクに召集された「勞働階級解放鬪爭同盟」の全露大會に於てである。此の大會は「ロシア社會民主勞働黨の宣言」（マニフェスト）を採決し中央委員を選擧した。宣言に曰く「ロシア無產階級は社會主義の完全なる勝利に至るまで偉大なるエネルギーを以て資本主義及びブルジョアジーとの鬪爭を繼續す」と。第一回大會においては代議員間の統一充分に強固ではなかつた。間もなく大會參列者と中央委員會の殆んど全部は檢擧された。第一回大會と第二回との間の五年間に亘り黨內の「イスクラ」派「ザリヤ」派を一方とし「經濟」派を他方とする革命運動の理論と實踐の問題に關する激烈なる鬪爭が行はれた。一八九〇年代のロシア勞働階級の間における革命的氣分は遂に此の鬪爭において「經濟」派の敗北を齎らした。その結果一九〇三年外國において第二回大會が召集され四十三名の代表者が出席し黨規と綱領が決議された。然し此の大會において黨規の第一條黨員の資格問題について少數派（メンシェヴィキ）

と多數派（ボリシェヴィキ）に分裂した。黨の組織問題に關する少數派マルトフの提案は黨の門戶を廣く一般に開放せんとするものであり、多數派レニン等の提案は之に反して精選されたる黨員をもつて規律正しき政黨の組織を主張し直接に黨の機關に參加し黨の指導に服從する者のみを以て黨員とするにあつた。此の二つの思潮の鬪爭は、第二回大會以後においても自由主義的政黨に對する態度、革命における無產階級の役割に關する問題等を中心として繼續された。卽ち「メ」派は政府と鬪ふため自由主義との妥協提携の必要ありとし「ポ」派は之に反對しレニン以下機關紙イスクラ（火花）を「メ」派の手に殘して同紙の編輯部から脫退し新たに「プペリョド」（進め）を發刊した。一九〇五年春ボリシェヴィキの主唱でロンドンに第三回黨大會が召集され、メンシェヴィキは參加を拒絕し、單獨にジュネヴに會議を開いた。かくて兩派分裂の溝渠は一層深くなりそれ以來「ポ」派と「メ」派は一つの政黨內における二つの翼と言ふよりも單に外觀上同じ黨名を有する二つの別個の政黨に近い實質をもつに至つた。此の兩派の別々の會議における、將來の革命政權問題に對する態度を見るに「ポ」派はプロレタリアと農民の××××××を決議したが、「メ」派は此の問題に關しすつと温和的な態度を取つた。兩派の結合を計る目的で一九〇六年四月ストツクホルムで「聯合大會」が召集され此の大會では「メ」派が多數を制した。此の大會で審議された問題は、ブルジョア民主々義革命におけるプロレタリアの階級的任務、××××の可否、對ブルジョア政黨態度、國會に對する態度等であつた。玆でも兩派はすべての問題で見解を異にし、聯合大會は事實において益々分裂を鮮明にしただけであつた。大會の劈頭から兩派は第一國會に對する行動、第二國會に對する選擧の問題等で論戰をはじめた。「メ」派は選擧に際し立憲民主黨（カデット）との提携を唱へ「ポ」派は之に反對した。一九〇七年四月のロンドン大會において再び「ポ」派が優勢となり、兩派は最早や全然一つの政黨として存在をつゞけ得ないことが明白になり、徹底的に分裂するに至つた。一九〇七年以後の反動期に入ると共に「メ」派は非合法的革命運動の廢止を主張し「清算主義」を提唱し「ポ」派は全然之に反對の見解を保持したゝめである。一九〇八年十二月ポ派は全露會議を召集し、同會議は清算主義を以て勞働階級と黨の根本方針に裏切るものとして之を排斥した。一九一一——一二年に至りロシア經濟界の復興と共に勞働運動も再び擡頭し黨內の空氣も

漸く戰鬪的となり、「ボ」派の日刊新聞「ズヴェズダ」（星）「プラヴダ」（眞理）等が發刊された。一九一二年「ボ」派團體の會議召集され正式にボ派を全然獨立せる政黨と宣言し、其の中央委員會を選出した。かくて大戰勃發により國内の空氣は一變し戰爭熱は革命運動を一掃し、「メ」派の過半數は祖國防衛主義を唱へた。「ボ」派の首領レニンは外國にありて此の××を勞働階級の解放と社會主義の××××××すべしと說いた。一九一五年「ボ」派はレニンを代表として非戰派國際會議に參加しチンメルワルド（一九一六年）キンタール（一九一六年）において社會主義「中央」派のカウツキー（獨逸）マルトフ（ロシア）等を不徹底なりとなし之と衝突す。一九一七年三月革命の勃發當時「ボ」派は極めて少數を制するに過ぎず、然し其の革命に對する方針は極めて鮮明であつた。一九一七年四月レニンが外國より歸るや「ボ」派は全黨大會をペトログラドに召集し約八萬人の黨員を代表せる一三三名の代議員參集し、其の決議において、ブルジョア階級との不撓の鬪爭、プロレタリアの階級的自覺の振興、勞働者と貧農の結合をはかり「政權をソヴェトへ」を標語とした。七月事變（其項參照）は之を實現せんとする最初の試みであつたが、ケレンスキー政府の鎭壓する所となり「ボ」派の有力者は再び地下に潛伏する事となつた。同年七、八月に開かれた第六回大會はウイボルグ區及びナルフスカヤ區の勞働者に護衞され半秘密大會の形で行はれ、臨時政府に對する××計畫を決定した。此の時代よりケレンスキー政府を顚覆せる十一月七日革命までの間に「ボ」派は約二十萬人の黨員を結成した。次で政權獲得後一九一八年春獨逸とのブレスト媾和會議に際し黨内に意見の衝突起り「左翼共產主義」派（其項參照）が結成されレニン等の媾和締結說に猛烈に反對した。然し獨逸軍進入の脅威と國内到る所に勃發せる反革命軍との市民戰爭は間もなく左翼共產主義を一掃し、同三月の第七回黨大會は對獨媾和條約の締結を確認し、また此の大會において「ロシア共產黨」（其後「全聯邦共產黨」）なる黨名が採決された。翌一九一九年三月の第八回大會において新らしい黨の綱領が確認された。同大會は對中產農民態度の決議で勞働者と農民の××を絕對强固ならしむべきことを確定した。また××軍隊を建設する手段として赤軍隊の專門家（將校）を正當に利用すべきことを定めた。卽ち農民との××、××軍隊の建設によつてソヴェト政權を維持し反動團體との市民戰爭に打勝つ方策を定めたのである。第八回大會後間

もなくロシア共產黨が首唱者となり各國共產黨の第一回大會をモスクワに召集し茲に第三（共產黨）インタナショナル（其項參照）の結成を見た。市民戰爭の終熄後最初に開かれた第九回大會（一九一九年秋）の日程は悉く經濟問題、例へばソヴェト經濟組織の任務、運輸事業に於ける黨の活動、勞働組合、協同組合等の問題で滿たされた。然るに波蘭との開戰ウランゲル白衞軍の蜂起により之等の問題は實現に至らず翌年の第十回大會の問題として殘された。國内戰爭の終ると共に戰時共產制度のもとに施行された食糧徵發制度（其項參照）に對する農民の反抗が激化し、其の反映としてクロンシタット反亂が起り、續いて各地に農民の一揆反亂が蜂起し農民と勞働者の同盟が危機に瀕したので第十回大會に於ては黨の經濟政策の變改が餘儀なくされるに至つた。此の結果遂に戰時共產主義より新經濟政策（其項參照）への急廻轉が行はれた。此の大會の當時共產黨員の數は七十餘萬人と註せられた。然し此の數字のうちには革命後共產黨が支配的政黨となつたため洪水の如く之に入黨せる多數黨員中の不純分子が少からず認められたため第十回大會より第十二回大會までの二年間に亙り徹底的清黨運動が行はれ一九二二年の第十二回大會には黨員は四十餘萬人に激減するに至つた。一九二一年の第十一回大會には新經濟政策に關する論爭より惹いてレニンとトロツキーの間に勞働組合の役割に關する激論が起り中央委員たりしシリヤプニコフの指導する「ラボーチヤ・オッポヂィツィヤ」（勞働者反對派）（其項參照）が結成され、將來の共產黨論爭の萌芽となつた。一九二三年秋より一九二四年春にかけてのトロツキー派（其項參照）の進出は、ロシア共產黨の創建者にして首腦たるレニンが病床に最後の日を送り、遂に一九二四年一月二十一日永眠するに至れる時代を挾んで黨内に未曾有の論爭を捲き起すに至つた。一九二三年の論爭は「黨内民主々義問題論爭」と稱せられトロツキー派其他の反對派は當時黨内の多數派又は幹部派と稱せられるスターリン、ブハーリン、ジノヴィエフ、カーメネフ等の黨務遂行上における官僚的專橫を攻擊して黨内に民主主義（新入黨員も責任ある地位につけるやうに黨規を改訂する）を徹底せしめよと要求した。然し此の反幹部運動は第十三回大會の多數によつて排擊された。次で起つたのはトロツキーが自著論集「一九一七年」の序文として添えた論文「十月革命の敎訓」に關連して捲き起された論爭である。之によりトロツキーは一九一七年十一月革命當時の自己の革命的決斷の功績と

幹部中の或る者殊にジノヴィエフとカーメネフの逡巡的態度を公衆の前に披瀝し一九〇五年以來の持論たる永久革命論を繰返し讃が（新共産黨員と古いボリシェヴィキと）ロシア革命において偉大なる役割を演じた英雄であるかを明かにしやうとした。此のトロツキーの行動は黨内にこう〳〵たる議論をまき起し、ヤチェイカ（黨の細胞）より大會までの有ゆる機關に於て公然たる論爭問題として衆議に附した結果、全黨としてトロツキーの行動を排撃するの決議をした。レニンの死と共に共産黨は「レニンの召集」なる標語の下に主として勞働階級出身の新入黨員に門戸を解放した。智識階級出身の黨員が比率において漸次に增加し勞働階級との連絡がだん〳〵離れて行く傾向が認められたからである。此のレニン召集により一年間に三十萬人以上の黨員を增し、一九二五年の第十四回大會には黨員總數百八萬餘人（内黨員候補者四十四萬五千餘人）となり、其の出身別の割合は勞働者出身五八、六%、農民二三、八%、吏員其他の俸給生活者一七、六%となつた。然して第十五回大會よりロシア共産黨は全聯邦共産黨と改稱された。此の頃より多數派たる舊レニン派の間に論爭が起りジノヴィエフ、カーメネフ、ソコリニコフ、ラシェヴィチ、等は新反對派（其項參照）を形成し遂にトロツキー派と提携しスターリン、ブハーリン、ルイコフ等の多數幹部派と論爭するに至り一九二六、七兩年の全聯邦共産黨は多數派對新反對派及トロツキー派の論爭に紛糾を極めたが一九二七年十二月の大會により、遂に新舊反對派の首腦者を黨籍より除名するに至つた。次に全聯邦共産黨の機構を略記する。黨の最高機關は毎年一回召集される黨の大會である。大會は、大會より次の大會までの期間黨務を指導する中央委員會（屢々邦譯されるやうに中央「執行」委員會とは言はない、「中央執行委員會」は國家統制機關たるソヴェトに屬する名稱だから、注意して區別する必要がある）を選擧する。中央委員會は政治問題を掌握する政治部（「ポリト・ビュロー」現在成員九人其項參照）、組織問題に關する黨務を行ふ組織部（「オルグ・ビュロー」と略稱）及び常時當面の問題を處理する秘書部（中央委員中より三名選任）を組織する。また大會は黨及びソヴェト機關の改善監督を行ふ中央統制委員會（「C.K.K.」其項參照）を選擧する。黨の地方機關は州ビュロー、及縣、郡、區、鄉等の委員會であつて何れも當該地方の黨大會又は總會により選擧され其の責任ある役員は各所屬上級機關により確認される。黨機關の根本的單位はヤチェイカ（細胞）である。黨の指導原理は民主的中央集權主義であつて最下級機關まで討議の自由を與へられるが大會又は上級機關の決定に對しては合法的手續によりて行はるゝ次の決定を見るまで絶對服從の義務がある。黨員たる資格は黨規の第一條に「黨の綱領を承認し、黨機關中の一にあつて黨務に從ひ黨の決議に服し黨費を支拂ふ凡ての者」とある。入黨に際しては三年以上黨員たる經歷を有する者三人の紹介を要し、正黨員になるまで黨員候補者として勞働者兵卒出身の者は六ヶ月、農民出身の者は一年、智識階級出身の者は二年以上の政治敎育を受けねばならぬ。黨費の負擔は其の黨員の收入額により四級に分たれ累進的に月收の〇、五%乃至三%までを負擔する。例へば五十ルーブルの月收ある黨員は毎月二十五哥を、三百ルーブルの月收を有する者は九ルーブルを、黨費として負擔する。聯邦共産黨成員の民族別は百以上に上る。一九二五年一月現在の調査によれば正黨員候補者を合し七十四萬一千百十七人中、大ロシア人五十三萬五千餘人（七二、二%）ウクライナ人五萬二千餘人（七%）エダヤ人二萬八千九百餘人（三、九%）之について白ロシア人、キルギス人、ウズベク人、韃靼人、チュルク人、ラトヴィア人、アゼルバイジヤン人、ジョルヂヤ人、アルメニア人等一、二%乃至一、六%それ以外の民族で黨員一萬人に對し一人以上の割合を有する民族は九十以上に達する。

【全聯邦共産黨綱領】　ロシア社會民主勞働黨ボリシェヴィキ派の綱領は一九〇三年大會において採決された。一九一七年革命の後古き綱領改訂の會議はレニンに綱領草案を委託し該草案は一九一九年の第八回黨大會において採用され現在尙ほ此の綱領は保持されてゐる。

【全聯邦共産黨レニン青年同盟】（略稱コムソモル）　一九一八年第一回大會を開き其の中央委員會を組織した共産黨青年同盟員、即ち「コムソモリツイ」は共産黨候補者の資格を有する。現在同盟員は百二十萬人に達す。

【全聯邦勞働組合】　**【全聯邦勞働組合中央評議會】**（略稱V.C.S.P.S.）　全聯邦勞働組合大會により選出され八十三名を以て成員とし全ソヴェト聯邦の勞働組合運動の最高指導機關、月三回以上定期召集を行ふ。日常の仕事は評議會の選擧せる議長

書記長以下十四人の幹部會によつて行はれる。幹部會はソヴェト政府と經濟機關に對し勞働組合大會の全權代表の資格を以て參與し國家經濟計畫の審議に加はり且つ民主的中央集權主義のもとに全國の組合を指導する。評議會の名を以てする命令は全聯邦の各組合が絕對に服從の義務を負ふものであり、評議會また全聯邦勞働組合大會に責任を負ふ。ロシアにおける斯かる統一的勞働組合運動の歷史は一九〇五年革命の時に端を發し當時ペトログラド、モスクワ、ハリコフに勞働組合ビュローをおき相互に連絡統一の機關とした。然し初めて完全なる中央評議會が組織されたのは一九一七年六月末の第三回全露勞働組合會議以後である。該評議會は一九一八年一月の大會によつて確認された。評議會は職業別組合及び地方別組合を指導し職業別組合中央委員會と聯合勞働組合縣支部とは其の指導の下に直屬する。最近の統計によれば職業別組合と縣支部の下にある各組合數は全ソヴェト聯邦を通じて四千以上に達し組合員は五百萬人を超えると言はれる。但し全聯邦勞働組合員は單に産業勞働者のみでなく勤勞者たる農民、官公吏、敎員、文士藝術家より下女、門番に至るまで自己の組合をもつ。全聯邦勞働組合中央評議會は之等に對し單一政策をもつて統一指導する唯一の機關である。

【全露協同組合銀行】（略稱「フセコバンク」）消費生産協同組合のために便宜を與ふることを目的とせる銀行。

【全露ソヴェト大會】

一般組織については「ソヴェト大會」の項參照。ロシア社・聯・ソ・共和國の最高政權。第一回全露ソヴェト大會は一九一七年六月尙ほ臨時政府の時代に召集され同月十八日ソヴェトを中心とする反臨時政府示威運動が行はれボリシェヴィキは「資本家大臣打倒」「全政權をソヴェトへ」の標語を掲げて進出したが當時大會の代議員一千九十名中の大多數はメンシェヴィキと社會革命黨の勢力下に屬しボリシェヴィキ代議員は僅かに百五名であつた。第二回全露ソヴェト大會は十一月七日革命の翌日を以て召集され既に六百七十五名の代議員中三百四十三名（五割一分）はボリシェヴィキであつた。此の大會は尙ほペトログラド市中騷亂の最中に行はれ、媾和、土地、人民委員會議等に關する法令と全世界の參戰國に對する媾和提議の聲明を決議し、更にロシア國民の權利に關する宣言を發布した。土地法令に曰く「大地主の土地に對する私有權は何等の賠償を行はずして廢棄さる」

……また媾和令に曰く「賠償と併合なき、民主的なる即時無條件媾和を行ふべし」と。第三回全露ソヴェト大會は一九一八年一月に召集され對獨媾和談判の開始を決議した。代議員千名を超えボリシェヴィキと左翼社會革命黨が九割を占む。此の大會において有名なる「勤勞被搾取人民の權利宣言」が採決された。宣言の要旨に曰く「××××××の根本的任務は——有ゆる搾取の消滅、社會階級打破、搾取者に對する用捨なき××、社會の××××××の建設である」と。第四回大會は一九一八年三月モスクワに召集千二百十二人の代議員中六割四分はボリシェヴィキ。對獨ブレスト媾和條約に關するレニン派と左翼共産黨との激論の結果、此の大會に於て息拔きのため條約調印を主張せるレニン派は多數を制し遂に條約を批准した。第五回大會は同年七月に召集、當時舊ロシア帝國領土の各部は分離し中央ロシアだけがソヴェト政權下に殘されてゐた。卽ち芬蘭は分離して獨逸の勢力下にあり、エストランド、クルランドは獨逸軍の占領下にあり、ウクライナ、ドン地方は白衞軍の勢力下に分割され、高架索は土耳古軍に占領され、カザン以東はチェック軍の蹶起により分割されてゐた。又ソヴェト・ロシアの內部は飢餓に迫られ、社會革命黨左翼は露獨媾和を決

裂せしめんとてソヴェト大會の開會中に獨逸大使ミルバハ伯を暗殺する等の事變が起り、ソヴェト政權は百難殺到の危機に瀕してゐた。大會は國內の最大難問題は食糧問題なりとし、食糧徵發令を發布した。此の大會においてはじめてソヴェト憲法が制定さる。第六回ソヴェト大會は一九一八年十一月に召集、此時既に獨墺に革命起り、ソヴェト政權は稍息をついた。大會の代議員九百十四名中八割九分はボリシェヴィキを以て占められた。第七回大會は一九一九年十二月に召集、當時ソヴェト政權は聯合軍と白衞軍の重圍に陷つてゐた。卽ち東露からはコルチャック軍、南西からはペトリュラ軍、南露からはデニキン軍、北西部からはユデニッチ軍が聯合軍と共にモスクワ目がけて進擊した。此の大會は既に殆んど全員共產黨を以て占められ、大會の重要問題として審議されたのは共產黨インタナショナル召集問題、食糧問題、燃料問題、軍事問題等であつた。第八回ソヴェト大會は一九二〇年十二月召集、九割五分は共產黨員、赤衞軍が既に白衞軍を掃蕩せる結果、國內の經濟問題の解決が大會の中心問題であつた。第九回大會は一九二一年十二月召集、此の年の前半年に於て國內の隨所に一揆反亂が蜂起した。其の主なるものはクロンシタット、タンボ

フ、シベリア各地、高架索、ウクライナ等に起れるもので、食糧徴發制度即ち戰時共產制度に對する農民の不平の反映であつた。新經濟政策の施行と共に此年の終りにおいて鎭靜に歸したが東南ロシアの飢饉の慘禍は此の時代に極度に達し大會は之が救濟に忙殺された。第十回大會は一九二二年十二月に召集、二千百廿五名の代議員中二千九十二名は共產黨員。此の大會の中心問題は既に國民教育と經濟恢復の問題に移つた。新經濟策の結果國內の經濟生活は徐々に活氣づいて來た。此の大會においてソヴェト聯邦の組織と建設の問題を議し聯邦條約案を採決した。それ以後、全露ソヴェト大會は聯邦の一員たるロシア社・聯・ソ共和國のソヴェト大會となり、重要なる問題は聯邦ソヴェト大會の審議に移されるに至つた。「ソヴェト大會」參照。

【全露中央執行委員會】(略V.C.I.K.)

全露ソヴェト大會によつて選出され該ソヴェト大會の會期と會期の間におけるロシア社・聯・ソ・共和國(R.S.F.S.R.)の最高機關。國內の政治經濟生活の規制に關する凡ての法令を發し、又た同樣に國家機關に根本的變改を與ふる場合の法令をも發す。最初憲法によつて成員二百人以下と制定されしが、第八回ソヴェト大會により三百人、更に第九回ソヴェト大會により三百八十六人まで增員された。第十回全露中央委員會には正委員二百十七人、委員候補百十七人が一員として召集さる。全露ソヴェト大會に對して全責任を負ひ通常年一三回定期總會を召集さる。全露ソヴェト大會の直後引續き人民委員會議及び常置委員會を選任するために召集される中央執行委員會總會は、また執行委員會幹部會を選擧する。幹部會は執行委員會總會の會期と會期の間に人民委員會議の法令に對し變改決裁を行ふの權利を有し、減刑及び赤旗勳章を授與する權利、其他各人民委員部と各縣執行委員會間の有ゆる爭議を解決し又た共和國の行政經濟上の監督を行ふ。また個々の(總體にあらざるの意)人民委員の任免を行ふの權利を有す。全露中央執行委員會は之に所屬する常置委員會として、豫算、法律、行政の各委員會を有す。

【全露農民大會】

一九〇五年七月三十一日から二日間社會革命黨の主唱によりモスクワに召集、二十二縣下から百名の農民代表が參加した。第二回大會は同年十一月モスクワで召集、二十七縣下から百八十七名が參加し代表者は中、小規模農民の利益を代表した。一九〇六年大會事務局の委員は全部捕縛。

ソ

【ソヴェト共和國】

ソヴェト制度の形態をもつ共和國の謂である。ソヴェト聯邦內には加盟六共和國の外に多數の自治ソヴェト共和國がある。ソヴェト制度の特徵を擧ぐれば、すべての重要なる官廳の職員が選擧によつて選任され、立法機關と執政機關とが分立せず、また中央と地方の政務機關が統一を保ち、其處では勤勞階級の政治的權利が特に强調され搾取階級の政治上の權利を制限してゐる點である。

【ソヴェト憲法】

最初のソヴェト國家の憲法は一九一八年七月十日第五回全露ソヴェト大會において決定されたロシア社・聯・ソ・共和國の憲法であつて、此の憲法の內容精神は他の各ソヴェト共和國憲法の規範となつてゐる。其の內容は勤勞被搾取民の權利と一般的立場に關する宣言、中央及び地方におけるソヴェト政權を規定する所の根本法律、選擧權被選擧權に關する根本法、豫算並に國章國旗に關する法律等から成つてゐる。

【ソヴェト經營農場】

舊大地主領の模範的農場の徵發されたるものをソヴェトの公有農場とし地方の模範農場としまた將來の共產農場經營の標本とせんがため技術的にも經濟的にも最新式のやり方を示さうとしてゐる。露略「ソフホーズ」。

【ソヴェト刑法】

その特色とする所は革命的法律觀に立つ點である。例へば勞働階級に對する搾取階級の罪、社會的犯罪に對しては社會擁護の名をもつて重刑が科せられる。この種の罪に對しては(臨時的に)最も重きものは銃殺、十年までの禁錮の刑がある。例へば收賄せる官公吏が社會犯として銃殺に處せられることは稀でない。

【ソヴェト工場法】

ソヴェト勞働法のうちに含まれる工場法によれば八時間勞働制、幼年の工場勞働禁止、妊婦に對し出產前後一定期間賃銀を保障する勞働より解放、勞働者のための療養所休養所の設置、勞働組合を經て勞働者の選擧せる勞働監督委員の工場施設に對する監視等がソヴェト工場法のうちに含まれる主要點である。

【ソヴェト裁判制度】

ソヴェト・ロシアにおける最下級單位の裁判機關は人民裁判所（其項參照）である。此の裁判機關は勞働組合、農民組合等の勞農階級指導機關により任命される。その上の裁判機關は縣裁判所である。更に其の上級裁判所として共和國裁判所がある。此の三つの裁判機關の他に（一）法の運用監督のため國家檢事局（二）豫審機關（三）國家辯護機關（四）裁判執行公證機關等がある。各軍隊には軍法會議あり、『また土地及び財産に關する仲裁裁判所、勞働爭議に關する仲裁々判所等がある。現行裁判制度は一九二二年十月三十一日全露中央執行委員會の確認に係るものである。

【ソヴェト紙幣】

ロシア革命は有名なる紙幣の洪水を生んだ。收入財源なしに紙幣の增發のみによつて財政が補填された。從つて其の紙幣は不換紙幣となり加速度に價値を低落し益々增發を誘起した。その時代の紙幣を「ソヴェト紙幣」（露語略「ソヴズナク」と稱した。一九一七年十五億留、一九一八年二十八億留、一九年百三十六億留、同二〇年七百八十六留發行。一九二二年に至り零を六個切りすて、百萬留を以て一留に換算する法令が出たが、その翌年も翌々年も零の切捨てを行つた。一九二四年に至り幣制を改革し、國立銀行券「チエルヴォネツ」と財政部の發行する金貨本位の紙幣の價値が安定した。

【ソヴェト政權】

普通一般にはソヴェト聯邦の中央政權の意味。廣義には縣郡、市鄉村等一般にソヴェト機關に屬する官憲をソヴェト政權と呼ぶ。ソヴェト中央政權は每年のソヴェト大會で選任され內外の政務を執行する中央執行委員會及び其の幹部會、更に人民委員會議である。ソヴェト地方政權は夫々の縣、郡、鄉、市等の執行委員會である。

【ソヴェト政權の機構】

ソヴェト制度においては（一）ソヴェト制度の最下級單位は地方ソヴェト、卽市又は村の勞働者農民カザック代議員（言ひかへれば人民中の勤勞階級）ソヴェトである。（二）それより漸次に上級系統のソヴェト大會（其の閉會期においては執行委員會）が當該行政區域の政權である。卽ち（イ）農村に於ては、鄉（數ケ村の聯合せるもの）ソヴェト大會、（ロ）郡ソヴェト大會（ハ）縣ソヴェト大會（ニ）州ソヴェト大會又は自治共和國乃至自治州ソヴェト大會（但し自治共和國及び自治州執行委員會は中央執行委員會といふ）（ホ）最高政權は、一、聯邦加盟各共和國のソヴェト大會と其の中央執行委員會。二、ソヴェト聯邦のソヴェト大會と聯邦中央執行委員會。

【ソヴェト稅制】

國內の經濟制度の變轉に伴ひ其の稅制政策も其の都度變遷してゐる。現行の直接稅法は三つの形態をもつてゐる。卽ち（一）農民が其の一部を現金で一部を現物で拂ふところの農業單一稅（其項參照）（二）所得及財産稅（三）經營狀態に從つて徵さるる商工營業稅。間接稅は各種の消費稅率により徵稅される。

【ソヴェト大會】

ソヴェト大會の性質は（一）聯邦（二）各共和國（三）自治州（四）縣（五）郡（六）鄉等の諸段階に分たれる。聯邦、正しくいへば「社會主義ソヴェト共和國聯邦」のソヴェト大會はソヴェト聯邦における最高政權機關である。聯邦條約の確認追補、變改等の主權は此の大會にのみ屬する。聯邦ソヴェト大會は初め、年一回定期的に召集されたが、一九二六年以後三年に一回と改め、ロシア社・聯・ソ・共和國のソヴェト大會等と同樣に此の大會へは市ソヴェトから選擧民二萬五千人每に一人、縣ソヴェト大會から住民十二萬五千人每に一人の割合で代議員が送られる。第一回の聯邦ソヴェト大會は一九二二年十二月三十日モスクワに開かれソヴェト社會主義共和國聯邦建國條約を採決した。この條約に基き現在聯邦を構成する加盟共和國は六個であつて其の名稱は一、ロシア社會主義聯邦ソヴェト共和國。二、ウクライナ社會主義ソヴェト共和國。三、白ロシア社會主義ソヴェト共和國四、高架索社會主義聯邦ソヴェト共和國。五、ウズベキスタン社會主義ソヴェト共和國。六、トルコメニスタン社會主義ソヴェト共和國である。右の中ウズベキスタン、トルコメニスタンの兩共和國は一九二五年新たに加盟した。聯邦ソヴェト大會閉會期間の最高政權はソヴェト會議及び聯邦民族會議（其項參照）により構成さるゝ聯邦中央執行委員會に屬する。聯邦中央執行委員會は年一回以上召集され（必要あれば緊急總會を召集する）、その都度常時政權機關として執行委員會幹部會（プレシヂウム）を選任し之をして政權を代行せしむる。また（一）聯邦加盟の各共和國の範圍における最高政權機關は當該共和國の勞働者、農民、赤兵（前には單に兵卒と稱した）及びカザック代表者ソヴェト大會である。此の大會も年一回以上開かれる。大會と大會との間においては大會によつて選擧された中央執行委員會が政權を代行する。（二）州ソヴェト大會は其の住民の生活習慣、民

族其他の關係により特に組織された自治州にだけ存在し、其の州の最高機關である。州ソヴェト大會は(イ)市ソヴェトより選擧人五百人毎に一人(イ)縣又は郡ソヴェト大會より人口二萬五千人毎に一人の割合を以て選出される代議員によつて構成され、同大會代議員の數は、全州を通じて三百人を超えることを許されない。(四)縣ソヴェト大會は(イ)市ソヴェト及び市の形をなせる人口三千人以上の工場部落ソヴェトよりは選擧人二千人毎に一人(ロ)郡ソヴェト大會よりは人口一萬人毎に一人の割合を以て選出される代議員によつて構成される。縣ソヴェト大會代議員は三百人を超えることを許さない。(五)郡ソヴェト大會は(イ)村ソヴェトより人口二千毎に一人(ロ)郡管轄の市ソヴェトより選擧人二百人毎に一人の割合にて代議員を出し三百人以下をもつて構成される。人口二千人以下の村ソヴェト區域における郡ソヴェト大會代議員の選出は村の聯合により行はれる。(六)鄉ソヴェト大會へは鄉に統一されたる村ソヴェトより其の代議員十人毎に一人を選出し代議員の數が十人に達せざる村ソヴェトよりは各一人を選出する。附錄「圖解」參照。

【ソヴェト聯邦】

正しくは「社會主義ソヴェト共和國聯邦」、露語略稱「ソ・ソ・ソ・P.」英語略「U.S.S.R.」。一九二二年十二月三十日に調印されたロシア(自治共和國自治州を含む)ウクライナ、白ロシア及びトランス・コーカサス(グルヂィヤ、アゼルバイヂャン、アルメニヤの諸共和國を含む)の四社・ソ・共和國を統一ある聯邦國家とする條約に基き建設され、更に一九二五年三月ウズベキスタン、トルコメニスタンの兩社ソ・共和國が之に加盟し、現時六共和國の聯邦である。該條約によれば統一聯合國家建設の目的は加盟諸共和國の對外的强固と破壞されたる經濟狀態の獨立的恢復を達成せんがためである。聯邦の特徴とする所は各加盟共和國の自發的聯合といふ憲法上の原則を有する事であつて加盟共和國は聯邦より自由脫退の權利を保留し且つ聯合に際し各共和國は完全なる各民族の政治的自由平等の權利を保證される事になつて居る。聯邦の最高政權機關は聯邦ソヴェト大會であつて、同大會と大會の期間にありては聯邦會議と民族會議(聯邦會議は下院に相當し民族會議は上院に相當すると思へば大差はない)から成り立つ聯邦中央執行委員會が最高機關となる。聯邦會議の議員は聯邦加盟各共和國の中央執行委員會によつて其の代表者中から各共和國の人口比率に從つて一定の數が選擧される。民族會議は、凡ての聯邦加盟共和國並に自治共

和國から各五名づゝ又各自治州から一名づゝ選出される。右代表者によつて構成される聯邦中央執行委員會の審議に移された有ゆる法律案は聯邦會議と民族會議の個別的な確認の後において効力を生ずる。聯邦中央執行委員會の執政機關は聯邦人民委員會議(其項を見よ)である。執政上の各部門の直接指導權は夫々の人民委員部(其項を見よ)にある。聯邦中央政權機關の履行すべき政務は、外交、軍事の組織指導、全聯邦的性質を有する經濟計畫、內外商業、交通、郵便電信、司法上の基礎的決定、聯邦臣民及び外國人の權利に關する問題、敎育に關する一般的基礎の確立、大赦、及び聯邦の憲法に反する加盟共和國最高機關の決定の改廢等である。以上の諸問題の範圍外において加盟共和國の各自は其の國家權力を獨立して施行するの權利をもつ。ソヴェト聯邦の領域は二千百二十一萬平方基米、一九二六年の國勢調査によれば人口一億四千五百九十五萬二千人、內都市人口二千五百六十七萬三千人(總人口の一七、五%)、農村人口一億一千六百六十三萬人(八二、五%)。また一九二六年初め國家計畫委員會の調査によれば被傭勞働生活者九百八十萬八千人、內農業勞働者百七十萬人、產業勞働者三百七萬二千人、建築勞働者四十八萬九千人、交通勞働者百二十六萬五千人、ソヴェト機關勤務者百九十四萬四千人、その他六十七萬六千人。國民生產額は一九二六年度國家計畫委員會の調査によれば、次の如し(單位百萬ルーブル)

	國營	協同組合	私人經營	總計
農業	一、一二二	八七	一〇、〇九七	一一、三〇六
工業	五、三三三	三三八	一、二五二	六、九二三
計	六、四五五	四二五	一一、三四九	一八、二二九

革命中破壞された國民經濟は一九二七年に於て漸く戰前の水準まで回復された。(附錄「統計一覽」參照)

【ソヴェト聯邦の憲法】

一九二三年七月六日のソヴェト聯邦中央執行委員會第二回總會において確認され、聯邦の創建に關する宣言と條約とより成る。此の條約によればロシア社・聯・ソ・共和國、ウクライナ社・ソ・共和國、白ロシア社・ソ・共和國、ザ・カフカズ社・ソ・共和國は一つの國家——社會主義ソヴェト共和國聯邦(U.S.S.R.)に統一する。憲法はまた聯邦加盟共和國各自の脫退の自由其他の一般的主權を認め、聯邦政權機關の組織に關する制定をしてゐる。一九二五年新たにウズベキスタン、トルコメニスタンの兩社・ソ・共和國が聯邦中へ加盟した。

【ソヴエト勞働法典】

最初一九一八年十月に決定されたソヴエト勞働法典は戰時共産制度を反映する所のものであつた。その精神は(一)義務勞働の原則(勞働の强制と勞働力の國家的配分)(二)自由契約なき單一的勞働條件の設定(三)社會保險の原則に代ふるに社會的保障の原則を以てする(四)勞働條件に對する勞働組合の廣汎なる權利の承認(五)被傭者の都合による一の企業より他企業への自由轉移の禁止等である。次で新經濟政策施行と共に一九二二年の新勞働法典即ち現行のソヴエト勞働法典が公布された。此の法典は新經濟政策のうちに含まれる經濟制度を反映する所のもので相當個人契約の自由を承認してゐる。然しながら勞働關係の設定は一般法規の認むる範圍でのみ許される。勞働契約が法律の規準と異なることを許されるのは雇傭者側に許された最少限的勞働條件よりも被傭者側にとつてヨリ有利なる條件である場合に限る。この最少限的勞働條件の原則はソヴエト勞働法の一の特色であつて全聯邦内におけるすべての公私の雇傭關係に適用され雇傭者側が之に違反した場合は刑事的及び行政的處分を以てすることにより勞働者の利益が擁護されることになつてゐる。勞働法違反に關する問題は特殊の勞働裁判により審理される。

【相互扶助保險組合】

勞働組合内の相互扶助保險部は會員に對し諸種の場合に援助を與へる。ソヴエト・ロシアでは所得額の百分の一を拂込むを普通とし組合員の生活困難に際し援助を與へる。

【リヴレメンニク】(近代人)

一八五、六十年代のロシアの進歩的智識階級の間に勢力をもつてゐた雜誌。一八六二年廢刊に至るまでに有名な文筆家チェルヌイシェフスキイ、ドブロリュボフ、ネクラソフ等の手に編輯された時代は此の雜誌の黄金時代であつた。

【訴願局】

露語「ビュロー」、ジャロブ」といふ。勞農監督委員部に屬し、一般人民の訴願を受理する機關。そこでは凡ての人民が官廳當局の不當の處置、繁文じよくれい、官僚主義その他を指摘して訴へ出づることを受理し、其の訴願事項の當否を審査する。

【リツィアル・デモクラト】(社會民主主義者)

ドイツにおいては一八九〇年に、グール大會が開かれた時から此の「ソシアル・デモクラット」といふ名稱は前の「ドイツ社會勞働黨」の黨員の稱呼となつた。一八九一年の

エルフルト大會において、エルフルト綱領が採用され、その後に發展した社會民主黨の行動の基礎を確立した。それ以來ドイツにおける社會民主黨の發達は非常に急速に行はれ、議會選擧においても相當に多數の投票を得た。然しそれと同時に多數小ブルジョア分子がドイツ社會民主黨に浸入して來た。一九一四年の世界大戰が起つた時、議會内の社會民主黨議員はインタナショナル運動における一切の過去の盟約に反して祖國防衞主義、社會主義・妥協主義的態度を取つた。その結果ドイツ社會民主黨は忽ち多數派(シャイデマン派)と獨立派(カウツキー、ハーゼ、レデブール派)に分裂した。間もなく最初獨立社會民主黨に屬したカール・リープクネヒトは「スパルタカス」團を組織し、更にドイツ共産黨を組織した。一九一八年のドイツ革命後、社會民主黨多數派と獨立派は政權をとり之に反對せる勞働者一揆を鎭壓してカール・リープクネヒトとローザ・ルクセンブルグを殺し、ミュンヘンその他のソヴエト共和國を擊滅した。その後社會民主黨はブルジョア的憲法會議に政權を引渡した。このドイツ社會民主黨の行き方はオースタリー、フランス、スイスその他の社會民主黨に於ても同樣な形となつて現はれ大戰中いつも國民主義的行動をとつた。世界大戰を劃期として各國の「社會民主黨」が精神的に破産したと言はれる所以である。

ロシアに於ても社會民主勞働黨はボリシェヴィキとメンシェヴィキに分裂し一九一七年革命後もメンシェヴィキは尙ほ社會民主黨の名稱を持續し、共産黨となつたボリシェヴィキと對抗した。現時、全世界の社會民主黨は第二インタナショナルに加盟し、全世界的範域においては第三インタナショナルと對抗し、また各個の國々においては共産黨または左翼社會黨と對抗してゐる。

タ

【大祭日】

ソヴェト聯邦の三大節とも稱すべき大祭日は、(一)五月一日國際勞働祭日(メーデー)(二)三月十八日巴里コンミューン紀念祭日(三)十一月七日「十月革命」(露曆)祭日。その外一月九日(一九〇五年ペトログラド勞働者射殺の日)三月十二日(一九一七年帝政轉覆の日)も祭日として勞働者は勞働法により賃銀の支拂ひをうけて休業する。更にその他示威運動の日と稱せられ九月の第一日曜に「國際青年デー」、三月八日の「婦人勞働者デー」、五月五日の「印刷デー」、五月十七日「赤色少年團デー」等がある。

【第二インタナショナル】

「インタナショナル」を見よ。

【第二半インタナショナル】

「インタナショナル」見よ。

【大連會議】

一九二一年八月日本と當時の極東共和國との懸案解決の目的を以て大連に開催、極東共和國代表は日本に對し相當有利の條件を以て經濟的利益を提供する交換條件として極東にある日本軍の撤兵を要求し、日本は浦潮の要塞撤廢其他の條件を提出し、交渉八ケ月に亘り双方讓歩する所なく遂に決裂す。

【タヴリーチェスキー宮殿】

レニングラードに在り、元ポチョムキン侯の邸宅、一九〇六年以來國會議場となる。一九一七年三月革命に際し此の建物内に國會委員會(臨時政權)とペトログラド勞兵代議員ソヴェートとがおかれ、歴史的な建物となつた。

【タゲスタン社・ソ・共和國】

一九二一年建國、住民の種族は極めて多種多樣にして六つの全然異なる言語、三十二種の方言が使はれてゐる爲革命中此の地方は混然たる民族鬪爭が行はれソヴェト政權の力で漸く鎭靜するに至つた。領域三萬五千平方露里、住民八十萬人、首府ペトロフスク、後高架索社。聯・ソ・共和國に屬す。

【タタールスカヤ社・ソ・自治共和國】

一九二〇年五月二十七日全露中央執行委員會の決定により舊カザン縣及びウファ、サマラ、シンビルスク諸縣中の各一部タタール(韃靼)民族の分布地方を併せて建設されロシア社・聯・ソ・共和國に屬す。領域五十八萬平方露里、人口三百萬タタール、ロシア、チュソシ、マリイの諸民族より成り農業を主とす。

【ダーダネルス海峽問題】

ムラモル海とエイゲ海を連絡し、舊トルコ首都コンスタンチノープル港のあるボスフォラス海峽と共に地中海と黑海とを連絡する海峽。ダ海峽が國際的に屢々問題となるのは次の理由による。帝制ロシアは夙に黑海より此の海峽を經て自由に地中海に活動を試みんがために其の要港たるコンスタンチノプルを掌握せんことを希求し、世界大戰と共に英佛其他の聯合國は戰勝の場合コンスタンチノプルと其海峽をロシアに與へることを約束した。一九一七年三月革命の後ロシア國民が戰爭に疲れてゐたにも拘はらず立憲民主黨の臨時政府が勝利の終局までの標語を揭げ戰爭繼續政策をとつた理由は、主として海峽獲得の希望に刺激されて居たゝめで此政策を最も熱心に提唱したのは臨時政府外相ミリュコフである。十一月革命によりソヴェト政權が樹立さるゝや此の政策の放棄を聲明し無併合無賠償を以てする卽時媾和を提唱しドイツと共にロシアと戰へる土耳古の手に完全なる海峽支配の權利を保持させることを主張した。從つて大戰後國際聯盟が海峽管理に關する條約締結を土耳古に要求した際にもソヴェト政府は極力之に反對し、海峽問題は之に直接的利害を有する國家丈の間で解決すべきものだと主張した。一九二五年になつて土耳古自身の讓歩により聯盟諸國と土耳古との間に海峽通過に關する協約が結ばれたのでソヴェト政府は已むなく條件附で之に同意を表した。

【タッス】

ソヴェト聯邦の國營ニュース通信機關。「ロスタ」を見よ。

【單一消費組合】

「エポオ」を見よ。

【團體雇傭契約】

勞働者が企業者と雇傭契約を結ぶに際し個々に締約せず一産業部門或は一企業單位に團體的に契約を結ぶ意。ソヴェトロシアでは新經濟政策以後、國營企業制度の下に雇傭契約は勞働組合と企業との間に團體雇傭契約を締結するを原則とする。其の契約は企業の經營狀態により異なり得るが勞働法の定むる所より勞働者にとつて不利なるを得ない。

【團體農業經營】

露語「カレクチヴノエ・ハジャイストヴォ」を略し、「コルホズ」といふ。集團經營のこと。一九二九年以來急激に發展し、全農戶の五〇%は集團化さる。(第三部參照)

チ

【中央委員會】
「共産黨中央委員會」を見よ。

【中央政權】
ソヴェト聯邦の中央政權はソヴェト大會、其の中央執行委員會、又た其の執政部たる人民委員會議である。此の一般原則は聯邦加盟の各共和國、及び之に屬する各自治共和國に於ても同樣である。

【中央政治教育委員會】
略稱「グラフ・ポリト・プロスヴェト」、教育人民委員部に屬しすべての校外教育機關を管掌す。

【中央統計院】
國家計劃の基調をなすソヴェト聯邦内の統計事業一般を統轄する。其の院長は人民委員會議へ評議權(議決權なし)をもつて參與する。中央統計院に直屬する特殊の統計會議なる機關あり。

【中央統制委員會】 C.K.K)
露語「ツェントラリナヤ・コントロリナヤ・コミッシヤ」といふ。共産黨員の黨に對して犯せる諸般の罪を審議するため第十回ロシア共産黨大會の決定に基づき組織された黨の統制機關である。第十二回大會においてレニンの提議により改造され、主として勞働者出身の上級黨員五十名を以て構成される。中央統制委員會の議長は同時に勞農監督人民委員を兼ねる。(「人民委員會議」參照)國家機關と共産黨統制の指導機關との間の連絡を密接ならしめるため、共産黨中央統制委員會の成員の半數以上は國家機關たる勞農監督委員部の仕事を兼務することになつてゐる。レニンの提議によつて行はれた第十二回黨大會の決定によれば統制委員會と勞農監督委員部の根本的な任務はソヴェト・ロシアの國家機能の改善と、またそれによつて政府に對する一般農民大衆のソヴェト政府に對する信任を強め農民と勞働者の結合を强固にするために活動するにある。

【中立保障條約】
ソヴェト・ロシアは國際聯盟に入つてゐない關係から、或る有力なる國家(たとへば英國の如き)が周圍の國を反ソヴェト聯合に引き入れてロシア攻撃をする事を顧慮し其の周圍の國々と中立保障條約を締結することを一九二六年以來努力して來たが、一九二七年中にドイツ、トルコ、ラトヴィア、アフガニスタン、ペルシヤの五ケ國と之を締結する事に成功した。尙ほ引續きポーランド、フインランド、エストニア、リソアニア等の隣接諸國と之を締結せんと努力してゐる。英國の如きは之を以てソヴェト・ロシアが國際聯盟に對抗する別個の國際聯盟を作り出さんとする計畫であるとして、此の企圖に對して反對してゐる。

【中央勞働研究所】
略稱「ツェイト」。モスクヲにあり、勞働の科學的研究を行ふ機關。

【中央利權委員會】
聯邦最高國民經濟會議に屬し、その任務は(一)ソヴェト聯邦内における外國資本の輸入、各種の利權契約の締結を指導し(二)外國資本を含む各種の株式會社の定款の審査、(三)ソヴェト聯邦内にて活動を許されたる外國人會社の經營の監督等。

【チェルヴォネツ】
古い時代のロシアの金貨に對する稱呼である。ソヴェトロシアは一九二二年此の名稱を復活させて十ルーブル(約十圓)に相當する國立銀行兌換券に與へた。此の兌換券は金貨十ルーブルと兌換すべき事が記載されてゐるが同時に「政府が法令により之を許した後に於て」といふ事が記載され現在はまだ一般に金との兌換が實行されて居ない。國立銀行(ゴス・バンク)のチェルヴォネツ發行は金、外國貨幣、其他の有價證券による準備の範圍内に制限されてゐる。最近のチェルヴォネツ發行高は(何れも十月一日現在)一九二四年五千四百三十萬チェルヴォネツ(卽ち五億四千三百萬留)、一九二五年七千九百萬チェル、一九二六年八千八百萬チェルである。此の外に財政人民委員部發行の五留以下の紙幣と補助硬貨があり、一九二六年十月一日現在のソヴェト聯邦の通貨の總額は上述のゴス・バンク發行チェルヴォネツに財政人民委員部發行の五億六千六百萬留を加へて、總計十三億四千三百萬留余になる(數字は中央統計院一九二七年統計集による)

【チェカ】
「ヴェチェカ」の項を見よ。

【チョルノソーテンツイ】
ニコライ二世帝時代に皇宮政治を中心とせる極端反動政治家に與へられた稱呼、「黑色百人組」の意。カザック兵村制度の「百人組」から來た言葉。

【血の日曜日】
「一月九日の射殺」「一九〇五年革命」を見よ。

【地方集會】（ゼムスキー・ソボール）十六、七世紀のモスクヮ朝時代の人民代表機關。モスクヮ朝廷が地方貴族を牽制し、僧侶、官吏、商人等の階級の内に支持を求めんがため組織され、最初政府が代表を選任したが、十七世紀頃には選擧制度を採用し農民團體や宗教團體から代表を選擧した。地方集會は政府の提案を諮議し自己の意見を表示し亦た政府への建議をなす權利が與へられたが、之を法律化するのは勅令の名によつた。十七世紀の後期に至りモスクヮ朝廷が愈々強固になりロマノフ朝の基礎が安定すると共に地方集會は漸く影を薄くし十七世紀の末には此の集會は全く廢棄されるに至つた。一九一七年革命後、反動革命團體の復古運動の一つの表現として或る地方で、此の「地方集會」制度の再興を企圖したが失敗した。

【地方ソヴェト自治權】ロシア社・聯・ソ・共和國の憲法第六十一條に從へば地方ソヴェト自治體は單に經濟問題のみならず「當該領域内における有ゆる純地方的意義を有する政治問題」についても決裁權を與へられてゐる。ソヴェト・ロシアに於ける地方ソヴェト自治體はソヴェト政權の基礎的細胞であつて滿十八歳以上の男女により選擧されたる都市、村落、工場部落（大規模の工場なれば一或はそれ以上、小規模の工場なれば多數が密集する部落）を單位とするソヴェトは地方自治權を與へられ、數個以上の村落を統一せる郷（ヴォロスティ）及び郡、縣においてはソヴェト大會により選出される執行委員會が地方ソヴェト政權となる。

【長春會議】一九二二年九月長春に開催された日露外交會議。日本代表は當時ソヴェト・ロシアから形式的に獨立してゐた極東共和國との外交關係設定をする考へで會議に臨んだがロシア側は事實上一身同體である極東共和國とソヴェト・ロシアとを一體のものとして交涉を行はうとし、兩者の間にまづ全權代表の資格問題で見解の不一致が曝露された。それから日本代表は極東から撤兵を行ふべき日本政府の決意を聲明したが尙ほ樺太撤兵問題を尼港事件の解決、北樺太利權、浦潮要塞撤廢問題、漁業協約の改訂等に關聯せしめんとして意見纏まらず決裂にいたる。從つて日露の正式外交關係の設定は一九二五年の北京條約締結まで延期された。「大連會議」「北京會議」參照。

【チョルヌイ・ペレデェル派】「土地改革」派。一八七九年「土地と自由」派がテロル主義者と、廣く民衆の間に宣傳を行はんとする一派とに分れた際、前者は「人民の意志」派となり、後者は此の「チョルヌイ・ペレデェル」派となつた。此の派の創建者はゲ・プレハノフ、エリ・デイッチ、ヤ・ステファノヴィチ、及びヴェラ・ザスリッチ等である。團體とおなじ題名をもつ新聞を發行しロシアにおける土地所有制度を不合理とし農民に對する土地の分割替へを要求したが、ロシア國内では此の運動は尙ほ大なる成功を收めなかつた。一八八〇年の大檢擧に際し此派の幹部は外國に亡命し、そこで西歐の勞働運動の影響をうけて古い人民派的な見解を脱し根本的にプログラムを改訂して「勞働解放」團に組織がへされ、後のロシア社會民主勞働黨の基礎的分子となつた。

【チュワシスカヤ自治州】一九二〇年六月廿四日カザン、シンビルスク兩縣の一部を割いて組織されロシア社・聯・ソ・共和國に屬す。一萬六千平方露里の領域を有し人口七十二萬、主なる住民チュヮシ人、主業は農業及び手工業。

【賃銀契約】勞働組合と國營又は私有企業との間に臨時的に結ばれる勞働賃銀に關する契約である。之が團體契約と異なる所はすべての勞働條件一般に關する契約に非ずして當該企業又は當該生産の勞働賃銀額についてのみ契約する點である。

【チンメルワルド會議】一九一五年九月九日―十二日にスイスのチンメルヮルドに開かれた國際社會主義者會議。ドイツ、フランス、ロシア、イタリー、ポーランド、バルカン、スヴェデン、ノルヴェー、オランダ、スイス等のインタナショナル社會黨代表者が參加した。會議はヨーロッパの無產階級に檄し世界戰爭の停止、民族自決を基礎とする無併合無賠償媾和のために鬪爭せんことを慫慂せる宣言を發した。此の會議は社會革命獲得問題を最も鮮明に提起したレニンを首領とする「チンメルヮルド左翼」と右翼の兩派に分れ左翼は鬪爭繼續の目的をもつて中央委員をあげ、翌一九一六年四月二十四日――三十日に亘りキンタルに於て第二回の會議を召集し各國から四十人の代表者が集つた（「レニン」の項を見よ）。このインタナショナリスト聯合會議は一九一九年共產黨インタナショナルの中央部が結成されるまで存在をつゞけ其の第一回大會において解散を宣言した。

ツ

【ツァリズム】
ロシアに於けるツアーの統治の仕方、卽ち獨裁專制政治のこと。

【ツァリ】
一五四七年ロシアに君臨せるイワン四世皇帝により用ゐられた大ロシアの皇帝の尊稱。

【ツァンコフ政變】
一九二三年七月ブルガリアに反動政變を起し政府の首班となれる同國の豫備將校ツアンコフの名より起る。

【通商代表機關】
世界各國のうちで、現在ソヴェト聯邦だけが、各條約國內にもつてゐる特殊の在外機關である。露語では「トルグ・プレドストヴォ」と言つてゐる。此の機關は內外商業委員部の在外全權代表機關であつて、貿易國有制度を採つてゐる關係上、通商問題の範圍に於て外交代表機關たる大公使館（ポール・プレドストヴォ）とは全然獨立して、駐在國とソヴェト聯邦との間に行はれる貿易事務一切の管理と、其の國の市場狀態の調査研究等の任に當つてゐる。日本にも現在其の機關が存在するが、いまだ日本とソヴェト聯邦との間には正式な通商條約が締結されてゐないから、條約上確乎たる承認を與へられてゐる譯ではなく、外交文書の交換によつて暫定的に其の事務の遂行が承認されてゐるだけである。大國のうちで通商條約によりソヴェト通商代表機關の機能と特權とを正式に承認してゐるのは、獨逸と伊太利であるが、まだ國交條約が設定されてゐない米國にも、既に通商代表機關はおかれてゐる。ソヴェト聯邦が通商條約中で常に要求する所は、同代表機關の事務局と、其の指導的幹部官吏に對する不可侵權の承認である。

【ツェカ】
露語「ツェントラリヌイ・コンミッテット」の略稱「C.K」である。卽ち「中央委員會」

【ツェントロ・ソユズ】
「全聯邦中央協同組合同盟」の露語略稱。ソヴェト聯邦內の全協同組合の中央統一機關。現在聯邦內の都會と農村の間における物資交換の非常に大きな部分を其の掌中に集めてゐる。獨立せる生產機關を有し外國貿易の上にも貿易國有制度の除外例として特典を與へらる。「協同組合」參照

テ

【テェスニャキ】
ブルガリア社會民主黨の左翼をさう呼んだ。世界大戰と共に非戰論を唱へ、第三インタナショナルに加盟しブルガリア共產黨となつた。首領ワシリィ・カラロフは現時亡命してモスクワに在る。

【デェロ・ナローダ】（人民の事業）
一九一七年發行右翼社會革命黨の機關新聞。

【デカブリスト】
「十二月黨」を見よ。

【デシャチーナ】
ロシアの土地の定量、日本の一町一段四畝八步に當る。中世紀以後までデシャチナの語意は農戶が義務として教會に寄進する收穫の十分の一（露語の數字「十」はデェシャチ」といふ）の意味であつた。

【テルミドール政變】
フランス大革命期に使用された革命曆中の夏に當る月がテルミドール。一七九四年のテルミドール九日（太陽曆七月二十七日）はロビスピェルの政權が溫和派により顚覆された日である。昨今ロシアの在外立憲民主黨政治家の中にはソヴェト・ロシアに「テルミドール政變」の日の來るを說く人々が多い。ヨッフェの遺書中にも此表現があつた。

【テロル】
政治的或は社會的に行はれる恐嚇手段である。テロルのうちにも個人的に行はれるものと大衆的に行はれるもの、また赤色テロル白色テロル等の別がある。ロシアに於ては初め「人民の意志」派（其項參照）の革命家たちが專制政府との鬪爭に際し政府の個々の代表者に對してテロルを用ゐ、次で社會革命黨もこの手段を踏襲した。アレクサンドル二世皇帝、セルゲーイ・アレクサンドロヴィチ大公、及び內相プレヴェなどは此の革命黨のテロルによつて暗殺された。ロシア社會民主黨はボリシェヴィキもメンシェヴィキも、テロル手段は個々の革命家の英雄的な顯現に過きず大衆の直接的參加のもとに行はれる運動の任務に反するものとしてテロルの適用に反對した。最初の組織的制度としての赤色テロルはフランス革命の一七九三年四月から翌九四年の七月にかけジャコビン黨により貴族の抗爭と外國干涉を絕滅する手段として行はれた。また此種の赤色テロルはソヴェ

ト・ロシアにおいて一九一八年から數年間、やはり舊貴族とブルジョア階級の反ソヴェト運動を鎭壓するため、また白衞軍の反亂陰謀等に對して行はれた。白色テロルはフランスにおいて一八一五年ナポレオンの執政後、その後一八七一年巴里コンミュンの倒潰後に行はれ、ロシアでは一九一七年以後白衞軍の反ソヴェト戰爭中、それからハンガリーにおいてソヴェト政權の沒落後に同國共產黨員に對して行はれた。

【電化計畫】

ソヴェト聯邦における電化計畫はレニンの提唱により第八回ソヴェト大會に際し最高經濟會議により現人民委員會議々長ルイコフの議長時代に作案され、一九二一年に確立されたものである。此の計畫によれば向ふ十年乃至十五年間にわたり國內の各地方において總計二百萬馬力を有する有力なる發電所を建設し其の地方の農村にまで燈火及び動力の電化を普及せしめんとするにある。今日迄に實現された主なる發電所はカシルスカヤ發電所の一萬六千馬力（使用燃料石炭）。シャトゥルスカヤ發電所七千馬力（泥炭）。クラスヌイ・オクチャブリ（元ウトキン工場）八千馬力（泥炭）。キヒロフスカヤ發電所（ウラル地方——水力）八千馬力。ヴォルホフスカヤ發電所（レニングラド地方、水力）八萬馬力。また近く完成せんとする發電所はバラフノフスカヤ發電所三千馬力、シテロフスカヤ（ドン河谷）三千馬力、チフリスカヤ發電所一萬三千馬力等である。資力の缺乏のためソヴェト聯邦の電化は豫定通りには進行してゐない。然し政府は中央電化計畫委員會を設置し電化政策の實現に努力してゐる。最近計畫されつゝあるドネプル河岸アレクサンドロフカ市の大水力發電所はドネプル河の激流を利用して優に百二十萬馬力を供給せんとするものである。最近年度における國庫及び地方支辨の電化支出總額は一九二四、五年度二千七百萬金留、二五・六年度五千二百萬留、二六・七年度七千六百萬留、二七・八年度（豫定）一億二千萬留である。（此の數字は一九二七・八年度「國民經濟計畫表」による）而して電化案の第一期計畫區域は三つの重要なる工業地域を包括するもので、（一）中央區域（モスクワ）（二）北西區域（レニングラド）（三）南部區域（ドン河谷）とし其の周圍二百露里乃至二百五十露里に亘る電化を完成せんとする計畫である。

【獨逸人勞働コンミューナ】

百五十年前よりヴォルガ沿岸に存在せる獨逸人移殖民地を、一九一八年十月以來全露中央執行委員會の決定により獨立せる自治體とした。サマラ及びサラトフ兩縣の各一部に一萬七千平方露里の土地を占有し住民七十五萬人は悉く獨逸移住民。ロシア農民に比し文化の程度高く干魃地方なるに拘はらず農業工業の經營狀態は良好である。主業は農首府——マルクスシタット。一九二四年の初め「沿ヴォルガ獨逸人社・ソ・自治共和國」と改稱されたが、今尙ほ普通「獨逸人コンミューナ」と呼ばれる。全住民が共產經營をしてゐるからではなく、「コンミューナ」の用語は自治體の意味で用ゐられてゐる。

【ドイツ農民戰爭】

一五二五年ドイツにおこれる廣範圍なる農民一揆、壓迫されたる當時のドイツ農民は特權階級たる僧侶と貴族と封建制度のもとに農民を奴隷とせる土地領主に反抗して到るところに蜂起した。それは全ヨーロッパを風靡せる資本主義時代の前夜における革命闘爭の影響によつて喚び起されドイツにおいては農民の敗北に終つたが、それ以來土地經營は舊封建制度から漸次に資本主義形態に轉換して行つた。農民敗北の原因は、當時において貴族僧侶の根據地であつた都市において革命的同盟者を見いだすことが不可能であつたゝめだとされてゐる。

【黨學校】

全聯邦共產黨の黨務に活動する人物養成といふ特殊敎育の目的を有する學校。露略「パルト・シコール」といふ。第一期第二期に分れ普通學以外に主として共產黨の歷史、綱領、ソヴェト政治、經濟政策、等々を敎授する。通常一年間を以て修業し共產黨大學へ入學の資格を與へられる。

【ドウス案】

ドイツの經濟復興策として一九二四年四月八日聯合國專門委員會においてアメリカ委員ドウス少將により作案され同八月十六日ロンドンにおいて聯合國とドイツとの間に調印を終つた。之によれば（一）ドイツ帝國銀行を私立銀行とし向ふ五十年間紙幣發行權をもち一定期間を經て發行紙幣は金貨との兌換を開始する。同銀行の基本金は四億金貨マークとし他にドイツ復興外債八億金貨マークは同銀行が管理

する。舊マーク紙幣十億マークは新金貨（レンテン）マーク一マークと切換へをする（二）ドイツの全鐵道は四十年間ドイツ鐵道株式會社の手に移され會社の資本金二百六十億マークと見積りその五分利付百十億マークの抵當とし、毎年一分づゝ償還し、此の利子と償還額を以て聯合國への年賦賠償金に充てる。鐵道は十八名の理事により管理され内四名を債權國代表として外國人より任命する（三）全ドイツの産業を五分利付五十億マークの抵當物となし毎年一分づゝ償還す（四）烟草、ビール、砂糖、アルコール關稅及び消費稅を引上げ其中より一九二六・七年度一億一千萬マーク、二七・八年度五億五千萬マーク、二八・九年度以後毎年十二億五千萬マークづゝを償金として支拂ふ。かくて一九二四年以後毎年支拂ふべき償金の額は第一年十億マーク、第二年十二億二千萬マーク、第三年十二億、第四年十七億五千萬第五年以後二十五億マーク宛、向ふ四十年乃至四十五年といふ事になつてゐる。ドウス案によりドイツの經濟狀態はマーク相場の安定その他外觀上やゝ整理されたが、其の代り此の支拂ひの國民的負擔が事實上勞働者の勞働時間延長待遇惡化等に向つて轉嫁された事は免かれない。

【投票權】

露語「プラヴォ・ゴロサ」直譯すれば「聲の權利」であり「投票の權利」又は「發言權」である。ソヴェト・ロシアでは此の言葉の意味は廣義に解釋され、單に國政上のソヴェト選擧權のみならず、何等かの集會における發言投票の權利、勞働組合その他の代表者選擧權の意味をもつ。それは個々の關係の區々の約束を基礎とせず國法の規準によつて與へられてゐる。その規準は性と民族の別なく滿十八才以上の者に住居の關係に拘はらず一律に與へられてゐる。但し他人の勞力を搾取する者、不勞所得により生活する者（個人商人は此うちに含まれる）は一切の選擧被選擧の權利（住宅組合役員の選擧さへ）を剝奪される事となつてゐる。

【東洋勞働者共産大學】

モスクワにあり東洋民族中の青年共産黨員を收容しマルクス主義教育を施こしてゐる。此の學校にはソヴェト聯邦内の東洋民族ばかりでなく××、支那、××、土耳古、波斯、蒙古その他の東洋民族の學生も收容されてゐる。略稱「クウトヴ」

【トゥルドウィキ】

露語「勤勞者」の意。ロシア第一期國會の選出議員の中から一九〇六年に組織された國會内の團體の名稱。此の團

體には社會革命黨及びそれに近い議員、また農民議員中の左翼派が加入してゐた。國會制度の最後の日まで卽ち第四期國會まで此團體は存在しケレンスキーは第四期國會における同團體の首領であつた。大戰と共に愛國防衞派となる。

【讀書小屋】

略稱「イズバ・チタリニャ」農村における文化宣傳の據點として縣の政治教育部指導のもとに各村落に設けられてゐる。讀書室の外に農藝の宣傳、協同組合、農事改良の講演を定期的に行ひ、また無學者撲滅を行ふ場所となつてゐる。

【都市聯盟】

世界大戰中ロシア各縣の自治會の聯盟に倣つて全ロシア都市聯盟を組織し、軍隊の衞生、食糧問題等の解決に盡力することをも其の目的としたが、政府は之を以て自治團體に政治的權利伸張の機會を與ふるものと見なし屢々政府と自治會聯盟及び都市聯盟との間に衝突が起つた。そのため一九一六年の自治團體大會は政府が遂に解散を命ずる所となつた程である。

【土地改革派】

「チョルヌイ・ペレデェル」派を見よ。

【土地共有體】（オブシチナ）

ロシアにおいて特に發達した農民の土地共有の形態。一定の土地を農民の個々の所有にあらずして一定地域の共有體の全成員の共同の所有とした。舊ロシアでは農民所有地の三分の二までが此の共有地であつた。毎年どの農戸に對し如何なる土地が幾千だけ與へられるかは共同體の總會できめた。また屢々共同經營の農業が營まれる所もあつた。「オブシチナ」の組織の大きさは非常に小規模な數戸の農家の共同から非常に大規模な數ケ村の共同まであつた。それが社會主義經營乃至は共産制經營と根本的に異なるのは、各農家は割り當てられた土地を各自が私營的に耕作した點である。ロシアの古い革命家（例へば古い人民派）たちの多くは、ロシアにおける此の農業經濟の特徵をもつて、其のまゝ容易に社會主義經營に轉換しうる要素なりと考へてゐた。共有體のうちの農民自身の希望により共有地の一部を割いて個人私有地に書き替へて固定することも行はれた。さういふ土地を「アットルブヌイ」卽ち「切取地」と稱した。

【土地國有化】

「土地の國有化は土地收入の國家への移讓である」（レニン）。從つて土地の國有化は尙は社會主義制度たることを意味せず、それはニュージランドにおける如く資本制のもと

でも考へられる。ボリシェヴィキの大地主の土地を沒收する政策は既にロシア社會民主勞働黨第四回大會の改訂農政綱領案のうちに提起されてゐるが、それは尙ほ一九〇五、六年革命の當時においてはロシアの農村にあつた封建制度の殘存物に對する破壞を意味するに過ぎなかつた。が一九一七年革命の後にソヴェト政權により實行された土地國有化は既に社會主義制度の豫件の一つであつたと見ることが出來る。之により國內の有用地をソヴェト政權の手に集中し計畫的に共同經營より社會主義的農業經營に移さんとするものであつた。農民の土地の利用は團體の共同經營にせよ個人の私有經營にせよ勞働能力に準じて租借の形式で與へられることになつた。全ロシアにおける土地國有化の思想は、既に一九〇〇年の初め社會革命黨により提起されて同黨の綱領のうちに加へられ、農民運動の擡頭と共に社會革命黨(エス・エル)の機關紙「革命ロシア」は大地主領地を沒收し農村オブシチナ(土地共有體)の管理に移すべしとし之を以て土地の社會主義化なりとした。その後社會革命黨の土地國有化に關する見解は稍や變化し、「土地國有化は雇傭勞力によらざるオブシチナの農耕者にして一定年限自己の土地を耕作せざる者に國家の土地を利用せしむることである」――卽ち舊式なオブシチナと同樣個々の農民經營を單位とする商品生產制度のもとにおける全土地の國有化が社・革黨の土地國有政策なりとして說明さるゝに至つた。之は一定勞働力を有する農民が小規模經營を續ける意味であつて經濟的社會主義の純理に則したものではないとしてボリシェヴィキの反對する所であつた。一九一七年革命後、農民との提携を必要としたソヴェト政權は此の社會革命黨的土地國有化理論が農民の間に非常に深く根を張つてゐたので、已むなくエス・エル的土地國有法を發布し、漸進的に改めて行く政策を取つた。一九二五年に至り此の土地國有政策は更に中產農民との妥協の必要から臨時條令を以て個人農民の土地に對する資本經營と雇傭勞力の使用を許す事になつた。「農業新經濟政策」及び「新々經濟政策」參照。

【土地と自由團】(ゼムリヤ・イ・ヴォリヤ)

初期の「土地と自由」は十九世紀の六十年代にロシアに存在せる革命團體である。第二期の「土地と自由」は同七十年代に結成された人民派の革命團體であつて、「土地と自由」の獲得のために社會主義的宣傳を行つた。農民大衆の間における人民主義の宣傳が政府の彈壓により失敗するや團員の一部は恐怖手段によつて專制政府との鬪爭を始めた。

面して「土地と自由」派の他の一部は政治鬪爭の形式として恐怖手段を用ふることを排斥した。戰術に關する同團の內部における意見の不一致は一八七九年に至つて、團の分裂を來し、ア・ジェリャボフを首領とする一派は「人民の意志」黨(其項を見よ)を組織し革命的テロルの實行に赴いた。他の一派ゲ・プレハノフ等は「土地改革」派(チョルヌイ・ペレデェル)を組織した。後者の主なる人々は後に外國において「勞働解放」團を組織した。「勞働解放團」參照。

【土曜勞働デー】

一九一九年頃、戰時共產主義時代に全ロシアに亘り「スッボートニク」なる共同勞働の形式がレニンによつて提唱(論文「偉大なる修理」)された。每「スッボータ」(土曜)に所定の勤勞を終つてから各人は公共的勞働に從事した。市街や部落の道路掃除、修繕、または夫々の公共團體のために必要な勞働に從事した。之は民衆の間に社會のためにする共同勞働の習慣を養ふためと破壞された生活施設の大修理をするためレニンの發案した勞力を以てする社會奉仕の方法である。殆んど强制的に行はれたが、新經濟政策施行以後その事は無くなつた。

【トラスト化政策】

ソヴェト・ロシアにおけるトラスト化政策は新經濟政策の施行と共に行はれた。國有化した大規模產業機關を各產業部門と地方別區域によつてトラスト組織とし、最初之に國家が相當なる運轉資本を與へ獨立經營本位の企業に改造し最高經濟會議の指導のもとに生產を行はしめる事とした。數個のトラストは產業部門に從つて更にシンヂゲートに統一されてゐる。他の資本主義國と異なりトラストもシンヂゲートも悉く國家資本の企業である。

【トルキスタン社・ソ・自治共和國】

トルキスタン地方は十九世紀中葉に帝制ロシアの獲得せる植民地であつたが一九二一年四月十一日全露中央執行委員會の決定により舊ザ・カスピー州、スイルダリンスカヤ、セミレチエンスカヤ、アムダリンスカヤ、等の諸縣を合して自治共和國を建設し、ロシア社・聯・ソ・共和國に屬した。其後トルコメニスタン、ウズベキスタン兩共和國の建設(一九二五年三月)と共に民族分布の狀態に應じ兩共和國に改組分割された。

【土耳古】

バルカン半島の東部フィラキヤ、小アジアを領域としソヴェト聯邦の後高架索及ペルシャ、イラク、シリヤ等と國

を接し約百二十五萬平方基米突の領域を占有する。人口約八百萬人、牧畜、農業を主とし工業貧弱。首都アンゴラ。最大の都會は舊首都コンスタンチノーポリ港でボスフォラ海に面し人口百萬を有す。世界大戰後完全にイギリスの勢力範圍たらんとしたが（「セーヴル條約」參照）ケマル・パシアの國民解放運動を起すありギリシヤと戰つて勝ち共和國に改造し、ケマルは大統領となり首都を外國勢力の及び難きアンゴラに移し新興の氣運漸やくあがる。ソヴェト・ロシアはロザンヌ會議その他において絕えずトルコを支持し現在之と親善條約、中立保障條約等を結ぶ。

【トルコメニスタン社・ソ・共和國】

一九二五年中央アジア民族の國境改訂に際し組織されたソヴェト聯邦の加盟共和國の一である。舊ホレズム國民ソヴェト共和國領（ヒワ地方）トルキスタン地方を含む。

【トレチャコフ美術館】

モスクワにあり、主としてロシアの畫家の描いた價値ある繪畫が非常に澤山集められてゐる。

【トロツキズム】

トロツキーは一九一七年革命の前までロシア社會民主黨の中にあつてボリシェヴィキとメンシェヴィキといふ黨內の二つの大きな思潮の圈外に立つて一つの人格をなし、ロシア社會民主黨內の中間派であつた。革命と共にボリシェヴィキ派に加擔し共產黨組織と共に其の黨員の一人となつたが、完全に自己清算をしてゐないといふ點がレニン派ボリシェヴィキ側からするトロツキズムの見方である。トロツキーが革命前のトロツキーらしき口吻を持ちだすごとにレニン派ボリシェヴィキは此トロツキズムの現はれに向つて排擊を加へ、過去のトロツキズムの誤謬を持ちだして革命後のトロツキズムと對蹠させる。レニン派ボリシェヴィキ側から與へられてゐるトロツキズムの定義は、大要次の如きものである。トロツキズムが一つの體系をもつて進出したのは一九〇五年革命以來である。當時トロツキーは永久革命論なる革命理論を提起した。この理論においてトロツキーの提唱してゐる所は、プロレタリア政權は窮極において純勞働階級の政權であつて、之を達成するまで勞働者は絕えず革命を繼續せねばならぬとし、革命における農民の役割を認めない。從つて革命期において勞農階級の同盟は存在せず勞働者は農民と闘はねばならぬとする。此の點はレニズムの勞農革命論、勞農同盟論と可なりの距離がある。此處から人口の八割以上が農民から成立つてゐるロシアといふ一國內の社會民主革命は不可能である。××の諸國でプロレタリア××が起らないかぎりロシア革命は潰滅するといふトロツキズムの論理的歸結が生れてくる。またソヴェト政權が農民に對する讓歩をするに際して、革命の自殺なり死滅なりとするトロツキーの批判も生れてくる。レニンの生きてゐた時代にも一九一八年の對獨ブレスト媾和問題でトロツキーはレニン派の卽時調印論、ブハリン派の革命十字軍論の中間に立つて非調印非戰爭論をとなへた。一九二一年の新經濟政策と共におこつた勞働組合問題の論爭に際してもレニン派の國家と勞働組合の密接なる關係保留の下における分立主義と「勞働者反對派」（シリャプニコフ、コロンタイ等）のサンヂカリズム的な勞働組合の產業管理主義との中間にあつて、トロツキー派は勞働組合の國家機關化を唱へ勞働組合に對する國家の强制的統制を要求した。レニンが死ぬ少し前の一九二三年の秋にトロツキーは新たに「黨內民主化」問題を提起し、黨務機關に腰を据えてゐる古い黨員達の官僚化せること、また彼等は多數の新入青年黨員が共產黨の勢力のバロメーターであることを理解せず、幹部の行動に對する批判の自由を塞ぎ、黨を破滅に導きつゝあること、斯くては共產黨は產業プロレタリアを主力として內外の恐慌に堪えることは出來ない。（四十六人組の中央委員會に對する書翰）と主張した。レニンの死後一九二四年にトロツキーは論集「一九一七年」の序文に「十月革命の教訓」を書き、十月革命の成功はレニンがトロツキーの革命意見に同意した結果であり、それが無かつたら十月革命は指導精神なしに滅びたであらうと說き、當時におけるレニン派指導者の無能力を指摘し、トロツキーの永久革命論が今尙ほ唯一の有力なる革命理論であることを强調した。此の問題のためにトロツキーは黨內に空前の大論爭を捲き起し黨の各團體の審議を經て黨の大會で少數派として敗れ暫らく沈默を余儀なくされたが一九二六年ジノヴィエフ、カメネフ等新反對の蹶起と共に、再びトロツキズムを提唱して起つた。一九二七年十二月の全聯邦共產黨大會においてトロツキストは他の反對派と共に共產黨から除名された。新反對派が明確な理論的根據を有せざるに反しトロツキズムは相當に長い間に亘る理論闘爭の歷史を有し、從つて全聯邦以外の各國共產黨內の少數派の間にも若干の同情者をもつてゐたが、遂に徹底的に排擊され、或者は屈服を聲明した。トロツキーが國外に追放されると共にトロツキズムの勢力は殆んど小終熄した。

ナ

【内務人民委員部】
ソヴェト聯邦加盟共和國の人民委員部の一にして地方政權機關の行動を指導監督し、此の指導監督を實現する爲律令命令を下級政權機關に與へる權利を有する。例へばロシア社・聯・ソ・共和國の內務人民委員部は中央執行委員會の裁可を經て之に直屬する自治共和國の內務人民委員部又は縣、郡、市等のソヴェト其他の當該執行機關の律令命令を停止し或は廢止するの權利をもち、またソヴェト選擧の施行に關する一切の監督を行ふ。更に緊急を要す場合は獨自に個々の地方における戒嚴令施行の權利を有する。略稱「ナルコム・ヴヌデェル」。「人民委員會議」參照。

【ナルコマート】
「ナロドヌイ・コミッサリアト」の略語。「人民委員部」を見よ。

【ナルコム】
「人民委員」を見よ。

【ナロドナヤ・ヴォリヤ】
「人民の意志」黨を見よ。

【ナロドヌイ・コミッサリアト】
略稱「ナルコマート」。「人民委員部」を見よ。

【ナーシェ・デェロ】
一九〇六年に出たメンシェヴィキ派の週刊新聞。「我等の事業」の意。

【ナーシャ・ザリヤ】
一九一〇年より同一四年まで發刊された清算派（其項參照）の月刊雜誌。「我等の曉光」の意。

【ナチャロ】
一八九九年ストゥルヴェ及びトゥガン・バラノヴスキー編輯のもとに發行された合法マルクス主義の機關紙。「始め」の意。

【南露勞働者同盟】
一八七五年南露に結成されたロシアにおける最初の組織的な勞働組合。この同盟は北部（ペテルブルグ）勞働者との連絡を行はうとしたが間もなく警察に蹴散らされた。ペ・アクセリロードは組織者の一人である。「アクセリロード」參照。

ニ

【二月革命】（一九一七年）
「三月革命」を見よ。

【二月十九日大改革】
一八六一年二月十九日（露曆——太陽曆に十三日遲る）の農奴解放令發布の日である。「二月十九日大改革」といふ言葉で普通歷史家によつて表現されるのは此農奴解放令の事である。此の改革に對する一つの見解として農民は却つて改革前よりも經濟的苦境におかれたといふ說がある。其の理由は農奴は解放されて獨立農民となり各僅少な土地を分讓されたが當時の實際地價以上の「買取賦金」（其の語參照）を年々支拂はねばならず其の上に或る縣では從來の耕作地が三、四割も農民の手から取上げられたからである。此の大改革にロシア農民の多數が滿足をせず依然として革命の因由が其處に殘されてゐた事は爭ひ難い。

【日露戰爭】
極東、主として滿洲朝鮮における日露兩國の勢力の衝突により一九〇三年（明治三十七年）遂に開戰を見る。其の原因は、日清戰後ロシアが東方進略の手を延ばし一八九六年旅順を占領し、一九〇一年の團匪事件に際しロシアは滿洲を占領し日本の抗議を容れず、皇宮政治家ベゾブラゾフ一派が鴨綠江の林業利權を名として朝鮮侵略を計畫するや日本は英國の支持を得て開戰を決意した。當時英國は中東問題において、ロシアと利害衝突しロシアの中東、極東における進出は從つて支那及び印度における英國勢力に對する脅威を與へたからロシアが日本と戰つて其の力を弱めることは英國の最も望む所であつた。開戰と共にロシアは敗北に敗北を重ね、遂に對島大海戰においてバルチック艦隊の全滅を見るやロシア國內に革命騷亂起り（「一九〇五年革命」參照）ロシア政府は米國を介して媾和を提議し、ポーツマスにおいて一九〇五年八月媾和條約を締結す。此の條約によりロシアは旅順、大連及びサガレン島の南半を日本に讓渡し又た露領沿岸の漁業權を日本に與へた。

【ニヒリズム】（虛無主義）
ロシアにおける十九世紀の五、六十年代に行はれた宗教、族長制度、專制政治、婦人壓迫等を否認する社會思想。科學的認識の必要を熱烈に說いた。ニヒリストのタイプはトゥルゲネフの小說「父と子」のバザロフに實現されてゐる。

ネ

【ネップ】
「新經濟政策」を見よ。「ノーヴヤ・エコノミチェスカヤ・ポリティカ」の略。

【ネップマン】
新經濟政策の施行後、いろ〳〵な投機的手段で成金となつた人物に與へられた侮蔑的稱呼、新經濟政策の略稱「ネップ」より起る。

【ネデェリヤ】
一八八〇——九〇年代の人民派協同組合家の機關紙。マルクス主義の思潮と盛んに論爭した。「週間」の意。

ノ

【農業アルテル】 勞働力だけをもつ農民が組合を組織し土地と生産手段を租借して營む一種の集團農業。

【農業單一稅】
農業收穫の程度に從ひ農家の家族の數、利用土地の量、及勞働家畜の頭數等を考慮して課稅する、一九二三年以來現在ソヴェト聯邦に行はれつゝある農業課稅法。之によれば農民は、凶作の年には自然に課稅率を遞減され、反對に豐作の年にはそれを遞增される。

【農村通信員】
農民にしてソヴェト新聞通信員たる者、農村における新生活の宣傳者であり、また共產黨の方針を支持し農村クラーク(搾取者)と鬪爭するのを特色とする。露語「セリスキイ・コルレスポンデント」を略し「セリコル」といふ。一九二五年頃、農村搾取者の間にセリコル暗殺が流行した時代があつた。彼等が農村の反革命分子の行動を類りにあばいたに對する復讐手段である。勞働者通信員(ラブコル)と共にソヴェト新聞獨特の通信網を成す。

【農奴解放令】
「二月十九日大改革」を見よ。一八六一年に發布さる。

【農奴工場】
封建ロシアにおいて主としてウラル地方にむつた。露語「ポッセシォンヌイ・ザヴォド」と稱せられ國有地の森林と其の地に屬する農奴とを利用する權利を與へられて個人が工場の經營をする。農奴は土地、森林と共に工場主の利用權に屬した。

【農奴所有權】
露語「クレポストノエ」(强固なる、固定されたる)「プラヴォ」(權利)である。此の制度により農民は其の所有者即ち主人に經濟的にも身的にも束縛をうけてゐた。封建時代には西歐の何れの國にも此種制度は存在したが、ロシアでは一八六一年二月十九日の農奴解放令によつて始めて農民は此の制度から解放された。ロシアにおける農奴所有權は十四世紀の末頃から漸次に發達し、十八世紀のエカテリナ女帝時代に高潮に達し、農民は其の勞力の全部を悲慘なる生活の下に主人に奪はれ、農奴所有者は農奴と其の家族、また農奴の勞力を他に賣却する權利さへ與へられてゐた。此のため農奴一揆は十八世紀より十九世紀にかけて各地に

起つた。（「プガチョフの亂」參照）農奴解放令により農民は一身の自由を得たが土地を與へられず、之れより各地に土地要求の一揆が起り、政府は地主より土地を買上げ年賦を以て之を農民に分讓した。「賦與地」「買取賦金」參照。

【農務人民委員部】

當該共和國内の農業を管理し、發達を計るを其の任務とし地方政權たる蘇執行委員會土地部を直轄す。

【バーゼル大會】

瑞西バーゼル市に召集された一九一二年十一月廿四日—廿六日に亘る國際社會主義者大會。バルカン戰爭に關する問題討議のため緊急大會として召集され、戰爭反對を議す。第二インタナショナルに屬する社會黨代表五百人以上出席、スツットガルト（一九〇七年）及びコペンハーゲン（一九一〇年）等の國際社會主義者大會の戰爭問題に關する決議を滿場一致確認し、全世界の勞働者プロレタリアが資本的帝國主義に對して國際的に協力して戰爭に反對せんことを要求した。大會は其の宣言により各國社會黨に對し各自の任務を規定した。同大會は世界大戰前の最後の第二インタナショナル大會となつた。卽ち一九一四年に延期されウィンナ（墺太利）で開かれる筈であつた第二インタの年次大會は大戰勃發により成立せず、第二インタ幹部の多くは開戰と共にバーゼル決議に反し愛國社會主義者となつた。

【白色テロル】

「テロル」を見よ。

【白色不良青年】

一九二六年から一九二七年にかけソヴェト・ロシアの都會において、いはゆる白色不良青年の橫行が特殊の現象としてあらはれ、一時國内の大きな問題となつた。彼等は普通の不良青年らしき行爲の他に、共產黨青年團員を集會の場所やまた個々に襲擊して暴行を加へるといふ傾向をもつ。彼等のうちの多くは非勤勞階級として參政權を剝奪されてゐる私有商工業家の家庭に生れた者で、高等敎育機關に入學する權利を剝奪されてゐる連中である。フランス革命期における金筋青年團のやうな性質を持つに至るかも知れぬと、ソヴェト政府は組織的に撲滅策を講じた。

【白ロシア社。ソ共和國】

初め一九一九年に獨逸革命と共に獨軍の撤退を待つて建設され、數ケ月にして波蘭軍の占領により顚覆さる。一九二〇年七月十一日ミンスクより波蘭軍の撤退するや、其の西部の廣大な部分はリガ平和條約により波蘭に割取されはしたが再びソヴェト共和國を樹立するに至つた。ソヴェト聯邦加盟共和國の一である。領域五萬二千平方露里、人口約二百萬人、大多數は白ロシア人なるも波蘭人、猶太人、大ロシア人を有す。農業を主とす。

【鋏形恐慌】

ソヴエト・ロシアでは一九二二年の末から一九二三年の秋にかけて農業生産品と工業生産品との價格が非常な開きを生じた。戰前の物價指數に比し、工業生産品價格は日々上へ〳〵と騰貴し、農業生産品價格は之と反對に下へ〳〵と下落し其の罫線は開ける鋏の形を呈した。鋏形恐慌露語「クリヂス・ノジニッツイ」の語の起つた所以である。例へば戰前には一プードの麥を以て六、五アルシンの更紗を購入し得たるに比し一九二三年に於ては同量の麥を以て一、三の更紗を購ひ得るに過ぎぬといふ狀態になつた。此の狀態は必然的にソヴエト政府に對する農民大衆の不信を喚起する事となつたので、政府は之に對し極力對策を講じ其の緩和につとめた。假に戰前の指數を一〇〇として鋏形恐慌當時の指數表を見ると次の如くである。

	一九二二年		一九二三年	
	八月	九月	一月	五月	八月
工業品	九二	一一〇	一二二	一四五	一七一
農産品	一一二	八八	七七	六一	四九

【バシキル社・ソ・自治共和國】

一九一九年三月、ドゥトフ白衞軍に從つてソヴエト政權に反抗せるバシキール國民軍が銃を携へてソヴエト政權に投降すると共に建設を許され、ロシア社・聯・ソ・共和國に屬す。舊ウヒムスカヤ及びオレンブルスカヤ縣の一部を割いて其の領域とし九萬平方露里。ウフア市を首府とし、人口百二十萬、農業牧畜を主業とす。

【パシフィズム】

恒久的平和と戰爭の廢止を目的とする自由主義運動。世界大戰前においても此の主義を信奉する人々の國際會議は屢々召集されベルンには實行委員會が設けられたりしたが大戰を阻止することは出來なかつた。大戰後の國際聯盟の如きも此のパシフィズム運動の精神に則つて生れたものである。

【八月ブロック】

一九一二年一月ボリシェヴィキの巴里會議に對抗しメンシェヴィキ清算派、ブンド派、トロツキー派は同年八月ボリシェヴィキを除いたロシア社會民主勞働黨聯合會議をウィンナに召集、マルトフ、ダン、トロツキー等之を指導した。プレハノフは此の聯合の招待に對し出席を拒絶した。大會は反ボリシェヴィキ決議を採決し國會運動に關する新方針を決定した。

【バトラク】

韃靼語にて「獨身者」の意。露語にて古くは他の農家に雇はれて勞働する獨身農民の意味であつたが、現在では一般に土地を有せざる被傭農民のことを「バトラキイ」(復數)又は「バトラク」(單數)といふ。

【巴里コンミュン】

一八七一年三月十八日巴里において建設された勞働者の政權。コンミュンの成員の大部分は社會主義者で其うち十七人はインタナショナリストであつた。此の政權は七十二日間で仆れたが短期間の存在の間に各種の新らしい政治的プログラムを實行に移し、國際無產者運動に範を殘した。歷史上における最初のプロレタリア獨裁の政治形態だとされてゐる。然し四圍との連絡が不充分であつたゝめ舊政府が巴里郊外ヴェルサイユに撤退して軍隊を收拾し五月二十一日より巴里に向つて逆襲するや同廿八日まで「血の週間」と稱せられるほど激烈なる市街戰が續けられて遂にコンミュン團員は最後の防塞たるヴェルサイユ派の手に渡して潰滅した。コンミュンの防護に立ち向つた市民の殺さるゝ者二萬五千、流刑さるゝ者一萬五千に達した。ポリシェヴィキがロシア革命運動において「巴里コンミュン」を其の範として來たことは人の知る所である。一九二四年に巴里コンミュンの旗はフランス共產黨によりモスクワに移され共產黨インタナショナル執行委員會の手で保管されることとなつた。

【巴里六月一揆】

フランスにおける一八四八年二月革命の後、勞働者はブルジョア自由主義の政權に勞働法の制定を要求した。之が實行されざるに憤激し同年六月二十二日勞働者は一揆を起し騷亂五日間に及んだが遂に鎭壓された。

【バルカン問題】

トルコ、ルーマニア、希臘、ユゴ・スラヴィア、ブルガリア等の諸國を含むヨーロツパ東南のバルカン半島は國際的紛爭の源泉である。過去に於ては強國が近東、特に土耳古の分割を競爭する足場として上述のバルカン諸國の利用に腐心し常に衝突の絶間がなかつた。世界大戰後も、國際聯盟の力で衝突を防止するに努めてはゐるが、全然危險が一掃された譯ではない。

【バルチック海】

ソヴエト聯邦はバルチック海において重要なる商港及び軍港としてレニングラド、クロンシタットの兩港をもつてゐ

る。

【春のエポック】

一九〇四年の秋、内相プレヴェの暗殺と共に後任となつたスヴャトポルク・ミルスキー内相の政策に對して使はれた言葉である。日露戰爭と共に内相は國内の進歩的政治家や輿論との妥協を提唱し、在野自由主義政客を招待して大宴會を開いた。そこで自由派の機關新聞はロシアの暗黑政治の上に「春のエポック」が來たと書き立てた。然るに間もなく一九〇五年の革命騒亂が起つたので、此の「春のエポック」は皮肉なるアイロニーとして革命家の間に傳唱さるゝに至つた。

【ハンガリー・ソヴェト共和國】

世界大戰で敗北した墺洪帝國が一九一八年十月三十日沒落すると共にハンガリーの政權は最初ブルジョア民主黨の手に歸したが革命勢力の擡頭と共に一九二〇年三月民主黨は社會黨に政權を移讓して辭職し、社會黨は同國共産黨に提携を申込んだ。共産黨は政府に參加する條件としてソヴェト政權の樹立、勞働者の武裝、ソヴェト・ロシアとの同盟を提起し、社會黨は之を容れベラ・クンを議長とする人民委員會議の成立を見た。然し四ケ月の存在をつゞけたのみでハンガリー共産黨の農民政策よろしきを得ず内外より政敵の攻撃を受くる事となりブダペストにおいて反動革命政變が起りソヴェト政權は仆れた。

【汎スラヴ主義】

全スラヴ民族の統一を目的とする運動。此の運動の目的は各種の形態で表現された。例へば純文化的同化の目的をもつ言語の統一運動から全スラヴ民族の政治的統一の要求までが此の運動の要素をなした。十九世紀の三十年代から四十年代における戰爭熱の高潮時代にありてはロシア帝國領土の擴張を目的とする全スラヴ民族のロシアへの併合統一の必要が頻りに宣傳された。此の思潮の下に一八六七年にはモスクワでスラヴ民族大會が召集された。從つて此の運動は露領より分離せんとする民族運動、たとへば波蘭の獨立運動などを極度に排斥した。全スラヴ民族大會は其の後一九〇八年巴里において、一九〇九年ペトログラドにおいて、一九一〇年ソフィヤにおいて開かれたが、スラヴ民族間の個々の繋爭問題を解決するには至らず、世界大戰と共にロシアの汎スラヴ主義者はガリシヤまでの統一を目標としたが、革命後この運動は其の中心を失つた。然しながら最近在外亡命ロシア人の間にトルベツコイ侯を首領とする「歐亞主義」（エウロ・アジイズム）の形で新らしい汎スラヴ主義が一部の間に提唱されてゐる。

【反帝國主義大會】

植民地壓迫との闘爭聯盟の主唱により、一九二七年二月ブラッセルに召集。百三十五名の代表參加し、うち七十二名は植民地を有する資本主義國の勞働組合より、他の六十三名は植民地或は半植民地の勞働組合（支那十六名、佛領アフリカ八名、米國の被壓迫民族六名、メキシコ二名、南米四名、朝鮮四名、ペルシャ二名其他）より代表として參加し、大會は支那及び印度における英國帝國主義に反對する決議を採決し、國際勞働組合單一戰線の結成を必要なりとした。

【反猶太主義】

「アンチ・セミチズム」を見よ。

ヒ

【罷業運動】

ロシアで初めて罷業運動の起つたのは一八七、八〇年である。此の時代の最も有名な罷業は一八八五年のモロゾフ織物工場の罷業である。一九〇五、六年の第一革命には初めて總罷業が成立した。

【貧農委員會】「コム・ベエドウイ」「コンミテット・デレヴェンスコイ・ベドノトウイ」即ち「農村貧民委員會」は一九一八年ソヴェト政權により組織さる。貧農委員會は革命期におけるクラーク（農村搾取者）に對する闘爭、ソヴェト政府の法令の執行を援け食糧徴發等に活動した。戰時共產制度の撤廢、クラーク退治が一段落つくと共に貧農委員會は解散された。

フ

【フィンランド】

ソヴェト聯邦とスヴェーデンに隣接する新興共和國。領域三十二萬五千平方立基、人口三百萬、農業國。林業、製紙工業は非常に發達してゐる。一八〇九年以來ロシア帝國に併合され民族的壓迫をうけてゐた。一九一七年ロシア革命と共に當時のロシア臨時政府の反對に拘らずロシアから分離す。ソヴェト政權は民族自決主義によりフィンランドの獨立を承認し、一九一七年末から一九一八年初めまでフィンランドにソヴェト政權が樹立されたが獨逸軍の侵入と其の援助により同政權は反動派の顚覆する所となつた。一九二〇年ソヴェト政府と媾和條約を結び民主共和國として存在をつゞけてゐる。國境にあるカレリアの歸屬問題につきソヴェト・ロシアと屢々紛爭を起した事がある。

【復活祭】

キリスト教及び猶太教の春の祭、キリスト復活の祝日とされてゐる。現時のソヴェト・ロシアでは反宗教運動者は此の祭日を廢せんと努力してゐるが、一般國民の習慣は容易に消えず勞働者も農民も業を休んで祭をする。昨今ではソヴェト政府は「休養の日」と名づけて此の日を一般休日としてゐる。

【婦人ソヴェト議員】

ソヴェト・ロシアでは一九一七年革命と共に婦人に對して男子と差別なき參政權（滿十八歲以上の人民に對する選擧被選擧の權利）が與へられた。一九二七年の革命十週年に際し都市、農村のソヴェトに代議員として活動する婦人の大會がモスクワに召集されたが、其の報告によれば、一九二七年現在ソヴェト聯邦を通じて婦人にしてソヴェトの議員たる者の數は市ソヴェト議員二萬一千二百二十一人、村ソヴェト議員十四萬六千二百五十一人、區及び鄉（數村を統轄する行政區域、「ヴォロスチ」といふ）ソヴェト議員三萬一千五百七十五人、更に各ソヴェトの執行委員會に參加してゐる婦人數は凡て四千百六十六人である。併し上述の數字は男子を含む全ソヴェト議員の二割、村ソヴェト議員だけでは其の一割に相當するに過ぎぬのは、婦人が尙ほ與へられたる參政權を充分に發揮するに至つて居ないからであるが既に久しく婦人に參政權の與へられてゐる他の諸國の狀態に比べれば、ソヴェト・ロシアの婦人の政治的活動は非常に著

るしきものである。

【婦人部】

露語略「ジェン・アッデール」即ち「婦人部」は全聯邦共産黨の黨務委員會に屬する婦人部の謂。其の任務は婦人の文化的水準を向上せしめ婦人をソヴェト政治に積極的に參與せしむるやう誘導するにある。

【婦人問題】

婦人の經濟的社會的立場の改善と參政權の要求といふ意味で婦人問題が提起されたのはフランス大革命以來であつて、英國では男女平等權の獲得が盛んに宣傳され其の中の「サフラジェッツ」と稱せられる一派は暴行を以て之を促進せんとした。十九世紀の末から二十世紀の初頭にかけ若干の國々で婦人は參政權を與へられたが、婦人問題の根本は單なる形式的參政權よりも婦人の經濟的社會的立場の變革である。そこで擡頭して來たのが政治的のみならず經濟的社會的に婦人の解放を要求する婦人勞働運動である。二十世紀の婦人運動の新らしい特色は國際的婦人勞働運動である第一回の婦人社會主義者國際會議は一九〇七年に獨逸のスツットガルトで召集された。同會議の婦人社會主義者の間には二つの思潮が現はれた。一は鮮明に階級的色彩を表現するもので他は稍や妥協的温和的な思潮である。ソヴェト・ロシアに於ては十一月革命の後、尙ほ實踐問題として充分に過去の因襲から完全に離脫し得たといふには遠いが、理論に於ては政治的經濟的の兩方面から完全に婦人の解放が行はれた。

【フセコバンク】

「全露協同組合銀行」を見よ。

【不斷革命理論】

トロツキーにより提唱されたる革命理論、「永久革命論」とも邦譯される。「トロツキズム」參照。

【プトゥイルキ】

帝政時代より今尙ほモスクワにある政治犯監獄。

【プハラ】

トルキスタンとアフガニスタンに接する舊エミル王國領、首府プハラ市。ロシア十一月革命後、一九二〇年九月エミル王政府を顚覆しプハラ國民ソヴェト共和國を建設、一九二五年ソヴェト聯邦に加盟しウズベキスタン共和國の一部となる。牧畜盛んにしていたん、羊毛の産地。「ウズベキスタン共和國」參照。

【フペリョド】(進め)

一九〇四年の末から一九〇五年七月まで外國で刊行されたボリシェヴィキの新聞、すべて十九號出た。「イスクラ」がメンシェヴィキの手に移つてからレニン、ヴォロフスキー、オリミンスキー、ルナチャルスキー等により創刊された新聞である。別に一九〇八年から一七年まで矢張り外國において發行された「フペリョド」あり、これは第三期國會にボイコットを主張しレニンに反對せる左翼ボリシェヴィキ派の手で發刊されルナチャルスキー、バグダノフ、アレクシンスキー等が主宰した。

【プラウダ】

現在全聯邦共産黨の中央機關新聞。一九一二年ペトログラードにおいて創刊。露語「プラウダ」は眞理、眞實、正當正義等の意をもつ。「プラウダ」紙が創刊された當時は恰かも一九〇五年後の反動時代を經過しロシア勞働運動の復興時代であつたゝめ最初勞働者の零細な寄附金により發行された同紙は忽ち勞働者の間に勢力を占め、紙面の大部分は勞働者の通信に割かれてゐた。政府より發行停止を受くること無數回、その都度「何々プラウダ」と標題を替へて世界大戰の始まる迄續いた。一九一七年三月革命と共に再刊、同年七月事變に際しケレンスキー政府の閉鎖する所となつたが、ボリシェヴィキの政權獲得と共に復活し、現在ソヴェト政府機關紙「イズヴェスチヤ」と並んでロシアにおける最大の新聞。發行部數は百萬を越ゆと稱せられる。

【プランキズム】

勞働大衆の無自覺的な暴力を利用して社會變革を企圖する陰謀的革命戰術を謂ふ。プランキーの名より來る。ボリシェヴィズムの戰術は屢々此のプランキズムと混合される所であるが、レニンはプランキズムとボリシェヴィズムの全然異なることを常に說いてゐる。

【フランス大革命】

封建制度と王朝政權を仆しブルジョア共和國を建設せるフランスの十八世紀における革命。二十七萬人の貴族と僧侶が特權階級として政治を擅にし「第三階級」の名稱のもとに二千五百萬の民衆は無權力のもとにおかれた舊制度に反抗して起てる商工ブルジョア階級が一七八九年七月十四日バスチール監獄を占領せる巴里勞働大衆の支持をうけ、巴里市内には忽ち革命自治機關が建設された。次で農民一揆は全國に傳播し領主の居城を燒くに至る。革命運動は始め大中ブルジョア階級によつて指導され一七九一年の立法會議の憲法と各種の法律は彼等の利益を擁護した。其後指

導の中心は小ブルジョアと中ブルジョアの一部の組織せる國民集會に移る。フランスより亡命せる貴族僧侶の海外における反革命運動は獨墺皇室の支持をうけ漸く熾烈となり、幽閉中の王の逃走を計畫せることよりルイ十六世王及び王妃マリ・アントアネットは死刑され國内に反貴族テロルの流行を喚起するに至る。國民集會を支配せる温和派ジロンド黨の勢力は漸次に左傾派ジャコビン黨の取つて代る所となり、ジャコビン黨の首領ロビスピエルが革命の激化を停止せんと過激ジャコビン黨の死刑を行ふや反テロル運動起りロビスピエルの沒落（一七九四年）となり、政權は温和反動派の手に歸す。次で統領政治（ディレクトリア）よりナポレオンの軍事獨裁政治となり一八〇四年に至つて農民とブルジョアの多數を味方とせるナポレオン自ら皇帝となる。フランス大革命の役割は封建制度を破壞しブルジョア階級を政治的勢力として押し出せる點にあり、また同革命は十九世紀のヨーロッパ諸國におけるブルジョア革命の動因となり、ロシア革命運動にも衝動を與へる原因となつた。かの一八二五年の「十二月黨」の亂の如きは明かにフランス大革命の刺戟によつて生れたものである。

【ブリヤト・モンゴリヤ社・ソ・自治共和國】

全露中央執行委員會一九二二年一月十二日の制令により、ブリヤト蒙古民族の多數居住地方に建設さる。領域十萬餘平方露里、住民十七萬五千人（ブリヤト人、ロシア人、チュリチ人等を含む）住民の主業は牧畜と農業（ザバイカル地方）及び漁業（バイカル湖岸）首府を臨時にイルクーツクにおく。

【プリンス島會議】

一九一九年一月列強政府は共同してソヴェト政府と當時ロシア國内に存在せる各種の政府に提議しプリンス島に會合してロシアの問題を協議せんことを以てした。ソヴェト政府は之に同意を表し且つ舊帝制政府の債務承認と外國資本に對する利權讓渡の準備ある旨を答へた。然し他の反ソヴェト政權がボリシェヴィキとの協議を拒絶せるため此の會議は不成立に終つた。

【ブルュメル十八日政變】

ナポレオンによつて一七九九年ブルュメル（第一共和政曆の第二月）十八日（十一月九日）に國民代表會議が解散されたる政變を謂ふ。一八五一年ルイ・ボナパルト（後のナポレオン三世）によつて行はれた政變に對してマルクスは「ルイ・ボナパルトのブリュメル十八日」なる名稱を與へてゐる。

【ブルイギン國會】

ロシア第一革命騒亂と共に、一九〇五年八月六日附の勅令を以て公布されたる國務參議ブルイギンの草案せる法律審議國會（ドゥマ）をいふ。ブルイギン國會に對する革命派の戰術は二つに分裂す。ボリシェヴィキは之をボイコットして勞働者を政治的罷業に向つて召集し、メンシェヴィキはボイコットに反對し勞働者大會召集の必要を說いた。

【ブレスト媾和條約】

一九一八年獨逸及び其同盟國とロシアとの間に締結された、ロシアのために屈辱的條件を附したる媾和。ロシアは革命遂行の力を集中する息抜き政策としてレニンの力說により之に調印す。獨逸が敗戰し國内に革命勃發せるため實行さるゝに至らず。

【浮浪兒】

ソヴェト聯邦においては革命期に起つた市民戰爭と大飢饉の結果、非常に多くの浮浪兒が發生した。兩親なく寄るべなき幼少年の乞食の群は都會と言はず農村と言はず充滿し犯罪と疫病の源となり、誠に憂ふべき現象を呈した。政府も社會團體も此の現象との鬪爭に全力を盡し「子供の家」に收容しつゝあるが容易に絕滅するに至らない。近時此の問題は非常に喧ましく論議され浮浪兒撲滅のため特別の機關が設けられた程である。ソヴェト聯邦を通じ一九二六年現在浮浪兒を收容する子供の家は四千以上あり、三十五萬人が收容されてゐるが、此他に全く街頭を浮浪してゐる浮浪兒の數約二十五萬人あると言はれてゐる。

【プロフインテルン】

赤色國際勞働組合 を見よ。

【プロム・バンク】

「工業銀行」を見よ。

【プロレタリアート】

一九二七年發行の「赤色國際勞働組合 エンサイクロペヂア」の示す統計によると全世界のプロレタリアートの數は次の如くである。但し玆にプロレタリアートとして定義されてあるものは何等生産手段を私有せず勞力を賣つて生活する者を指す。（單位千人）

國名	總人口	自營者	都會及農村プロレタリア	自營農民	農村プロレ
オーストラリア	五、九九二	二、五三三	一、九三二	六三五	四五二
オースタリー	六、五三七	三、八二六	一、八〇〇	一、三二二	五〇〇
アルゼンチン	一〇、〇七七	四、〇三五	三、〇二六	一、六一四	六〇五

白耳義	七、五〇〇	三、二五〇	二、五〇〇	——	二〇〇	パレスチナ	七五〇	——	——
ブルガリヤ	五、〇八二	二、五〇〇	六五〇	二、〇三五	四〇〇	波斯	一〇、〇〇〇	——	——
英吉利	四七、五五〇	二一、一四三	一七、〇〇〇	二、四〇九	八〇〇	波蘭土	二八、五〇〇	一四、三一〇	五、八四一
ハンガリー	八、二〇〇	三、七五二	一、九六六	二、一二七	一、一〇〇	ホルトガル	六、〇三三	二、七〇〇	一、三〇〇
獨逸	六三、三九	三三、八八四	二三、三一五	九、五〇〇	四、〇〇〇	ルーマニア	一六、二六二	七、三五〇	三、五〇〇
オランダ	七、二〇〇	二、七二三	二、七〇〇	六四二	四〇〇	米國	一〇五、七一一	四一、五九五	二六、〇八一
ギリシヤ	六、四〇〇	二、八二〇	七五〇	九六五	二五〇	ソヴェト聯邦	一四六、〇〇〇	——	一二、〇〇〇
丁抹	三、三八六	一、五二四	一、〇〇〇	四七四	二八〇	土耳古	一三、三〇〇	——	八〇〇
埃及	一三、八八五	六、九四〇	三、八〇〇	四、九七〇	二、〇〇〇	芬蘭土	三、三六五	一、四三六	一、〇〇〇
英領印度	三一九、一三〇	一四六、四一四	三八、〇〇〇	一〇五、六八八	三三、三〇〇	フランス	三九、二一〇	三一、七二一	一三、〇〇〇
蘭領印度	三四、九八四	一五、七五〇	五、〇〇〇	一〇、一〇〇	三、二五〇	チェック	一三、六二三	六、七一三	三、九一三
スペイン	二一、六〇〇	九、三〇〇	三、四〇〇	六、一八〇	一、九八〇	智利	四、〇五〇	一、六〇〇	六〇〇
伊太利	三九、六〇〇	一八、二〇七	一二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	瑞西	三、九〇〇	一、八六〇	一、三六六
カナダ	八、七八八	三、三三一	二、〇五五	一、二六四	四一〇	瑞典	五、九〇四	二、九四六	一、七一三
支那	四三〇、〇〇〇	——	八、〇〇〇（邦市だけ）	——	——	エストニア	一、一〇七	五七〇	一三〇
朝鮮	一九、五二〇	——	七〇〇（都市）	——	——	エゴスラヴ	一二、〇一七	五、三〇〇	二、〇〇〇
ラトヴィヤ	一、八四五	八三〇	一九〇	六七〇	一〇〇	南阿聯邦	七、五〇〇	——	九〇〇
リソアニア	二、一〇〇	一、二五〇	二八〇	一、〇一〇	一五〇	日本	六一、〇八二	二七、四八七	一〇、二四七
メキシコ	一四、一三五	五、五〇一	四、五七三	五、五九六	三、一五五				
諸威	二、七〇〇	一、〇七〇	五九〇	三九四	一七五				

右の統計は必ずしも一つの系統から得た數字ではないと思はれる。從つて各分類された數字の和が完全に總人口と一致することを絶對に期することは出來ない。

【プロレタリー】

一九〇五年五月十四日第一號發刊、同年十一月十二日まで續き、一九〇六年七月二十六日再刊、一九一〇年まで續く。「蒼イスクラ」に代るボリシェヴィキ派の中央機關紙。フィンランド、ジュネヴ、巴里等にて印刷された。

【プロレタリア獨裁】

レニンに從へば「プロレタリア××とは法律による××と勤勞階級及び被搾取大衆の支持と共鳴をうけて行はれる徹底的なるプロレタリアートのブルジョアジーに××××××である」。又それは「プロレタリアと前衞的勤勞階級及び多數非プロレタリア的勤勞階級層乃至はそれ等の中の多數との間における反資本同盟、完全なる資本の××を目的とする同盟、ブルジョアジーの抗爭を壓伏し社會主義を確立する目的を以てする階級的同盟の新らしき形態である」とする。

【プロレタリア百人組】

一九二三、四年の頃ドイツにおいて共產黨の主唱により左翼工場委員會の間に勞働者自衞團が組織され「プロレタリア百人組」と稱す。

【ブンド】

ラトヴィア、波蘭、ロシアの全猶太人勞働組合、一八九七年創立さる。ミンスクに開かれたロシア社會民主勞働黨第一回大會で同黨に加入、一九〇三年の第二大會における黨の統一及び中央集權主義（中央委員會の單一的指導）に關する決議に服せず脫退す。一九〇六年のストツクホルム「聯合大會」に於て再び加入。社會民主黨が徹底的に分裂の後「ブンド」は再び獨立しメンシェヴィキイ清算派を支持す。世界大戰中及びロシア三月革命後もメンシェヴィキと提携せるが、ボリシェヴィキ政權樹立後ブンド組合の多數はロシア共產黨に入る。或る時代にはローザ・ルクセンブルグ女史も此團體に關係してゐた。

へ

【兵卒のブラヴダ】

一九一七年ペトログラド軍隊内で發行されたボリシェヴィキの新聞。

【北京ソヴェト大使館捜索事件】

一九二七年五月張作霖配下の軍隊は、列國外交團の諒解のもとに北京の公使館區域に入りソヴェト大使館構内にある大使館附武官々舍を強制的に家宅捜索し、其處から多數の機密文書を押收し、官舍の一部に潜伏してゐた支那共産黨員(其の中には李大釗の如き有力なる指導者がゐた)を捕縛して引揚げた。此の捜索の背後には英國の反ソヴェト聯合結成の意圖が含まれてゐたとの説あり。「英露斷交」參照。

【ヘーグ會議】

ゼノア會議の繼續として一九二二年七月ソヴェト政府の提議により、ロシアと關係各國との間における經濟問題解決のため和蘭のヘーグに召集さる。各國の外交家は此の會議をもつて專門家の會議と謳め其の決定に夫々の政府が責任を負はざる技術的な評議會なりとした。ロシアと各國との意見の相違は提案された殆んどすべての問題に亘つて見出されたので遂に決裂した。例へば第一のロシアが沒收せる私有財産問題において各國は返還賠償を主張し、ロシアは之を租借及び利權の形に於て與へんと言ひ、第二の舊債問題においては各國は戰前及び戰時債務の支拂を要求し、ロシアは戰時債務問題交涉を拒絶し且つ戰前債務の支拂と交換的にロシアに對する信用貸三十億金貨ルーブルを與へよと要求し、第三の信用貸問題において各國はロシアが私有權の恢復を承認することを條件としてソヴェト・ロシアとの貿易の發達のため各自國民又は團體に信用貸を與へることを主張し、ロシアは各國政府がソヴェト政府に對し信用貸を與へんことを要求し、外國人の私有權問題についてはソヴェト主席代表リトヴィノフは、前所有主に對し從前の企業の範圍において利權讓渡の形式で之を與へるべしと回答した。之等の意見の杆挌は長期にわたる接衝の後七月十四日に至り會議を決裂に導いた。此の會議において各國自身の間においてもロシアの市場と原料獲得のため互ひに利害の衝突することを曝露し、對露共同交涉の不可能なること明白となり、自由に單獨交涉を行ふ事となつた。「ゼノア會議」參照。

【ヘーグ大會】

一八七二年ヘーグに開かれたる社會主義者インタナショナル大會を謂ふ。マルクス、エンゲルス、バクーニン等出席し、マルクス派とバクーニン派の盛なる鬪爭行はれ、結局バクーニン派はインタナショナルより除名さる。政治鬪爭を必要とする決議を採決、此の會議に於てエンゲルス、マルクスの提議によりインタナショナル總評議會を紐育に移す。「インタナショナル」參照。

【ヘーグ平和會議】

一九二二年十二月十日より十五日に亘りアムステルダムインタナショナルの首唱により新らしき世界戰爭問題に對する各國勞働組合の態度決定のため開催さる。全聯邦勞働組合中央評議會も招待され、ロゾフスキー以下數名の代表者出席しヴェルサイユ媾和條約の基礎となれるウイルソン十四ケ條宣言に對立させヴエルサイユ條約の破棄を主張せる十四ケ條綱領案を作製して此の會議に提案したが、會議は之を否決し、たゞ新らしき戰爭の危險ある場合は之に對し各國勞働組合は總罷業を宣言するの準備あるべき原則案を決定して散會した。

【ベッサラヴィア問題】

革命前までの露領ベッサラヴィア縣。此地の住民は誠に寢雜であつて、モルダヴィヤ人、ロシア人、小ロシア人、猶太人、希臘人其他から成つてゐる。ロシヤの革命內亂中ルーマニア王國は武力を以て之を占領した。其の理由は往時帝制ロシアは之をルーマニアから强奪したものであるといふにある。ルーマニアは英佛の支持をうけ、其のベッサラヴィア歸屬議定書は國際聯盟中の英佛伊日四强國の調印を得、英佛は夙に之を批准し、伊太利も最近批准した。調印四ケ國が悉く批准を完了する時を以て議定書は効力を發生するのであるが現在日本だけが未批准國として殘つてゐる。ソヴェト・ロシアは再三繰返して此の議定書にもルーマニア政府の行動にも抗議し、ベッサラヴィアの第一住民たるモルダヴィア人の獨立心を喚起するために小ロシア共和國內にあるモルダヴィア人をして最近自治共和國を組織せしめた位だから、此の問題は將來甚だ複雜なる性質をもつ。

【ペトラシェフ派】

一八四〇年代のロシア社會主義團體、其の指導者ペトラシェフスキーの名によつてさう呼ばれた。初期社會主義啓蒙運動の團體であつて實踐にうつる前に團員は悉く捕縛され死刑を宣告されたが何れも減刑されて流刑になつた。

【ペトログラド勞兵會議】 最初に結成されたのは一九〇五年革命の際である。初めメンシェヴィキ派のフルスタリョフ・ノサリが議長となり次でトロツキーが之に代つたが、革命終熄と共に勞兵會議は消滅した。一九一七年三月革命と共にペトログラド勞兵會議は再び組織され忽ち全ロシアの勞働運動の中心となつた。この會議は勞働者部、兵卒部に分れ最初メンシェヴィキ及び社會革命黨の勢力に支配されメンシェヴィキ派のチヘゼが議長となり臨時政府の形式をもつた國會委員會に對立してゐた。その後勞兵會は漸次に左傾し遂に殆んどボリシェヴィキ派の掌中に歸し十一月革命遂行のための中心勢力となつた。十一月革命後ジノヴィエフが其の議長に擧げられたが、やがて政權確立と共に一般勤勞階級を網羅するソヴェトに變つた。

【ペトロパウロフスク要塞監獄】 レニングラードのネヴ河畔にあり、往昔芬蘭の來襲に備へるための要塞であつたが、後、革命家政治犯人の幽閉所となつた。昨今では革命博物館の一部となつてゐる。

【ペルシャ】 ロシアに隣接し英露の政治經濟的勢力に挾まれてゐる中央アジアにおける半植民地的國家。立憲君主政體にして議會をメッジリスと名づく。領域六十二萬八千基平方、住民はペルシャ人約一千萬人、約三百萬人のアラブ人、クルド人、ベルジスタン人、またアプシイ等の遊牧民あり。主として農を業とするも手工業として羊毛製品あり、ペルシャ絨氈は世界に名あり、棉花の良質なるものを産す。豐富なる石油坑あり英國人の手に掌握さる。世界大戰まで其の南部は英國、北部はロシア帝國の勢力範圍と區分されてゐたが、ロシア革命後舊英露協約（一九〇七年）は破棄されソヴェト・ロシアの排英運動と相俟つてペルシャ國民運動の擡頭を見る。したがつて英露外交紛糾の原因の一部はペルシャ問題に密接な關係をもつ。

【ペレコープ】 クリミヤ半島と本土とを連結する頸部の地名、革命後の市民戰爭時代一九二〇年にウランゲリ白衞軍とソヴェト赤衞軍とが最後の決戰を行へる地として有名である。

ホ

【保安警察部】 十九世紀の八十年代から一九一七年三月革命までロシアにあつた特別の政治警察部であつて「アフランヌイ・アッデレニエ」と言ひ通常之を略して「アフランカ」といつた。ソヴェト政府の「ゲペウ」（其項參照）が反動革命の取締りを任務とするが如く、之は革命運動の取締りを任務とし、警視總監に直屬した。

【ボイコット派】 一九〇五年のロシア第一革命後の反動期に召集された第三期國會に對しボリシェヴィキ派の一部は國會をボイコットして自派の議員を議會より召還すべしと主張した。故に此一派を「召還派」と呼んだ。レニンは之に反對し國會の演壇を僅かに殘されたる合法的な宣傳場とすべしと說き、ボイコット派の主張は左翼よりする淸算派にひとしく實際的活動を逃避し、廣き大衆との連絡より分離せんとする行動に外ならずと攻擊した。此のボイコット派の首領は有名なるバグダノフであつた。

【防衞派】 世界大戰と共に參戰國のインタナショナル勞働運動家の右翼中、インタナショナルの盟約に背き祖國防衞主義又は愛國主義を唱へはじめた人々をいふ。ロシアではメンシェヴィキ及び社會革命黨の右翼が此の立場を取り、レニンは猛烈に之と闘爭した。

【貿易國有制度】 ソヴェト・ロシアにおいては凡ての貿易は內外商業委員部（以前は內外兩部に分れてゐたが一九二六年以來統一された）と其の機關により獨占的に行はれる。若し何れかの國營機關又は個人が外國との貿易取引を行はんとする場合は商業委員部の許可を受けねばならぬ。たゞ協同組合の中央機關たる「ツェントロ・ソユズ」だけは特典を有し自由に外國との取引を許されてゐる。ソヴェト・ロシアが貿易國有制度を保持する理由は之を內外のブルジョア資本に對する鬪爭を有利ならしめ、國家經濟を危險ならしむる外國商品の殺到を防ぐ規制を容易ならしむるための武器とし、また社會主義を擁護する重要なる武器たらしめんがためである。

【貿易人民委員部】（略「ナルコム・ヴネシトルグ」）一九二〇年商工人民委員部より分離獨立す。此部の任務は外

國の資本がソヴェト聯邦内の資源及び原料を支配し、之によつて聯邦自らの力によつて行はれる産業の發達を阻止することを防ぐ目的をもつて制定された貿易國有の制度を實際に運用するにある。ソヴェト政府は此の機關を通じて貿易國有主義のもとに對外貿易に必要なる管理と調節を行ひ、豫かじめ計畫せる所に從がつて輸出の增大輸入の制限をし、以て國家資本主義の下に社會主義資本蓄積に力を與へるところの輸出超過を企圖する手段とした。そのために貿易人民委員部はロシアが貿易の對手國としてゐる國々に在外通商代表機關を有し該機關をして當該國内の市場關係に注意せしめ國家經濟機關が常に最も有利なる條件のもとに貿易を行ふやうに指導監督すると共に、物資の輸出入に際し先づソヴェト國家資本に優先權を與へながら内外の個人資本が行はうとする貿易を其の都度許可したり制限したりする權利(利權による一定範圍の例外はある)を保有する事とした。一九二六年内外商業委員部に統一された。ソヴェト聯邦の最近の總貿易額——輸出 一九二四・五年度六百十五萬噸、五億六千七百萬留。一九二五・六年度七百六十九萬噸、六億六千七百萬留餘 (内アジア國境七千八百萬ルーブル)。輸入一九二四・五年百八四萬噸、七億一千九百萬留餘。一九二五・六年度百五十四萬噸、七億五千五百萬留餘 (一九二七年度中央統計局統計集による)

【訪露外國勞働代表】

今日までソヴェト・ロシアを訪問視察せる外國勞働代表は一九二〇年イタリー代表ド・アラゴン一行。フランス代表レプティ一行。イギリス代表ターネル一行。越えて一九二四年イギリス代表パアセル一行(之を動機として英露委員會組織さる)一九二五年イギリス婦人勞働者代表クヴェル一行。フランス、ベルギイ聯合視察團。獨逸代表五十八名視察團(社會民主黨員三十名、共産黨員二十八名——内十二名婦人)スエデン勞働者二百九十四名視察團(共産黨員百名、社會民主黨員三十名、他は無所屬)教育家インタナショナル視察團(獨十五人、白十二人、佛十一人)。チェツク視察團。ノルヴエイ視察團。丁抹視察團。一九二六年に入りベルギー勞働者視察團。第二回ドイツ勞働者視察團、第二回イギリス教員視察團。同炭坑組合員。ドイツ婦人勞働者代表十九名。フランス運輸勞働組合員。イタリー成年工代表(十四名)及び未成年工代表(十三名)。芬蘭勞働代表十三名等である。

【北露勞働者同盟】

はじめ「土地と自由」派に屬した勞働者サークルによつてペトログラドに組織された。其の建設者は大工ステパン・ハルトゥリンである。同盟には二百餘名の加盟者があつたが勞働者のみが加盟しうる規約であつた。一八七七年「全ロシアの勞働者に與ふる檄」を發してロシア勞働運動史上に最初の純社會主義的要求を提起した。新聞「ザリャ・ラボーチエゴ」(勞働者の黎明)を一號だけ發刊したが、當時の政治經濟的環境は此の同盟に發達の機會を與へず、或る者はテロリストとなり間もなく解散された。

【保健人民委員部】(略ナルコム・ズドラフ)

共和國内における保健事務を管掌する。各地方政權の當該機關(縣執行委員會保健部)を指導監督する。多數國立療養所、病院等は其の管轄に屬する。

【ボナパルティズム】

ナポレオン——ボナパルト一世の名より起れる術語。十八世紀末のフランス革命期に行はれたる軍事獨裁の如き革命時における軍隊指導の行動に對して廣く用ゐらる。例へば支那革命における蔣介石の行動は、各國共産黨より純然たるボナパルティズムなりと評價された。

【ボヤール】

中世ロシアの地方領主、農奴所有階級をいふ。彼等は侯

に封ぜられ軍務と皇室の任務につくすの義務あり、十六世紀以後モスクワ帝室より俸祿をうけ其の臣下となる。

【ポーランド】

十八世紀の末以來露、普、墺に分割され獨立を失つてゐたがロシア革命と世界大戰の後に獨立の機會を得た。立憲共和國にして最高權は七年間の任期をもつて選まれる大統領に屬する。議會は上下兩院制度、下院を「セイマ」といふ。議員の任期は五年。一九一九年のヴェルサイユ會議によりポーランドに歸屬せる領域は、ガリシヤ、プルーシヤ、上シレシヤ、更に一九二一年に至りソヴェト・ロシアと媾和後白ロシヤの一部を得、一九二二年ヴィレンシチナを得た。其後リソアニアとの國境地方ヴイリノを得んとして紛爭を起してゐる。首都ワルソウは人口約百萬を有す。領域十四萬九千平方哩、總人口二千七百萬餘、ポーランド人、ロシア人、ユダヤ人を含む。工業發達し殊に鑛山、織物等の產業は有名である。農業文化發達す。バルチック沿岸諸國、バルカン諸國の小國の間に介在し小聯合國の主動國を以て任じ、ソヴェト・ロシアとの關係あまり親密でない。

【ポーランド反亂】

十八世紀の末ポーランドがロシア、ドイツ、オースタリ

一等に分割されて獨立を失つて以來、獨立恢復のため屢々反亂が勃發した。最初の反亂は一七九二——五年ポーランド革命黨首領コスチュシコ指導のもとに行はれ、農民は封侯より解放されたりとの宣言を發した。二年間抗爭の後革命軍は鎭壓された。第二回の反亂は一八三〇年に起り反軍の首領はポーランド貴族であつた。ロシア軍により幾何もなく鎭壓さる。第三回の反亂は一八六三——四年に亘り反軍は國民政府を組織し、ヨーロッパの輿論の支持とロシア革命家の聲援を得たが之れまたロシア軍隊の鎭壓する所となつた。

【ボリシェヴィキ】

「全聯邦共産黨」を見よ。

【ボリト・ビュロー】（共産黨政治部）

一九二三年までは五人制度（スターリン、ブハーリン、ルイコフ、ジノヴィエフ、カーメネフ）——一般に「ピャチョルカ」即ち「五頭領」と呼ばれた。一九二四年に上揚の成員の外にトロツキー、カリニンを加へ七人制度となり、その後更に九人制度とし一九二七年十二月の黨大會においてはブハリン、ヴォロシロフ、カリニン、クイブイシェフ、モロトフ、ルイコフ、ルズタク、スターリン、トムスキー等が選ばれた。共産黨の最高政策を生む核心中の核心である。

【ホレズム國民ソヴェト共和國】

中央アジアにおける舊ヒヴ汗國領（トルキスタン）一九二〇年四月最初の國民大會（クルルタイ）を召集しホレズム國民ソヴェト共和國を組織しソヴェト聯邦外に獨立してゐた。然し一九二五年の民族併合により同國民共和國はトルコメニスタン共和國に入り、之を通じてソヴェト聯邦に入る事となつた。

【ボロティビスト】

ウクライナ智識階級から成る左翼社會主義者の團體にして人民派的傾向をもつてゐた。後にウクライナ共産黨（ボリシェヴィキ）より獨立し中央機關紙「ボロティバ」（鬪爭）を有し別派をなしてゐた。一九二〇年ロシア共産黨ウクライナ團體に合併したが、其の大部分は清黨に際して黨を追ひ出された。

マ

【マキシマリスト】

一九〇五年ロシア第一革命に際し社會革命黨（エス・エル黨）の左翼により結成さる。直ちに社會主義制度を實行すべしとの革命の最大限的要求をもつて立ち恐嚇手段をも採用した。

【マッソン結社】

十八、九世紀に流行した宗教的秘密結社の加盟者を「マッソン」と云ふ。マッソンの所業として課せられたものは道義的善行と慈善と敎化である。宗教各派の間にある相異を否定し神は一なりとの信仰の下に信仰に生きる者の凡てを統一せんといふ欲求をもつてゐた。マッソンの行爲には神秘的な儀式や祈禱が伴つてゐた。西歐では十八世紀の末以來智識階級の多くが之に加盟し、ロシアでは十八世紀の後半からマソッン結社が起り最も盛んになつたのは十九世紀の初頭であるがその後衰滅した。イタリー、フランスには今尙ほマッソン結社が存在する。

【マリースカヤ自治州】

ロシア社・聯・ソ・共和國に屬する自治州。舊カザンスカヤ・ヴャトスカヤ兩縣內の數郡を分割して成る。人口三十萬、農業と木製品手工業を主とす。

【マルクス主義とロシア】

マルクス主義はレニン主義を經てロシアの地上に世界歷史に空前なるけんらんの花を咲かせた。ロシアにおけるマルクス主義の歷史的發展段階は、通常次の六期に分たれる。（一）主として經濟學的領域を支配せる千八百七、八十年代の初期的理論的マルクス主義の時代（二）千八百八十年代の「勞働解放」團（其項參照）發生の時代（三）千八百九十年代の合法的マルクス主義（政府により其の學說の論議を許されたる）の發展時代（四）千八百九十年代の末より千九百年代の初頭にかけての合法的マルクス主義著作の間における修正主義、實踐における經濟主義（エコノミズム）の進出時代（五）千九百年より千九百〇三年までの「ザリャ」時代、正統主義のための鬪爭時代、綱領確立のための鬪爭時代、（六）ボリシェヴィキとメンシェヴィキとの分裂以後、等である。而して正統マルクス主義者たるボリシェヴィキは一九一七年革命中之をレニン主義の名において顯現した。

ミ

【民主主義中央集權派】
全聯邦共產黨の指導原理は其の綱領において民主々義的中央集權主義であると宣言してゐる。然し此派の名稱の意味は稍や特殊の分派的な意味で解釋される。卽ち此派は一九二〇、二一年の論爭に際しオシンスキー、サプロノフ、ヒヤタコフ、ブブノフ等により指導され、共產黨の現組織を官僚的なりとし黨の地方機關に對し一層獨立的な權利を與へ黨員の個性を發揮せしめよと要求した。第九回共產黨大會に際し當時多數派が統一主義の必要を提唱せるに反對し縣執行委員會の獨立を强調し、その幹部が事實において上級機關により「任命」されることを攻擊した。第十回黨大會の勞働組合問題の論爭に際しては此派は獨立したテエゼを提起し、オシンスキーは「若し自派の提案が實行されるなら分派を自發的に解散する」と聲明した。此派の多數は更に一九二四年の論爭に際し反對派のグループに入り幹部攻擊に參加した。一九二七年の大會ではトロツキスト、新反對派、及び他の反對派の幹部と共に此派の指導者も共產黨を除名された。

【民族政策】
全聯邦共產黨は民族政策として次の如き根本方針をもつてゐる(一)大地主とブルジョアジー打倒鬪爭のための各民族のプロレタリア牛プロレタリアの接近政策 (二)被壓迫國勤勞階級の壓迫國の無產者に對する不信を除去するため如何なる民族的集團の優越權をもすべて破棄し民族の完全なる平等、植民地の國家的獨立的平等權の承認(三)同じ目的をもつて完全なる統一に向ふ過渡的形態の一つとしてソヴェト形態に組織されたる國家の聯邦的結合(四)何人が獨立に對する民族の意志の體現者であるかの問題については歷史的階級的見地に立ち、之により其の民族の史的發展が如何なる程度にあるか(卽ち中世紀的制度からブルジョア民主的制度に向ひつゝあるか又はブルジョア民主的制度からソヴェト的乃至は無產者民主的制度に向ひつゝあるか)を考慮して之に對する關係を決定する。

ム

【無學撲滅運動】
一八九七年の調査によるとロシアにおいては千人中の七百七十七人までは讀み書きし能はざる者であつた。ソヴェト政府は國內の無學撲滅をもつて社會事業のうちの重要なる任務とし教育人民委員部の機關として全國に無學撲滅の網を設け成人教育のための夜間學校、日曜學校を各所に開設した。此の事業を援助するため「無學打破協會」が組織された。一九二六年現在無學者教育所の數は全國で四千二百四十ケ所、其處で現に學びつゝある三十五歲以下の者十四萬に達してゐる。その他政治的無學者に對する政治教育は勞働組合、勞働者クラブ、「赤き室」等で行はれてゐる。

【無政府主義】
「アナキズム」を見よ。

【ムダン會議】
一九二一年トルコ軍がギリシャ軍を擊破せる結果、英國の參加のもとに開かれた媾和會議。東部フィラキヤからの英軍撤退と近東問題整理のため國際會議をロザンヌに開くことが約束された。此の會議はトルコ國民運動の最初の勝利を意味し、英國はトルコに對する在來の强壓政策を放棄し多くの讓步を余儀なくされた。

【ムルマン】
北部ロシアのコリ半島の北東部にあり、從前アルハンゲルスカヤ縣に屬せるが新たに獨立せる縣となる。北海の主要港、一九一八年英國出兵軍に占領され事あり、一九二〇年ロシア社・聯・ソ共和國に統一さる。

メ

【命令第一號】
一九一七年三月革命の直後、ペトログラド勞兵會議の名を以て軍隊に與へられた階級的權利及び兵卒の自由に關する有名なる命令である。此の命令は國會委員會により組織された初期の臨時政府の意志に反して勞兵會議により發せられたもので革命後の二重政權の特質によつて生れたものである。その結果陸相グチコフは辭職して臨時政府を去つた。

【メジライオンツィ】
「各區聯合派」を見よ。

【メンシェヴィキ】
一九〇〇年に結成したロシア社會民主勞働黨は一九〇三年の第二回黨大會で多數派と少數派に分裂した。露語「メンシェ」は比較級にて「より少なし」の意、會議などの場合「少數」を「メンシェンストヴォ」といひ、「多數」を「ボリシェンストヴォ」といふ。上述の分裂にて少數派に屬せる人々を「メンシェヴィキ」と名づけ、それは自然的にロシア社會民主勞働黨中の分派の半公式稱呼となつた。分裂の原因は黨規の第一條、如何なる人物を黨員と見做すべきかの黨の組織問題に關する意見の相異からであつて、メンシェヴィキは入黨の資格をやゝ自由寬大に見て廣く黨に同情を有する者を黨員とすべしと主張し、黨の一定の機關に屬し常に其の指導命令に服從して活動する者のみを黨員とすべしといふレニン等ボリシェヴィキの嚴格な解釋に反對した。當時メンシェヴィキの首領マルトフの說明に從へば、近く期待されるロシア革命の性質はどうしても小ブルジョア的性質を帶びるものであつて、それ故に小ブルジョア的な智識階級、敎授、大學生等を廣く黨員として把握せねば黨の發達はむづかしいといふにあつた。一九一七年革命と共にメンシェヴィキは社會革命黨と共に所謂ブルジョア臨時革命政府たる立憲民主黨(「カデット」——其項參照)との聯立政府に加入した。そのため後にボリシェヴィキが臨時政府を仆して政權を掌握した時には其の敵となつて鬪爭するに至つた。世界大戰中にメンシェヴィキは二つの思潮に分れた。一は祖國防衞派であつて、他は非戰論を唱へたメンシェヴィキ・インターナショナリストである。後者の思潮を率ゐた者はマルトフである。巴里において新聞「ナァシェ・スロォヴォ」(我等の言葉)を發刊し熱心に非戰論を提唱した。ボリシェヴィキが當時戰爭を革命に轉向することを說いたのに反對して此の一派は消極的非戰論と媾和論を力說した。一九一七年三月革命と共にメンシェヴィキ・インタナショナリストは他のメンシェヴィキよりもボリシェヴィキに近い政策をとり一時はボ派と合同の交涉が行はれ、又た新聞「ノォヴァヤ・ジーズニ」(新生活)を中心としてボ派と結合し、十一月革命に際してもマルトフは少數のインタナショナリストを率ゐてボ派の起した政變に參加し、一九一九年に此の一派はロシア共產黨に合一された。然しその中のマルトフ派は依然ロシア社會民主勞働黨(ボリシェヴィキは此の名稱を放棄してロシア共產黨に結成したから、それは自然メンシェヴィキだけの黨名となり今尙ほ殘つてゐる)に籍を有し、結局ロシア共產黨と衝突してメンシェヴィキ本部のあるベルリンへ去つた。

【メンシェヴィキ・インタナショナリスト】
メンシェヴィキ派中にあり大戰中インタナショナルの決議を遵奉しチンメルワルド大會に參加した者をいふ。三月革命後、或る問題ではボリシェヴィキを支持し、合同の交涉を行つた時代もあつたが、十一月革命後多くは反ボリシェヴィキ派となりロシア共產黨の結成に際しては此の派の僅かな部分が入黨し、他は外國へ亡命した。「メンシェヴィキ」及び「マルトフ」(人)參照。

【メンシェヴィキ積極派】
メンシェヴィキ派中の右翼、積極的にソヴェト政權と鬪爭し革命後の市民戰爭において反革命運動に加擔せる者をいふ。「メンシェヴィキ・アクティヴィスト、」といふ。

【メー・デー】
「五月一日祭」の項を見よ。

モ

【目標轉換派】(スメノヴェフツィ)
外國にある白派亡命者中の智識階級の間に起つた新らしい思潮。その名稱は、一九二一年プラーガ(チェック首都)で出版された此派の論文集「目標の轉換」「スメナ・ヴェフ」から來た。また同じ名稱をもつ雜誌を發刊し、その後ベルリンにおいて週刊機關紙「前夜」(ナ・カヌネ)またレニングラードにおいて雜誌「ロッシイヤ」を發刊す。此の一派は初めの反ソヴェト的態度を棄てゝロシアにおける現存政權を認め之と提携することを說くに至つたものである。此の一派の意見によればソヴェト政權の施行せる新經濟政策は取りも直さず共產主義から資本主義への轉換の第一歩を示すものである。此のボリシェヴィキの進化は論理的に古いブルジョア制度に還元しながら國家としてのロシアを强固にし外國に對する從屬關係を排擊するものであるから、ソヴェト政權に對する抗爭をやめ、そして國家事業にも參加し(ソヴェト官吏にもなる)ながらソヴェト國家を資本主義民主國家に改造することを促進しやうといふにある。此の思潮はソヴェト・ロシアの內部にも相當に多くのインテリゲンツィヤ的同情者をもつてゐる。

【モスクワ】
社會主義ソヴェト共和國聯邦(露略SSSR)及びロシア社聯・ソ・共和國(露・略RSFSR)の首都。十六世紀時代に建設されたロシアの古都、商工業の中心地、現在は共產黨インタナショナル執行委員會、赤色國際勞働組合本部の所在地、從つて世界革命運動と左翼國際勞働組合運動の中心地である。更にロシアにおける文學、美術、演劇等、藝術の中心地でもある。人口二百萬を越え、革命後は住宅の拂底になやみ最近郊外住宅地の發達膨脹はいちゞるしい。

ヤ

【ヤクーツカヤ社・ソ・自治共和國】
一九二二年五月十日舊ヤクーツカヤ縣の大部分を割いて組織された。三百萬平方露里の廣大なる領域に人口僅か三十萬人、多くヤクート人である。多くのツンドラ地帶を有す。帝制時代には政治犯人の流刑地として知らる。海岸及び河岸地方は漁業、その他の地方は牧畜、狩獵を專らとす。

【ヤクーツク悲劇】
一八八九年の冬ヤクーツク市に流されてゐた政治犯人を更に僻遠の地に轉送する命令が出た。厚寒の中を遠く徒步で送られるに着る物もない流刑囚たちは春まで延期を願つたが許されず、流刑囚は一ケ所に集まつて出發を肯んじなかつた。翌春三月二十一日流刑囚は何の宣告もなく十余名一塊まりに銃殺された。

【ヤチェイカ】
全聯邦共產黨の組織體中の最小單位。「コム・ヤチェイカ」ともいふ。邦譯にて「細胞」又は「班」。動植物の細胞から起れる名稱である。工場、製作場、××、××等の從業員の間に共產黨の××××××××××××するため活動することを任務とする。

ユ

【郵電人民委員部】
露・略「ナルコムポチテーリ」全聯邦内の郵便電信機關を統轄す。

【猶太人】
最も多く居住してゐるのはロシア、波蘭、北米合衆國、次でルーマニア、獨逸、その他殆んど世界の到る所に居住する。世界大戰後その發祥の地たるパレスチナに領土を與へられ建國したが新興國としての充分なる成績を示しては居ない。帝制時代のロシアでは猶太人は他の諸國におけるより苛酷に生活權利を制限されたが一九一七年革命後他の諸民族と同樣全然平等なる權利と共に解放された。世界における猶太人の分布は紐育猶太人協會最近の報告によると米國三百六十萬人、波蘭三百五十萬人、ロシア三百二十六萬人、亞細亞(小アジア西伯利を含む)三十八萬人、シリア(メソポタミア亞剌比を含む)十萬人、カナダ十二萬六千人パレスチナ猶太共和國十一萬五千人、アルゼンチン十一萬人計千百二十三萬五千余人である。

【猶太人虐殺】
「アンチ・セミチズム」の項を見よ。

ラ

【ライコム】
露語「ライオンヌイ・コンミッテット」。卽ち區委員會の略語。

【ライソヴェト】
露語「ライオンヌイ・ソヴェト」卽ち區ソヴェトの略語。

【ラコヴスキー大使召還事件】
駐佛ソヴェト大使ラコヴスキーが「帝國主義戰爭反對、ソヴェト聯邦や支那に對する進擊に際し帝國主義國の兵卒を革命化する」といふ共產黨インタナショナルの宣言に署名したといふので、フランス政府は、かゝる「好ましからざる人物」を大使として駐在せしむることは出來ぬと、其の召還をソヴェト政府に要求した。一九二七年十月一日の出來事である。交涉數次の後、ソヴェト政府はラコヴスキーを巴里から召還し駐日大使ドフガレフスキーを後任として派遣する事となつて事件は一段落をつげた。ジュネーヴに開催された國際聯盟軍縮委員會に出席したソヴェト全權リトヴィノフが十二月四日フランス全權ブリアンと會見の結果、ラコヴスキー事件に關する佛露兩國の誤解は既に一掃されたと共同聲明を發表した。

【ラーダ政府】
一九一七年革命の後キエフに於て組織された革命政府。ウクライナの獨立を主張し十一月革命後全露ソヴェト政權に對抗しブレスト媾和談判に際し獨立せる代表者を派遣し一九一八年二月獨逸政府との間にラーダ政府承認の條約を結ぶ。その後ウクライナ共產黨により顚覆されソヴェト政權に統一さる。ラーダはウクライナ語「會議」の意。

【ラッパロ條約】
一九二二年イタリーのラッパロに於て露獨間に締結された有名な條約、露獨間の經濟相互關係を設定す。一九二六年に締結された露獨中立條約はラッパロ條約の精神の延長なりとされる。

【ラトヴィア】
帝制ロシア領のクルランド縣及びリフランド縣の一部が一九一七年革命後に獨立してラトヴィヤ民主共和國を樹立した。一九一九年ラトヴィア勞働者は一度ソヴェト政權を樹立したが五ケ月にして仆れた。領域二萬四千四百四十平方哩、人口百八十八萬五千余、ラトイッシュ人、ロシア人、ユ

ダヤ人、獨逸人から成り多くは農を業とし、産業は大戰中獨逸軍の侵入により極度に破壞された。首都リガは人口二十八萬を有しバルチック海に面する商港である。

【ラボーチェエ・デーロ】
一八九九年より一九〇二年までクリチェフスキー、マルトゥイノフ等の編輯にて發行された「ロシア社會民主々義者同盟」の機關雜誌。「勞働者の事業」或は「勞働者の問題」の意。「經濟主義者」の觀點に立ちロシアの勞働運動を指導し、最初政府との積極的鬪爭を主張せるが「オブホフスキー防塞」（其項參照）事變の後「イスクラ」派、殊にレニンによつて日和見的態度を攻擊さる。レニンの「何を爲すべきか？」では此派との鬪爭が展開されてゐる。ロシア社會民主黨の第二大會までに此一派は解散した。

【ラボーチャヤ・ムイスリ】
社會民主黨中の「エコノミスト」（經濟派）の機關。「勞働者の思想」の意。一八九七年ペトログラードにて創刊、三號より外國に移され一九〇二年十六號まで續く。「經濟派」參照。

【ラボートニク】（働らく者）
一八九六——九九年まで外國において發行された「ロシア社會民主主義者同盟」の機關誌。プレハノフ、ペ・アクセロード、ヴェラ・ザスリッチ女史等が編輯した。

リ

【リーベル・ダン派】
メンシェヴィキ派の首領リーベル及びダンに統率された一派に對しデミヤン・ベドゥヌイが諷詩にうたつて二人の名を併せて（リーベルダン）と呼んで以來、一般にメンシェヴィキに對する嘲笑の意味で用ゐられた。

【リガ媾和條約】
一九二一年リガにおいて締結されたるソヴェト・ロシアと波蘭との媾和條約。之によりウクライナ、及び白ロシアの一部が波蘭に割讓された。

【リクヴィダートル】
「淸算派」を見よ。

【陸海軍人民委員部】
露・略「ナルコムヴォエンモール」。ソヴェト聯邦の陸海軍を統轄す。此の部の人民委員は革命軍事會議（露・略「レフヴォエンソヴェト」）の議長を兼ねる。同會議は屢々參謀本部と譯解されるが日本のそれとは稱や性質を異にする。例へば此の會議の權限は他の人民委員部における「コレギィヤ」即ち參議委員會にひとしく人民委員の統轄の下にある。海軍の直接指導は同會議の海軍部によつて統一される。總司令官は革命軍事會議の委員たり作戰行動における獨立權を與へられ、地方政權の軍務部を統轄する。

【利權政策】
ソヴェト・ロシアにおける利權問題は革命の直後に起つたが、外國資本に對する利權の提供がソヴェト政府によつて正式に聲明されたのは一九一九年一月列強のプリンス島會議（其の項參照）召集提議に對する回答に於てゞある。その後ゼノア會議、ヘーグ會議に於ても利權問題が提起されたが、之が實際に確定したのは一九二二年全露中央執行委員會の決定ありて以來である。之によれば利權の目的はソヴェト・ロシア經濟における生產力を發達させるために讓渡するものであつて、原則として外國資本がロシア國民經濟に脅威を齎らすことなきやう監督を行ふ權利を契約により保留する。利權讓渡に關する細目の審議を行ふための機關として聯邦の最高經濟會議に屬する中央利權委員會が設けられてある。

【立憲民主黨】
露語「コンスチトゥツョンナヤ・デモクラチーチェスカヤ・

メルチヤ」。略稱「カ・デ」黨といふ。また其の黨員を「カデット」と稱す。同黨は一九〇五年以來「國民自由黨」とも稱す。自由主義的傾向を有し、其の綱領とする所は立憲君主政體のもとに人民の自由權擴張を要求し、土地政策において貴族大地主の土地買上げを主張した。國會開設以來選擧毎にプルジョア階級の投票を得て常に國會の中堅をなす。一九一七年三月革命の直後、國會の多數を擁して臨時政府を組織し、其の首領ミリュコフは外相として戰爭繼續を友邦に誓つたが、後、勞兵會の擡頭と共にケレンスキー一派の社會黨に政權を譲り、ボリシェヴィキ革命と共に主なる黨員は亡命し外國に於て反ソヴェト運動を指導す。現在其の右派は帝制派と提携し、ミリュコフ一派の左派は社會革命黨と接近してソヴェト・ロシア內に反ソヴェト農民一揆を起しソヴェト政權の顚覆を目的としてゐる。他の一部は「目標轉換派」（其項參照）となり、ソヴェト政權を承認し、ソヴェト政權の漸次的右傾により自由主義共和國の到來を期待し、武裝反亂によるソヴェト政權顚覆に反對してゐる。「三月革命」「ミリュコフ」參照。

【臨時革命政府】

一九一七年三月革命と共にロシアに於て組織さる。社會黨よりは國會議員にしてペトログラド 勞働者ソヴェトの副議長たりしア・ケレンスキー入閣し司法大臣の椅子を占む。その後勞働者の要求により臨時革命政府は聯立內閣の組織を余儀なくされメンシェヴィキ及び社會革命黨の代表者を多數入閣せしむるに至る。「勝利の終局まで」戰爭の繼續を主張せる臨時革命政府の根本政策は各種の困難に逢着して遂に一九一七年十一月七日（露曆十月廿五日）ボリシェヴィキの政變によつて顚覆した。「三月革命」「十一月革命」「ケレンスキー」「レニン」參照。

ル

【ルースカヤ・ムイスリ】

一八八〇年代の初めより一九一七年革命までスラヴ主義の啓蒙團體の機關として發行された月刊雜誌。末期においてストゥルヴェが主宰し、一九二一年以來、外國において再刊さる。「ロシアの思想」の意。

【ルースキエ・ヴェドモスチ】

一八八〇年代の初めよりモスクワで發刊されたロシア智識階級の温和的自由主義團體の新聞。一九〇五年革命後、この團體は立憲民主黨に入る。

【ルースコエ・スローヴォ】（ロシアの聲）

非常に多くの讀者をもつた自由主義新聞、一九一八年までモスクワで發行。

【ルースコエ・ボガトストヴォ】（ロシアの富）

一八九〇年以來エヌ・ミハイロフスキー編輯のもとに發刊された人民派の月刊雜誌。一九〇四年ミハイロフスキーの死後、コロレンコ主宰す。一九〇六年コロレンコは其の編輯部員ミャコーチン、ペシェホノフ、等と國民社會黨を組織す。

【ルーチ】

一九一二年より同一四年まで公刊されてゐた「清算派」の機關紙、「光り」の意。

【ルーブリ】

ロシアにおける貨幣制度の一單位である。日本の一圓に近い。ルーブリとは「ルビーチ」、卽ち「切り取る」の語から起り、銀の切り取られたる部分「一と切れ」から來た。一八九七年以來金を本位として一ルーブリが定められたが一ルーブリ金貨は鑄造せず銀貨或は紙幣を以て代用された。ルーブリ紙幣は一九一四年世界大戰まで無制限に金貨と兌換された。戰爭と共に紙幣の價値が下落し兌換が制限され革命と共に舊帝制時代のルーブリ紙幣は流通を禁ぜられ、ソヴェト紙幣が發行された。一九二三年一月一日ソヴェト紙幣は百萬ルーブルを以て一金ルーブリに相當するものとして切替へを行つたが、尙ほ下落した。一九二二年十ルーブルを單位とする「チェルヴォネツ」（其項を見よ）が發行され更に硬貨（銀、銅）を以てする補助貨が鑄造され、一九二四年ソヴェト政府の幣制改革と共に舊ソヴェト紙幣を廢棄し、通貨の安定を見た。

【ルーマニア】
ソヴェト聯邦に接しバルカン半島にある立憲君主國、領域十二萬二千平方哩余（ベッサラヴィヤを含めて）人口千八百萬、ルーマニア人、マヂャール人、ブルガリヤ人、ドイツ人、ロシア人等より成る。首都ブカレストは人口三十五萬を有す。歐洲大戰後併合せるセミグラデ、ブコヴィン、ベッサラヴィアには自治制を布く。戰前までは舊式の農業國なりしが、上揭の諸地方を併合し鑛業、毛織物、麻織物等の工業發達し、また國内に石油坑を有す。

【ルーリ】
反ソヴェト新聞、一九二〇年よりベルリンにて發行、立憲民主黨亡命者團體の機關紙。

レ

【レヴォリュツョンナヤ・ロシア】
一九〇一年以來社會革命黨の機關新聞、初めトムスクとペテルブルグで發行され印刷所が政府により閉鎖されるや外國に移り一九一七年三月革命まで繼續し同黨の首領チェルノフが主宰した。ソヴェト政府樹立後ベルリンで今尙ほ續刊されてゐる。

【レーチ】
一九一七年まで立憲民主黨の機關としてミリュコフ主宰、現在ベルリンにおいて發行をつゞけ反ソヴェト新聞として有名。

【レナ勞働者射殺事件】
一九一二年四月十七日シベリアの北部バダイボ河流のレナ金鑛會社採鑛場の勞働者罷業に際し軍隊は事務所に押かけた勞働者に發砲し多數の勞働者を射撃した。之を動機とし各地の勞働者は憤然として起ち久しく靜穩の中にあつたロシア勞働者の政治運動は勃然として擡頭するに至つた。この故にロシア勞働運動史上の重要なる事件である。

【レニニズム】
「或る人々のいふ如く如何なる場合にもレニニズムをマルクス主義に對立させることは出來ない」と、スターリンはじめ全聯邦共産黨の指導者はいふ。此の意味に於てレニニズムは、帝國主義の段階、資本主義の矛盾が極度に尖鋭化し無産者××が勞働階級の前に××化されて來た資本主義社會の最新段階におけるマルクス主義である。レニニズムは何よりも先づマルクスエンゲルスの革命理論を目和見主義と修正主義から防護し、之を淨化するものである。從つてレニニズムはマルクスの生存中には尙ほ存在しなかつた現代の世界的資本主義の新段階から直接的に起れる各種の問題を革命的マルクス主義の精神において整理しマルクス主義たればヨリ豐富なものとし、更にロシアにおける三つの革命（一九〇五年、一九一七年三月、同十一月）と二十世紀初頭の各種の革命運動の經驗とによつてマルクス主義の眞精神を展開せるものである。レニンがマルクス主義を豐富ならしめ整理したといはれる問題のうちには次の如きものが加へられる。（一）帝國主義理論。――レニンは曾に帝國主義の經濟的本質に明確なる分析（帝國主義の經濟的本質は獨占資本主義であるといふ）を與へたばかりでなく、同時に帝

國主義の全段階が胎む矛盾の分析を與へた。帝國主義の全矛盾は三つの點に歸結される。第一は勞資間の矛盾である。資本的獨占の限りなき强盛は尋常なる議會手段を既に不充分なものたらしめ「帝國主義は勞働階級を××へと押しやる」（スターリン）ことになる。第二に、各種の金融團や帝國主義國間の矛盾は、「原料の資源と他國の領土獲得の鬪爭を起す」（スターリン）ことになり、此の情勢は帝國主義を相互的に脆弱ならしめ、××××××××へと引ずつて行く。第三に「支配的な文明國民の侵略と、世界の多數の植民地や保護國民の間の矛盾」があり「其の矛盾はそれ等の植民地や保護國をば帝國主義の掩護隊から無產者××××××へと轉向させる」（スターリン）ことになる。レニニズムによつて曝露された之等すべての矛盾は、明白に××の必要といふ一點に凝結されてゐる。かくてレニンの帝國主義理論は同時に××××の理論である。レニンは帝國主義を獨占的資本主義なりとし、利己的且つ腐敗的資本主義なりと斷定し、同時にそれを「無產者××××の前夜の、廢滅しつゝある資本主義」（レニン）の過渡的現象なりとしてゐる。（二）無產者革命の段階における農民の役割に關する理論。（三）無產者の革命鬪爭における民族問題の意義に關する理論、（四）無產者革命にとつての植民地及び半植民國における國民解放運動の意義に關する理論。（五）帝國主義戰爭の段階における無產者の戰術。（六）プロレタリア獨裁の理論。（七）資本主義より共產主義への轉換期におけるプロレタリア國家の理論。（八）無產者の革命鬪爭における無產政黨の役割に關する理論等である。レニニズムの世界的意義と役割及び其のマルクス主義との直接關係については、一九二五年、共產インタナショナル執行委員會擴大委員會は、次のやうな言葉で之を特徵づけてゐる。曰く「マルクスなくしてはレニンなし。然しながら第二インタナショナル幹部がマルクス主義の名で爲したる行動以來、カウツキー一派がマルクスの旗幟のもとに作りあげたるマルクス主義の「修正」以來……レニニズムなしには革命的マルクス主義は有り得ずと言はざるを得ない。……十九世紀の偉大なる無產者運動（チヤーチズム、巴里コンミュン）のマルクス的評價なば日和見主義（その後に起れる）の俗化より淨化し、之に歐米その他世界各國の成長しつゝある新らしき大衆的無產者運動の經驗に對するマルクス主義的評價を添加し、二十世紀の初頭以來特殊の力と共に自己を表示せる農民運動と國民革命運動の偉大なる意義を正しく考慮したレニンは之によつてマ

ルクスの學說を新らしき高度に押しあげた」云々。

レニニズムに關するロシア語の文獻中の代表的なものは

イ・スターリン著「レニン及びレニニズム」「レニニズムの諸問題」

ヴ・アドラトスキー著「レニニズムの理論と實踐」

ゲ・バンメリ著「レニンと革命理論」

論文集「レニン主義擁護」

ペ・ケルジェンツェフ著「レニニズム」

イ・ルツボル著「レニンと哲學」

その他デボーリンのレニンの辯證法に關する數種の論文あり。レニンの重要著作に就ては「レニン」（第二部）を見よ。

【レニングラード】

一九二四年レニンの死後其名を紀念するためペトログラドを改稱した。帝制ロシアの首都にしてロシア社・聯・ソ共和國北部の最大都市、ソヴェト聯邦中モスクワに次ぐ大都市。戰前の人口約二百萬、大戰中三百萬に增加したが、革命中經濟的破壞に逢ひ、ソヴェト政府がモスクワに移轉して以來人口は一時五十萬人に激減した。その後經濟復興と共に現在の人口百二十萬人まで恢復した。大規模な生產工場多く殊に金屬工業の中心地である。レニングラド港は外國貿易の中心をなす。ピョトル大帝以來ロマノフ朝三百年の首都として學術、美術、建築の見るべきものが多い。

【レフコム】

露語「レヴォリュツォンヌイ・コンミッテット」卽ち「革命委員會」の略語。戰時共產主義時代（一九一八年—一九二〇年）に各地に組織されてゐた革命政權機關。

【聯邦ソヴェト大會】

「ソヴェト大會」を見よ。

【聯邦中央執行委員會】

聯邦ソヴェト大會により選擧され、大會の開期と開期の間に於て大會の權力を代表し、大會に對し責任を有する聯邦の最高政治機關である。たゞ聯邦憲法の改廢權のみは一に大會だけに屬する。聯邦中央執行委員會は法律、律令、布告、命令を發し、立法、行政を統轄し、其の選任せる執行委員會幹部會（プレシヂウム）及び人民委員會議（ソヴナルコム）の政務の輪廓を決定する。聯邦中央執行委員會の發布せる各種の法令は、聯邦內各政治機關が服從履行の義務を負ふ。同時に聯邦中央執行委員會は其の幹部會並に聯邦加盟各共和國のソヴェト大會及其の中央執行委員會など聯邦內の各政權機關が發布せる法律、布告、命令を停止し又

は廢止するの權利を有す。聯邦憲法の定むる所によれば聯邦中央執行委員會は二つの會議、卽ち聯邦會議（下院に均し）及び聯邦民族會議（上院に均し）より成る。聯邦會議は聯邦加盟の各共和國の人口に比例して選出される聯邦ソヴェト大會の代表者の會議であり、民族會議は聯邦加盟の各共和國及び其の共和國に屬する各自治共和國（例へばロシア社・聯・ソ共和國内にある多くの自治共和國、またアゼルバイジャン、アルメニア、グルジヤ等の後高架索社・聯ソ・共和國内の自治共和國を含む）より各五名つゝ及び各自治州より一名つゝの割合にて選出さるゝ代表者より成る。但し民族會議の代表者は聯邦ソヴェト大會の確認を經ることを要する。かくて此の二つの會議は共にソヴェト大會により選まれたると同樣の形式となり、等しくソヴェト大會に對し責任を有する。「ソヴェト大會」參照。

【聯邦中央執行委員會幹部會】

ソヴェト聯邦の憲法によれば聯邦ソヴェト大會の閉會中は國家の全政權は聯邦中央執行委員會にあり、また聯邦中央執行委員會の會期と會期の間においては、政權は中央執行委員會幹部會の手にある。幹部會は中央執行委員會と同樣に法令律令を發布し、また人民委員會議及び聯邦機關中の個々の人民委員部、更に聯邦加盟共和國の中央執行委員會から提案される法令律令を確認するの權利をもつ。然しながら聯邦の政治經濟生活の一般的規準を變改し或は現存國家機關の構成に對し變更を與ふるが如き問題は中央執行委員會總會の確認を要する。聯邦會議並に聯邦民族會議は中央執行委員會の事業を指導するため各九名づゝより成る兩會議の幹部會を選出し此の二つの幹部會の成員は其のまゝ中央執行委員會幹部會に入る。中央執行委員會幹部會の成員は總數廿七名より成り、其うち十八名は上述の聯邦會議と聯邦民族會議より選出されたる各九名づゝの幹部會員を以て充て、他の九名は聯邦會議及び聯邦民族會議の兩者聯合會議にて選出する。また中央執行委員會の議長は加盟共和國の數（現在共和國）だけを聯合總會にて幹部會員中より選む。

【勞働及防衛會議】

「人民委員會議」を見よ。

【勞働階級解放鬪爭同盟】

簡略して單に「鬪爭同盟」卽ち露語「ソユズ・ボリブイ」ともいふ。一八九〇年代の後半、ロシアにおける初期の社會民主々義者の小團體（レニン派マルトフ派等）の聯合により結成されプレハノフ等の在外「勞働解放」團と共に後のロシア社會民主勞働黨の基石となつた。同盟はロシアの數個の工業地で結成された。一八九六年ペテルブルグ、同年モスクワ竝九七年ハリコフといふ風に組織された。其頃結成された「波蘭及リソアニア全猶太人勞働者同盟」卽ち「ブンド」や「在外ロシア社會民主々義者同盟」（その中には「勞働解放團」も加盟してゐた）と連絡し、一八九八年ミンスクに大會を召集しロシア社會民主勞働黨の組織を見た。一九〇三年以來レニン派がボリシェヴィキとなり、マルトフ派、更にプレハノフ派がメンシェヴィキとなつた事は人の知る所である。

【勞働解放團】

ロシア革命家の古い形態人民派の見解から離れて外國において組織された最初のマルクス主義的ロシア革命團體にしてロシア社會民主勞働黨の基礎となる。一八八三年蒼チヨルヌイ・ペレデリツイ（土地改革派）中の革命運動家プレハノフ、ディチ、ザスリッチ、アクセリロード、イグナトフ等により組織さる。此の團體のマルクス主義的傾向はプレハノフの小册子「社會主義と政治鬪爭」の中で初めて表現された。小册子のうちでプレハノフは人民派の陰謀主義を猛烈に攻撃し「未來のロシア勞働者社會黨結成の要素を作る」ことを任務とした。又た其の後プレハノフは「我等の意見の相異」のうちで人民派の「ロシアにおける特殊の經濟的發達」に對する曲解を攻撃し、資本主義の發達がロシアに於ても不可避なることを力說した。此の二つの小册子における主意は一八八五年の「ロシア社會民主黨の綱領案」の骨子となつた。然し此の綱領に於ても同團は尙ほ全然人民派の見解と絶緣することが出來なかつた。蓋し其處では尙ほロシア革命におけるインテリゲンツィヤの役目を第一義的に過大評價し、專制政府との鬪爭にテロルの必要を認めてゐた。一八八八年「綱領案」の第二版は科學的社會主義の精神に則して相當な改訂が行はれた。同團は一八九〇年から雜誌「社

會民主々義」を發刊（四號まで）し、ロシア勞働者のために各種通俗小册子を出版した。一八九五年外國において「ロシア社會民主々義者同盟」が組織され、「勞働解放」團は之に入つて同盟のすべての出版物の編輯に當つた。一八九〇年代の末に至つて「在外ロシア民主々義者同盟」の多くの團員は所謂ゆる「經濟主義」（其項參照）の見解に立ち勞働階級の政治鬪爭に反對するやうになつた。「勞働解放」團は之に反對し一八九八年の「民主々義者同盟」大會に於て之を脫退し、翌一八九九年プレハノフは小册子「手引」において「經濟主義」に徹底的批判を與へ「經濟主義」は勞働者をブルジョア階級の奴隷たらしめるものだと指摘した。同盟を脫退せる「勞働解放」團は新たに社會民主黨を創建し、一九〇〇年の末に流刑地より歸れる「ペテルブルグ勞働階級解放鬪爭同盟」の幹部レニン、マルトフ、ポトレソフ等と共に新聞「イスクラ」（火花）及び雜誌「ザリヤ」（曉光）を發刊した。一九〇二年「勞働解放」團と「社會民主々義者同盟」は「革命的ロシア社會民主派聯盟」に改造され、「イスクラ」及「ザリヤ」其他を出版してロシアに密送し、資金の援助を之に與へてロシア社會民主勞働黨の結成に盡力し其の第二回大會において同團の解散を宣言した。卽ち「勞働解放」團はロシア社會民主勞働黨の母體であつたといふ點でロシア革命運動史上に重要な意義をもつものである。「レニン」、「プレハノフ」、「全聯邦共產黨」參照。

【勞働宮殿】

「ドゥヴォレツ・トゥルダー」といひ、最大の中心はモスクヮにある。此の建物內には赤色國際勞働組合（プロフインテルン）全聯邦勞働組合中央評議會、及び各勞働組合の中央委員會がある。モスクヮに倣つて聯邦各地方の勞働組合支部聯合評議會のおかれる建物を矢張り「勞働宮殿」と呼んでゐる。革命前までは此の種の建物を「人民の家」（ナロドヌイ・ドム）と呼んでゐた。

【勞働組合運動】

こゝにはロシアにおける勞働組合運動だけを記す。ロシア勞働組合運動の起りは既に一八二〇年に端を發してゐる然し此の時代には產業の未發達と農奴制の存在により自由を得てゐた勞働者の數が極めて少なく、加ふるに政府の壓迫が激しかつた爲大なる發達の可能性がなかつた。一八七〇年代から同九〇年代にかけて屢々勃發した各種の大罷業は、罷業委員會の結成を促がし之が近代的な勞働組合の組織の下準備となり、常に革命的傾向をもつてゐた。一九〇五

年第一革命當時組合運動は明らかに二つの傾向に分裂し純經濟運動を基調とする清算派と稱せられるメンシェヴィキ溫和派の思潮が大勢を支配し、之に對立した革命主義的なボリシェヴィキ派の思潮はセクト（異端派）扱ひをうけた。兩者の意見の相違は、勞働組合を、勞働條件及び勞働者の境遇改善のための手段とするか（前者）、或は社會主義實現のための鬪爭手段とするか（後者）によつて分れた。言ひかへれば勞働組合運動を經濟問題の範圍に局限するか乃至は廣く一般に政治問題の把握にまで展開させるかといふ意見の相違である。一九一七年三月革命の起つた當時はロシア勞働組合の支配的勢力は前者に屬するメンシェヴィキ及び社會革命黨の掌中にあつてボリシェヴィキは僅かに一二の組合（例へば金屬工組合）で多數を得てゐたに過ぎなかつた。然るに一九一七年六月にペトログラドで召集された第三回全露勞働組合會議では出席代議員の半數に近いものがボリシェヴィキ派になつた。之は主としてメンシェヴィキと社會革命黨がブルジョア政黨と提携し對獨戰爭を繼續する政策に傾いてゐる事が判つて來た結果である。ボリシェヴィキの政權獲得の直後に開かれた一九一八年一月の第一回全露勞働組合大會では既にボリシェヴィキは壓倒的勢力を得た。同大會代議員中「メ」派の六六名に對し「ボ」派は二七三名であつた。第二回大會では「メ」は二九名「ボ」は三七四名。第三回大會——「ボ」の一、一八〇名に對し「メ」は五七名。第四回大會——共產黨員（ボリシェヴィキ）二、五一〇名、無所屬勞働者五五五名、メンシェヴィキ一六名、無政府主義者一〇名、第五回大會には「メ」派の代議員僅かに二名、並に全露組合大會の成員は唯一の共產黨と、それに指導さるゝ無所屬代議員といふ形になつた。現在ソヴェト・ロシアの勞働組合は產業聯合の原則によつて組織され全ロシアを通じて二十三の產業別組合がある。組合の事業は統一計畫により聯邦大會の決定に基き中央評議會が之を實行する。其の仕事は次の部門に分科して行はれる。

（一）賃銀問題。組合は企業との間に團體契約を締結し之によつて組合員雇傭の標準を定め勞働賃銀を決定する。

（二）經濟問題。組合はソヴェト共和國のあらゆる經濟上の指導計畫機關に參加し、各種の企業と生產機關指導者の候補者の推薦をする。

（三）組織問題。組合員の募狀を援ける機關を設け宣傳により一般大衆を組合に誘引し互助基金の積立を行ふ。

（四）勞働保護問題。組合員に對する勞働契約が滿足に履

行されてゐるか、病傷の治療が完全に與へられてゐるか、勞働者の住宅が保障されてゐるか等を監視する。

(五)文化問題。組合員に對して敎化的慰安と休養を與へる。(例へばクラブ、團體修學旅行、演劇團の組織等)

一九一七年より同二十六年に至る全露勞働組合員の數を表示すれば(中央統計院の調査による—單位千人)

一七年	六九三	二二年	六、七四〇
一八年	一、九四六	二三年	四、五七七
一九年	三、七〇六	二四年	五、六二一
二〇年	五、二二二	二五年	六、六〇四
二一年	八、四一八	二六年	九、五四一

一九一七年革命後に組合員の激增を示したのは自然である。その後一九二一年以後において一時的減少を示したのは新經濟政策により現物配給制度が廢され同時に國營產業が自營制度となり各方面の從業員の整理が行はれた結果である。而して其後の漸次的或は急激的な組合員の增加は、新經濟政策乃至は新々經濟政策の結果として產業の恢復その他一般事業の擴張のテンポを反映するものである。組合に包括される成員は單に筋肉的勞働者のみではない。次に職業別組合の名稱を示す。(一)農林事業從業員、(二)製紙、(三)鑛山、(四)木工、(五)皮革、(六)金屬、(七)印刷、(八)食料品(九)砂糖、(一〇)建築、(一一)織物、(一二)化學、(一三)裁縫、(一四)水運、(一五)鐵道、(一六)地方的運輸、(一七)郵電(一八)藝術、(一九)醫療衞生、(二〇)敎育、(二一)ソヴェト吏員、(二二)地方自治體勤務員、(二三)其他。

【勞働組合縣支部】

縣內の全勞働組合を指導する。勞働組合縣大會において其の縣內の全組合を統一指導し聯邦勞働組合中央評議會の指揮によつて行動する。「全聯邦勞働組合中央評議會」參照。

【勞働組合問題論爭】

ロシア共產黨(現時全聯邦共產黨)の內部における勞働組合問題に關する論爭は一九二一年の初頭に起り、第十回黨大會が決議を以て其の終結を宣するまで三ケ月間に亘つて繼續した。論爭發生の原因は新經濟政策當時における革命の危機の直接的反映として起つた勞働組合內の動搖にある。論爭の初めには勞働組合問題に對する各種の思潮は凡て九つに分れてゐたが漸次に三つの思潮となつた。第一はトロツキーの方針であつて之にはブハーリン、ゼルジンスキー、プレオブラジェンスキー等が同意した。それによれば勞働組合を生產機關に直接結びつけ組合を强制的に國家機關化すべしとする。第二シリャプニコフを首腦とする「勞働者反對派」の方針であつて、それによれば「生產者大會」なるものを經て全產業機關を勞働組合の手に移讓せよといふにある。第三は「十人案」(レニン、ジノヴィエフ、スターリン、カメネフ、トムスキー、ルズタク、カリニン、ロゾフスキー、ペトロフスキー、アルテョム)に表現されたもので、それによればトロツキー案は既に戰時共產制度の撤廢されたる時代において農民の要求を解せず、依然戰時共產主義を固執するものであり、シリャプニコフ案はサンヂカリズム的傾向を表現するものとす。勞働組合內の危機は一般國內に存在する經濟生活の危機であるが故に勞働組合の組織機構は任意的會員制度を根本原則として國家、生產、勞働組合を交互自由關係におくべしとした。第十回共產黨大會は十人案三百三十六票、トロツキー案五十票勞働者反對派案十八票を以て十人案を採決し、現在の勞働組合制度を確立した。

【勞働者アルテル】

同職者が共同して仕事をする爲に個々の人々が自發的に團結して働く。現ソヴェト・ロシアには普通勞働者アルテルの形式は二つある。(一)仕事の請負又は賃銀契約により雇はれ共同契約のもとに働く者。(二)獨立した生產者が其の生產品を統一的に市場に賣捌く爲アルテルを組織するもの。

【勞働者クラブ】

ソヴェト・ロシアでは文化生活、獨習、休養を目的とし勞働者及び官公吏のためのクラブが到る所に組織される。クラブは各企業や官廳や軍隊の中にもあり、又た一定區域の勞働組合員のために設けられたものもある。クラブの事業として(一)勞働者の文化的政治的水準を向上させる宣傳敎化(講演會、談話會、討論會等)(二)クラブ員の才能發揮のため(演劇、文藝、音樂、將棋、運動其他)の集會(三)善良なる娛樂休養のため劇の上演、音樂會、競技會等を催す。又クラブの重要なる仕事の一つはレニン室、無神論者室、少年室の設置である。之等の各室には夫々の問題に關する資料、繪畫等をあつめ青少年に共產主義的敎化修養を與へることを任務とする。クラブは必らず簡易圖書館を有する。クラブの維持費は會員の會費と企業或は勞働組合の支出とによる。

【勞働者社會保險】

「國營勞働者社會保險部」を見よ。

【勞働者代議員ソヴェト】

最初一九〇五年のロシア第一革命當時織物工業地イヴノヴォ・ヴォズネセンスクに於て組織される。次で同年十月總罷業

に際しペテルブルグにも組織された。間もなく同年十二月ソヴェトの執行委員會は全部檢擧された。一九一七年革命と共に組織されたソヴェトの濫觴である。露語「ソヴェト」は「評議會」「協議會」「會議」等の意である。動詞「ソヴェトワチ」は「相談する」「勸告する」等を意味する。「ソヴェト大會」參照。

【勞働者通信員】 露語「ラボーチー・コルレスポンデント」を略し「ラブコル」といふ。ソヴェト新聞は産業に從事する勞働者を通信員とし、各産業機關内に通信網を張つてゐる。全聯邦内に「ラブコル」の數は二十萬人以上、細大となく勞働者の生活を通信する。之により共産黨は勞働者の間における氣分や要求を汲み取るのである。「プラヴダ」編輯部は毎年モスクワに「ラブコル」大會を召集する。

【勞働者反對派】 （ラボーチャヤ・オッポザーツィヤ）一九二一年ロシア共産黨内の勞働組合問題論爭と共に發生した團體、シリャプニコフ、コロンタイ女史、メドヴェデフ等を首領としレニン等多數派の勞働組合政策並に新經濟政策案に反對し全産業を勞働組合の管理に移すべしと主張した。此の一派は當時ブハリン等の左翼共産黨やトロツキー派と提携してレニン派に對立しブハリン等がレニン派に屈服し、第十回共産黨大會は黨内に分派を許さざる決議をなし、シリャプニコフ、コロンタイ等を中央委員の椅子から追ひ此の一派の傾向をアナルコ・サンヂカリスト的なりと排擊して後も依然トロツキー派と共に反對運動をつゞけ一部勞働者の間に勢力をもつてゐた。更に一九二六年に入るやジノヴィエフ等の新反對派（其項を見よ）とも提携した。一九二七年十二月の全聯邦共産黨大會ではトロツキー派、新反對派と共に勞働者反對派の指導者も黨籍から除名された。

【勞働者豫備校】 露語「ラボーチー・ファクテト」を略し「ラブファク」といふ。勞働者に對し專門學校或は大學に入學せしむるための豫備教育を施こす學校。

【勞働人民委員部】 露略「ナルコムトゥルド」全國民の勞働能力と專門的技術の力とを考査し、國内のあらゆる部門の經營に對して勞働力の供給を統一的に計畫し國法に準じて勞働の保護を行ひ、勤勞階級のための社會保險と保健衞生並に工場施設の監督をなし、また勞銀の規準な管理するなどが此の人民委員部の任務である。しかして勞

働人民委員部はすべての原則的問題の決定に際して全聯邦勞働組合中央評議會と協定をする。此の人民委員部の機構のうちには賃銀審判部、協調審判部、中立審判部等があり雇傭者と被傭者間の爭議に對し仲裁と豫備裁判を行ふ事となつてゐる。

【勞働賃銀鐵則】 ラッサールは勞働賃銀は常に勞働者の消費の「本質的最少限」に近い所を上下するといふ說を立て、斯く名づけた。勞働賃銀鐵則はマルクスの絕對的に排擊する所となつた。「ゴータ綱領」參照。

【勞働被搾取民の權利宣言】 フランス革命の「人權宣言」に對比さるるソヴェト政權樹立と共に最初に發せられた宣言にして、一九一八年一月の第三回全露ソヴェト大會で確認された。宣言の要旨は其の後ソヴェト共和國憲法の中に體現さるゝに至つた。全勞働階級の完全平等なる權利を宣明せるものである。「ロシア・社・聯・ソ・共和國憲法」參照。

【勞農監督人民委員部】 勞働者及び農民を直接參加せしめた社會的監督の統一機關であつて、有ゆる國家の官廳及び企業經營に對し監査の權利を有する。此の人民委員部の任務は次の如きものである。ソヴェト政權の法令律令が正當且つ有效に適用されて居るか否かの監視、國家機關により遂行されたる事業の監査、國財の管理が適正に行はれてゐるや否やの檢査、各官廳の官僚主義や繁文褥禮の排除と人民のあらゆる種類の訴願に對し正しき解決の促進等である。此の任務を遂行するため勞農人民委員部は金錢出納、物品の取引、生産等に對する不時檢査の權を與へられ、また國家に對し物質的損害を與ふるごとき個人又は官廳の命令を停止し、重大なる失策に對して責任者を罷免或は之を裁判に附することを要求する權利をも與へられてゐる。ロシア共産黨第十二回大會（一九二三年）の決議に基き勞農監督人民委員部は共産黨中央統制（監督）委員會と連絡を保ち、國家機關の改善を計ることを主要任務とする事になつてゐる。「圖解」參照。

【勞兵會議】 「ペトログラード勞兵會議」を見よ。

【ロカルノ條約】 一九二五年十月十六日瑞西ロカルノに於て獨、佛、白、英、伊の五ヶ國により締結され同年十二月一日ロンドンに

おいて確認された保障條約である。此の條約によれば締約國はヴェルサイユ條約により決定された獨白、獨佛の境界を保障し双方とも戰爭的手段を避け平和的に爭議解決の方法を講ずる事を約束した。此の條約によりドイツの國際聯盟加盟が豫定され、また之と共に獨佛白間に各種の協約が締結された。

【六月十八日大示威】

一九一七年六月、ペトログラド勞兵階級が人民の期待に反し戰爭を繼續せる臨時政府に憤激して起つや、ボリシェヴィキは「資本家大臣を××せよ、全政權をソヴェトへ…」の標語の下に六月一日に大示威運動を行はんと首唱せるが政府に入閣し且つ第一回ソヴェト大會で多數を制せるメンシェヴィキ及び社會革命黨は之を六月十八日に延期せんことを主張し、ボリシェヴィキは之に同意した。此の六月十八日の大示威には四十萬人の勞働者と××が參加し、行列の旗印は七八割までボリシェヴィキ中央委員會の標語「全政權をソヴェトへ！」を掲げた。この日ケレンスキーは軍隊を獨逸戰線へ進擊せしめたが、××××××を欲せず×××に動搖起り反つて臨時政府の政策行詰りの原因となる。それ以來ボリシェヴィズムは戰線において非常な勢ひで傳播した。故に六月十八日はロシア革命史における偉大なる轉換の日とされてゐる。「七月政變」、「臨時政府」參照。

【ロザンヌ會議】

一九二二年十一月廿一日から翌二三年二月までトルコがギリシヤに戰勝した後始末をつけるため瑞西のロザンヌで召集された。ソヴェト代表も之に參加しトルコ代表と共に外國軍艦に對しダーダネルス海峽の封鎖卽ち列國の軍艦が勝手に海峽を通過して黑海に入ることを禁止せんことを要求した。之に對しイギリスはフランス、イタリーと共にダ海峽ボスフォラス海峽、並に黑海に對する艦船の自由通過を主張した。その他經濟問題に於ても列國(主として英國)はトルコに對して種々なる要求を提出し、トルコ代表は列國の要求はトルコの主權を侵害するものなりとの立場から頑強に之を拒絶し、第一回のロザンヌ會議は決裂した。次で第二回ロザンヌ會議再開により同年三月廿八日トルコと列國との間に平和條約が締結されトルコは海峽問題で讓歩し、其の代りにセーヴル條約でトルコが割取されたヨーロッパ土耳古の領土返還をうけた。此の會議中ソヴェト全權代表であつた駐伊全權ヴォロフスキーはロシア帝制派のコンラヂのため暗殺され、瑞西裁判所が犯人を無罪とせることに

嫌らすソヴェト・ロシアは瑞西と一切の國交を斷絶し爾來同國内に開かるゝ一切の會議に出席することを拒絶したが一九二七年に至つて此の問題に關する露瑞兩國の關係は整理された。

【ロシア革命運動】

(一)十七・八世紀の農民一揆時代、イワン・ボロトニクの亂、ステパン・ラヂンの亂、プガチョフの亂等、いづれも地方貴族に對する農民の一揆反亂。(二)十二月黨一揆、一八二五年十二月十四日に起る。多くは貴族將校を黨員としフランス大革命後のヨーロッパ革命運動の影響をうけ既に社會主義的プログラムを有した。(三)一八三・四十年代、ロシア智識階級の間における革命運動の黎明期ゲルツェン、バクーニン、ペトラシェフ派等の革命團體起る。(四)一八六〇年代、自由主義運動の擡頭、農奴解放、大學生の間における革命運動始まる。ドブロリュボフ、ゲルツェン等の影響、シェルグノフ、チェルヌイシェフスキーの檄出づ。土地と自由派の結成、カラコゾフ、ネチャエフ等のテロリスト出現(五)一八七〇年代、バクニンの無政府主義ラウロフ、チャイコフスキー、ドルグーシン等の團體發生、人民主義「人民の中へ」の思想による農民啓蒙運動起る。人民の意志派の結成時代(六)一八八〇年代、人民の意志派内部のプログラムに對する理論鬪爭、テロル派とプレハノフ等大衆運動主義者の分裂、プレハノフの「土地改革派(チョルヌイ・ペレデリツイ)組織、空想社會主義の出現(七)一八八〇年代の後期における勞働階級の擡頭、プレハノフ等の亡命とマルクス主義への轉向、「勞働解放」團の結成、ロシア社會民主黨の萌芽時代(八)一八九〇年代、ロシアにおける資本主義的產業の發達、革命運動の陣營内における分解と整理の行はれたる時代、ロシアにおけるマルクス主義の勃興時代、レニンの登場、マルクス主義と人民主義の理論鬪爭時代、ロシア社會民主勞働黨の結成、マルクス主義者の間における「經濟主義」の發生(九)一九〇〇年代の初期產業恐慌と勞働者罷業の頻發、農民運動、學生運動の勃興人民派の社會革命黨への結成、自由民主々義運動の擡頭と立憲民主黨の誕生、ロシア社會民主黨のボリシェヴィキとメンシェヴィキへの分裂。それ以後、一九〇五年革命、三月革命、十一月革命等は何れも其項に詳し。

【ロシア共產黨】

「全聯邦共產黨」を見よ。

【ロシア共產黨綱領】

「全聯邦共産黨綱領」を見よ。

【ロシア藝術院】

文學、美術、音樂等の仕事にたづさわる人々の學術的統一をはかる目的で一九二一年モスクワに創立、雜誌「イスクーストヴォ」(藝術)を刊行す。

【ロシア社・聯・ソ・共和國】

略稱「RSFSR」一九一七年十一月七日(露曆十月廿五日)の革命により建設さる。國内の經濟狀態は其の住民の八割が農民であることにより農業國としての形態をもつ。資本主義形態を有する大規模産業が始められたのは十九世紀の中葉以來である。一九二二年十二月の聯邦條約によりソヴエト聯邦加盟共和國の一となり其の盟主となる。四十五の縣、三つの州、十の自治共和國、九の自治州より成る。即ちアルタイ、アムール、アルハンゲリ、アストラハン、ブリヤン、ウラヂミル、ヴォログダ、ヴャトカ、ゴメリ、グロズニ、エニセイ、ザバイカリ、イワノヴォ・ヴォズネセンスク、イルクツク、カルグ、カムチャトカ、カストロム、クール、レニングラド、モスクワ、ムーロム、ニジェゴロド、ノヴゴロド、オムスク、オルロフ、ペンザ、プリモール、プスコフ、リヤザン、サマラ、サラトフ、セヴエロ・ドゥヴィン、スモレンスク、スタフロポリ、スタリングラド、タンボフ、トゥヴェリ、テル、トムスク、トゥラ、ウリヤノフ、チェレボウェツ、ヤロスラフの諸縣、及びドン、クバノ・チョルノモル、ウラルの三州、並にバシキール、タタール、カザーク、ダゲスタン、カレリ、クルイム、獨逸人ヴォルガ・コンミユン(ドイツ移民領)ヤクシ(以上ヨーロッパ・ロシアに在り)ブリヤト・モンゴル、ヤクート(アジア・ロシア)の諸自治共和國、またヴォツト、コミ・ズイリヤン、カルムイク、マリー、アドゥイゲスタン、カバルヂノ・バルカル、カラチエオ・チェルケス(ヨーロッパ・ロシアにあり)オイラト、キルギスの諸自治州。これ等を包括するを以てロシヤ社會主義聯邦ソヴエト共和國と稱する。

【ロシア社・聯・ソ・共和國の憲法】

一九一八年に發布されたる「勞働被搾取民の權利宣言」の大要に曰く(イ)土地私有權を撤廢、全土地、および同家的意義を有する森林、地下埋藏物、水利、また同樣に總ての靜的及動的要具は一般國民の共有たること(ロ)總ての土地を何等の買取金なしに土地利用の規模に從ひ、勤勞民に提供し、模範農場と農業企業とを一般國民の所有とする土地の社會化(國有)を行ふ(ハ)搾取者に對して勤勞者の權力を保障するため法律により漸次に工場、製作所、鑛山、鐵道其他の生産手段、運輸機關の私有を勞農共和國の所有に移す(ニ)國際的金融資本を打破するため有ゆるロシアの銀行を國有化し、舊政府が結締せるすべての公債を破棄す(ホ)全體的義務勞役の履行により社會の寄生者層(即ち他人の勞働により生活する者)を絕滅する。蓋し勞農政府のスローガンは「働かざる者は喰ふべからず」と言へるが故である。——此の宣言はロシア社・聯・ソ・共和國憲法の骨子をなすものである。憲法は最初一九一八年に制定され、次で一九二五年五月に根本精神を變へることなく改訂された。

【ロシア社會民主勞働黨】

「全聯邦共産黨」「メンシェヴィキ」を見よ。

【ロシア社會民主勞働黨の宣言】

一八九八年の第一回黨大會により決議された。宣言の起草者は當時マルクス主義者であつたペ・ストゥルヴェである。「全聯邦共産黨」參照。

【ロシア諸民族の權利宣言】

一九一七年十一月十五日人民委員會議により發布さる。その宣言の大要は(一)ロシア領土内の諸民族は無條件的に分離獨立の自決權を保障される(二)あらゆる民族的及び宗教的特權と制限を撤廢する(三)あらゆる少數民族の言語、並にそれ等民族の集團の自由(彼等の國家の形成における)を支持する等である。現在のソヴエト聯邦において、各種の共和國或は民族的自治共和國自治州が組織されてゐるのは、此の民族自決の權利に基いたものである。またソヴエト聯邦の加盟各共和國が自發的加盟の原則のもとに立ち脫退の自由が憲法の上で保障されてゐるのも此の宣言の精神によるものである。

【ロシア正式承認】

ソヴエト政府は一九一七年革命以來數年間に亘つて外交的孤立をつゞけて來た。其の間、英、佛、米、伊、日、チェツク等の諸國はロシア白衞軍と歩調を合せてソヴエト政權に對し武力干渉を試みた。此の武力干渉は一九二二年日本軍の沿海州、北樺太撤退を最後として終局を告げた。一九二四年以後、(其以前にも二三の國は承認した)各國相次いでソヴエト・ロシアを正式承認し之と外交關係を設定した。國名と承認の時期は次の如くである。但し英國は一九二七年五月廿六日承認を取消しロシアと斷交した。

國名	承認年月日
エストニア	一九二〇・二・二

フインランド	一九二〇・一〇・一四
トルコ	一九二一・一・六
ペルシヤ	一九二一・二・二六
アフガニスタン	一九二一・二・二八
ポーランド	一九二一・三・一八
ドイツ	一九二二・四・一六
英國	一九二四・二・一
イタリー	一九二四・二・七
ノールウエー	一九二四・二・一六
オーストリー	一九二四・二・二〇
ギリシヤ	一九二四・三・八
スエーデン	一九二四・三・一五
支那	一九二四・五・三〇
デンマーク	一九二四・六・一八
メキシコ	一九二四・八・四
フランス	一九二四・一〇・二八
日本	一九二五・一・二一
リソアニア	一九二五・六・一二
ラトヴイア	一九二五・九・一一
ウルグワイ	一九二六・八・二四

右の如くであるが世界の大國中で米國だけは一九二八年に至るもソヴェト・ロシアを承認してゐない。一九二三年米國々務卿ヒューズはロシア承認の條件として(一)生命財産の安全保障(二)契約の神聖と勞働の自由の保障等をあげ、ソヴェト・ロシアが米國の承認を欲するなら先づ國際的義務を履行せねばならぬと說いてゐる。此の國際的義務とはソヴェト政府が破棄を聲明した舊條約と舊國債を承認し沒收せる私有財産を返還又は賠償せよといふ意味である。此の原則は引續き米國政府により傳統的に繼承されてゐるが、ソヴェト・ロシアは之を承認しない。

【ロシア第一革命】

「千九百〇五年革命」を見よ。

【ロシア第二革命】

「三月革命」「十月革命」を見よ。

【ロシア電化政策】

「電化問題」を見よ。

【ロシア東方商業會議所】

ソヴェト聯邦と東洋諸國との貿易關係を促進するために組織された機關、主として土耳古、波斯、アフガニスタン、支那、西藏、蒙古、等の産業的未開國に對し、各種の調査を行ひ又は經濟上の特殊關係(關稅政策の除外例、金融、信用貸等)についてソヴェト聯邦の諸機關と之等諸國の商業機關、團體、個人との間に仲介的盡力をなすことを任務とする。

【ロシアにおけるマルクス主義】

「マルクス主義とロシア」を見よ。

【ロシアの友】

各國の勞働階級の間には「ロシアから手を放せ」協會(其項參照)が組織されてゐるが、それ以外に、勞農階級にとつては階級の敵たるブルジョアや貴族の間にも「ロシアの友」がある。フランスの上院議員デ・モンジ、米國の上院外交委員長ボラー、日本の後藤子爵等は其の優なるもの。例へばデ・モンジは夙に「ロシアの友」協會を組織し佛露接近に努め、ボラーはロシア承認を絕えず提唱し、後藤子は日露の接近を熱心に說いてゐる。

【ロシア勞働組合運動】

「勞働組合運動」を見よ。

【ロスタ】

ロシア電報通信社の略稱。一九二五年までは全ソヴェト・ロシアの新聞を統一し內外に活動せるソヴェト聯邦政府の唯一の機關通信社であつたが、後に「タッス」即ち聯邦電報通信社に改造され、「ロスタ」はロシア社・聯・ソ・共和國の機關通信社の名稱となつた。ソヴェト・ロシアにおけるニュース通信機關は政府直屬の事業であつて獨占的に統一さる。

【ロチデル主義協同組合】

一八四四年イギリス北部の工場都市ロチデルにおいて最初に組織された消費組合の原理、その要點は(一)民主制度(組合員各自が一票を有する)(二)最も低き株金(三)物資の現金販賣(四)原價によらず市場相場による販賣(五)利益金の分配を株金によらず購買額によりて行ふ。プロレタリアの自營經濟主義により資本主義制度の惡より解放されるとするのが此の組合の理想である。

【ロシアから手を放せ協會】

最初、イギリスの勞働者により一九二〇年英國の對露干涉に反對して組織さる。當時イギリス政府の對露出兵を攻擊せる同國勞働運動のスローガンは「ロシアから手を放せ」といふにあつた。

【ローテ・ファネ】

ドイツ語「赤旗」の意、ドイツ共產黨の中央機關紙。一九一八年ローザ・ルクセンブルク、及びカール・リープクネヒトにより創刊さる。

ワ

【ワシントン會議】 一九二一年ワシントンに開催された軍備縮少會議、日英米三國の海軍主力艦隊の制限に關する條約を締結し所謂ゆる五・五・三の比率(英五、米五、日三)を決定した。然し補助艦空軍の制限は此の會議では成功するに至らなかつた。會議はまた太平洋問題を議し支那における各國の競爭を緩和する各種の取極めを行つた。此の會議の結果その意義を失へるものとして日英同盟は廢棄さるゝこととなつた。

第二部

ア

【アウイロフ】(ニコライ・パウロヴィチ)
全聯邦勞働組合中央評議會幹部員、一八八七年カルーガの靴工の家に生れ一八九九年同地の活版所職工となり一九〇四年以來モスクワ、ウラル等で革命運動に參加し、同八年捕はれて一〇年迄牢獄生活、一〇年末ロシア社會民主勞働黨モスクワ團體より派遣され、伊太利ボロニーの黨員學校へ留學、同一二年歸露間もなく再び捕はれシベリアのトボリスク縣へ流刑さる。翌年ロマノフ王朝三百年紀念祭の特赦にあひ、レニングラードに歸り同地ボリシェヴィキ機關紙プラウダ紙の記者となり、大戰中はエカテリノスラウリ市で活動、三度捕はれ西比利亞ナルイムスキー地方へ流刑さる。數ケ月後流刑地より脫走を企て取押へられた。三月革命後ボリシェヴィキ派のレニングラド執行委員となり同時に同地勞働組合幹部となり十一月革命に至る間大いに活動し其後一時郵電人民委員部に勤務したが、間もなく黑海艦隊のコミッサールに任ぜられ、一九二〇年以來現職に選ばる。

【アブクセンチェフ】(エヌ・デ) 一八七八年生
貴族出身、モスクワ大學卒業後社會革命黨員として重きを置かれ實行運動部の指導者。一九〇五年同黨からレニングラード・ソヴェトに參加し、同志と共に捕はれてトボリスク縣へ流刑、越へて同七年脫走して外國に亡命。大戰開始當時巴里にあつて右傾的態度を採り獨逸との戰爭、祖國擁護を主張した。一九一七年革命後歸露ケレンスキー內閣閣員となり十一月革命後は立憲民主黨等と聯盟して、反ボリシェヴィキ的活動をしたがコルチャック政權沒落後外國へ亡命、現時所謂憲法會議議員委員會派の有力なる一人。

【アクセリロード】(ペ・ベ)一八五〇年生、
最初一八七〇年代バクニン派として青年時代から革命運動に沒頭した。一度官憲に檢擧されたが逃走して外國へ亡命、プレハーノフと共に一八八三年「オスヴォボジデニエ・トゥルダー」(勞働解放團)を創立した。一九〇一年社會民主黨新聞「イスクラ」編輯同人となつたが、越えて三年、社會民主黨が第二回大會に於て分裂するやメンシェヴイキ派に

走つた。一九〇五年以後の反動革命期には社會民主黨の解散を主張し、次で清算主義の有力な指導者となつた。チンメルワルド國際大會にも列席し、レニン等の左翼に反對を唱へた。現在外國にあり共産黨に對して極力反對宣傳をやつてゐる。

【アクセリロード女史】（オーソドクス・リユボヴア・イサコウナ）一八六六年生。

一八八〇年代の中葉若き婦人の身を以てボルタフスク市の革命秘密結社に加入し一八八七年外國へ渡り巴里、スイス等にあつた。一八九〇年代の始め社會民主黨の革命運動に參加し、後にメンシェヴィキ派となつた。一九一〇年にレニングラード勞働組合中央委員に推され、其後世界戰爭の開始と共に愛國社會主義者として戰爭繼續を高唱しプレハノフ等の「エヂンストヴォ」派に加はつた。哲學並にマルクス主義に關する多くの著書を出してゐる。

【アゼフ】

有名なるロシア社會革命黨幹部にして中央委員に選ばれ其の戰鬪團體を指導せるが、一九〇八年警視廳のスパイなること曝露、逃走して今尙ほ行方不明。

【アレクサンドロフ】（ミハイル・ステパノウイチ）

一八六三年生

ウォロネジ縣の貴族、同地中學を卒へ廿歲の時レニングラード大學法科に入り、學生中既に人民の意志派に屬し、革命運動に參加、一八八五年檢擧され四ヶ月の禁錮を受け大學から放逐さる。其後再び檢擧五年間東部シベリア流刑を宣告され、此の流刑中社會民主々義者となり流刑を終へ端西に亡命、同地にあつてポリシエヴイキとしてメンシェヴィキと大いに論戰した。同年レニン、ルナチャルスキー、ウオロフスキー等と共にポリシェヴィキ機關紙「フペリョド」（進め）の編輯同人となり翌年歸國、主としてレニングラードにあつて、ポリシエヴイキ黨の組織に活動した。大戰が始まると直ぐ敗戰主義を主張し十一月革命に活動、其後共產黨中央委員會出版部を主宰し、共產黨史、十月革命史の編纂所長となる。

【アレクシンスキー】（ジー、エー）一八七九年生

コーカサスの醫家に生れ、一九〇四年モスクワ大學を卒へ在學中既に學生運動に携はり二回停學を命ぜられ、一九〇六年ロシア社會民主勞働黨に入黨し、同黨モスクワ委員會に所屬したが官憲によりモスクワ居住を禁止され、レニングラードに至り活版所の校正係を勤めた。而して同地ボ

リシェヴィキ派委員會委員に擧げられ、第二回國會開設に當つて議員となり國會解散後外國へ亡命、一九〇七——八年には機關紙「プロレタリア」並に「プラウダ」に寄稿してゐた。大戰と同時に俄かに態度を變へ愛國主義的宣傳をなし「プリズイフ」誌を發行した。「エヂンストヴォ」派に加盟し八月聯合會議にも出席した。十一月革命後外國に亡命し現在引續き反ソヴェト態度を持してゐる。

【アレクセーフ】（ピョトル）

ペテルブルグの織物工にして一八七〇年代の有名な革命家。「五十人事件」（一八七七年）に連座し辯護を拒絶し「××で垣をした强壓政治はやがて筋肉隆々たる百萬の勞働者の××××××だらう」と叫び、十年の刑に處せられ、極寒地ヤクーツクで强盜に慘殺された。

【アワネーソフ】（ア・ア）

前勞農監督人民委員長代理、最高經濟會議幹部、一八七九年農家に生れ中學をクリミヤのスタフロポリ市で卒へ後チユーリツヒ大學醫科に學ぶ。一九〇一年より革命運動に參加し、同三年ロシア社會民主勞働黨に入黨し、一九〇六年まで北部コーカサス地方で活動し一九一四年迄外國に亡命ボリシェヴィキに屬し、歸露後一九一七年十一月革命に功勞あり第二回ソヴェト大會で中央執行委員に擧げられ、その書記となり、勞農監督人民委員長代理を經て現職に移る。

【アンチポフ】（エヌ・ケー）

全聯邦勞働組合中央評議會幹部員兼共產黨モスクワ支部書記。

一八九四年被傭農民の家に生れ、モスクワ縣立工業學校を卒業し十五歲にしてレニングラード造船所、モスクワ「ダイナモ」工場等で旋盤工として働く。一九一二年ボリシェヴィキとなり、革命後市民戰當時、西部革命委員となり奮鬪した。

【アントノフ・オフセンコ】（ウラヂミル・アレクセウィチ）

チェツク、スロヴァク駐在全權代表。變名を「シトヴィク」と稱し文名を「ガリスキー」と號す。チェルニゴフ市に生れ幼年學校を經て一九〇四年レニングラド士官學校を卒業す。入學當時既に革命に志し一九〇二年社會民主黨に入黨し、同五年波蘭のノーウオ・アレクサンドリヤの軍隊一揆に加はり捕はれて投獄されたが許され、軍隊よりの代表者としてレニングラード黨務委員會に入り、翌春モスクワに於ける社會民主勞働黨軍部全露會議に列席す。同年クリミ